報告第7号

令和元年度 高島市立学校 学校評価

マキノ東小学校 …… 1
マキノ西小学校 …… 2
マキノ南小学校 …… 3
マキノ中学校 …… 4
今津東小学校 …… 5
今津北小学校 …… 6
今津中学校 …… 7
朽木東小学校 …… 8
朽木西小学校 …… 9
朽木中学校 …… 10
安曇小学校 …… 11
青柳小学校 …… 12
本庄小学校 …… 13
安曇川中学校 …… 14
高島小学校 …… 15
高島中学校 …… 16
新旭南小学校 …… 17
新旭北小学校 …… 18
湖西中学校 …… 19

（様式1）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立マキノ東小学校

学校教育目標	ふるさとを愛し　心身ともに健康で 自ら学びに挑戦する人の育成 【めざす子ども像】　○すすんで考える人（知） ○思いやりのある人（徳） ○元気にがんばる人（体）
昨年度の評価概要	・児童、保護者、教員による授業評価（年2回）における理解度、満足度 ・読書活動の推奨 ・・・ A ・家庭学習の習慣化と内容の充実、漢字検定の実施による基礎学力の定着 ・・・ B ・きめ細かな児童のみとりと個の応じた指導・支援の徹底 ・課題のある児童への組織的対応 ・・・ A ・自然教室、地域のよさを生かした活動（地域学習）や環境学習の実施 ・・・ A ・「いじめ撲滅」に向けた児童の主体的な活動の推進 ・縦割り活動（異年齢集団）の充実 ・・・ A ・フィジカルタイムや業間遊びによる体力づくりの取組の推進 ・生活リズムの確立を図る取組の推進 ・・・ B ・授業改善、いじめや不適応等の早期発見・未然防止、組織的で迅速、的確な対応、保護者・地域との信頼関係の構築 ・A ・学校評価の実施 ・学校運営協議会の開催 ・民生委員児童委員懇談会の開催 ・・・ A
中期的目標	○確かな学力をつけるための園小中一貫教育の推進と着実な積み上げ ○地域と繋がる学校の構築 ○知・徳・体のバランスの取れた児童の育成（たくましく生きる児童の育成） ○びわ湖を中心とした自然や地域と共生する力の育成 ○児童の主体性を育て、生き方を学ぶ体験的な活動の推進 ○「いじめ」「不登校」のない安心・安全な学校づくり ○教職員の授業力、指導力、課題対応力の向上

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
■学びの基となる基礎・基本の徹底と主体的・対話的で深い学びの創造 ○「学習規律」の徹底 ○「学習習慣」の確立 ○基礎・基本の確実な定着と応用力・活用力の向上 ○個の能力に応じた、きめ細かな指導・支援 ○学び合いの場で学んだことを言語化する力の向上 ○ノート指導の充実	・児童、保護者、教員による授業評価（年2回）における理解度、満足度 90%以上 ・学習規律の徹底と定着	「学校の授業がわかる」（児童肯定的評価97%保護者91%）。前期評価においても、ほぼ同様の結果が出ている。また、「話をしっかり聞いている」（児童97%）「進んで発表している」（児童89%）であった。学習規律の徹底を基盤に、自分の考えをしっかりと出し、互いの意見を認め合える集団づくりの中で、10月に入ったタブレット端末の積極的な活用等の手立てを講じながら、一人一人が活躍できる、わかりやすい授業を目指してきた。	A	A	何よりも学習規律が大事である。その上で、その授業で「つけるべき力」を一人ひとりの児童に定着させる授業をめざす。基礎基本の力と、みんなで話し合い考え合うことで身につく力の両面を伸ばす。タブレットを活用した授業についても研究を深め、児童の理解につながる活用の仕方を追究していきたい。	・新聞を活用して読解力や思考力の向上に努めることは重要である。また、パワーアップタイムについてはぜひ次年度も継続すること。 ・よくわかる授業への様々な取組が児童一人一人の学習意欲につながり、成果に結びついている。特に記述する力がよいのは、子ども新聞活用の賜物であろう。今後も確実に継続していくこと。 ・基礎基本も大切にすることと、一方で補充学習にも取り組み成果が上がるようにすること。 ・ICT機器活用については大いにしてもらいたいが、一方で悪影響の側面もあることをしっかりとおさえていきたい。 ・家庭学習については、授業での不足分や理解できていない部分を補える内容を具体的に取り入れる等の、さらなる工夫をお願いしたい。 ・個人差ににつては大変難しい課題であるが、丁寧に対応していただきたい。 ・全般に、児童の能力、生活態度、学習態度等を踏まえ、いろいろな方向から考えており、改善策等よく理解できる。家庭がいかにそれにこたえて取り組んだり、子どもに寄り添ってあげるかが問題である。
	・全国学力・学習状況調査において全国平均以上 ・パワーアップタイムによる学力の向上	算数科については全国平均を上回ったが、国語科は下回る結果となった。特に漢字の習得に課題が見られ、特に同音異義語を適切に使う力を伸ばす必要があることが明確になった。一方で、文章で記述する問題は両科ともに全国平均を上回る正答率であった。本年度からパワーアップタイムを40分間取り組み、新聞を活用し、読解力や条件に合うように書く力を伸ばしてきた。児童質問紙において、国語科・算数科共に、「教科の大切さ」や「将来に役立つか」を問う質問、「新しい問題を解いてみたい」という思いを問う質問での肯定的回答率は高かった。	A		パワーアップタイムについては、次年度も40分間の枠で実施する。低学年は基礎基本の定着に、高学年は読解力や思考力の向上に重きを置く。補充学習にも力を入れ低学力の児童の支援を確実にする。「学力向上ニュース」を発行し、パワーアップタイムの内容や取り組んでいる児童の様子等を発信してきたが、次年度も引き続き取り組む。	
	・家庭学習の習慣化と内容の充実 （456年：学年×10分・1～3年：30分） ・漢字検定の実施による基礎学力の定着 ・『家庭学習チェックカード』の活用	家庭学習を「学校からの宿題＋予習復習ノート+読書」と整理し、決まった時間取り組ませるようにしてきた。「予習復習ノート」については「手引き」を作り各家庭に配布した。個人差が見られる点が課題である。漢字検定については、実際に使える力を伸ばすべく、2学期から取り組み方を変えた。その成果はこれからであると考えるが、5年にわたって取り組んできたにもかかわらず、手ごたえがある成果がなかなか見られない点をどう考えるかは大きな課題である。	B		「予習復習ノート」は継続する。なかなか意欲的に取り組めない児童への支援を考え、手立てを打つ必要がある。漢字検定いついても一定児童の中に定着しており継続するが、どれだけの力がついてきているのかについて点検し、その都度、方法を吟味し改善を図っていくようにする。	
	・読書活動の推奨 ・読書貯金の目標達成（90%） ［1年85冊、2年90冊、3年100冊、4年50冊（内100ﾍﾟｰｼﾞ以上30冊、5．6年60冊（内100ﾍﾟｰｼﾞ以上40冊］	朝読書（週3回15分間）は、全ての学級、静かに集中して読書に取り組めている。読書貯金については、「目標達成に向けて頑張っている」（91%）であり、ほぼ達成できる状況であるが、朝読書も含め読書内容が課題である。ブックトークも全学級で計画通り実施することができた。図書室のリニューアルについては、本の廃棄作業を進めているが、次年度には完了するように進める。	B		月1回の「お話会」やブックトーク、マキノ図書館との連携等は次年度も引き続き実施する。図書室のリニューアル作業を終えるタイミングで、何か図書室と児童をつなぐ取り組みを考えていきたい。	
■地域のよさを生かした教育活動や豊かな人間関係や社会性を育む教育の推進 ○豊かな人間性、社会性を育む、自立した人づくり ○自己有用感をもつ子どもの育成 ○いじめをしない、させない、見逃さない取組の推進 ○生徒指導、教育相談の組織対応 ○読書活動の推進 ○「返事、あいさつ、くつそろえ」の取組 ○清掃活動の充実 ○異年齢集団による「縦割り活動」の充実 ○校区全域を活かした教育活動の充実 ○カヤックによる琵琶湖西岸縦断活動（自然教室）の推進	・「学校に行くのが楽しい、保護者の意見や相談の受け止め、いじめ防止の取組、仲のよい友だちがいる」の肯定的評価90%以上	児童：「学校が楽しい」肯定的評価　前期92%、後期90%、「先生に相談できる」後期76%、「先生は自分ことを考えてくれている」前期99%。 保護者：「楽しく通っている」前期97%、後期92%、「仲の良い友達がいる」前期100%・後期99%という結果となり、概ね取組指標に到達することができた。ただし、相談できると回答した割合が昨年度に比べ低くなったことは課題である。一人一人の児童を今まで以上に丁寧にみとり、積極的に支援していくことが必要である。	A	A	否定的な回答をした児童に対しては、今後もきめ細かく見守るとともに、次年度への引継ぎを確実にし、継続して支援できるようにする必要がある。次年度も、児童一人一人をきめ細かくみとり、丁寧で確実な指導、支援をしていくことで、児童との信頼関係をしっかりと構築する。	・「学校が楽しい」の肯定的評価が90%を超えており、大きな問題はないように思われる。一人一人の思いに沿い、見逃さないように申し送り、きめ細かくみとって頂いてることは大変ありがたい。今後も、心を許して話し合える時ができるようにすること。 ・自然教室では、地域の方にかなり協力頂いている。今後もどんどん地域を巻き込んでいけばよい。また、卒業生や保護者OB等々にも協力を求めていきたい。 ・あいさつについての評価は、実際との乖離が大きいと思われる。「あいさつ」「そうじ」「くつそろえ」の取組については、もう少し具体的に進めること。 ・異年齢集団での活動と、地域を学ぶことをつなげる活動、例えば異年齢のグループで、地域資源のマップ作りなど、一緒に地域を歩き、何かを作り上げる活動も一考してもらいたい。 ・全体的に、児童一人一人の思いに寄り添い、見逃さないように組織できめ細かくみとって頂いていることはありがたい。
	・自然教室（カヤック体験、浜での清掃活動等）の取組による、達成感や感動の感受、びわ湖環境保全に対する意識の高揚 ・各学年で、地域のよさを生かした活動（地域学習）や環境学習の実施	本年度の自然教室は、昨年度に引き続き、多くの地域の方の支えを頂き、天候にも恵まれ安全に実施することができた。どの児童にも活動の最後の表情からは達成感が感じられ、協力することのよさややり抜くことの大切さを学ぶ機会となり、一回り成長した姿が見られた。本活動がNHK番組で紹介された。地域のよさを生かした学習として、「地域に伝わる料理」「水鳥観察」「スキー教室」「湖岸清掃」「よし学習」等々、様々な活動ができた。	A		豊かな自然、人、ものに恵まれた本校の「つよみ」を最大限生かす活動を今後も継続する。学校だけが取り組むという姿勢ではなく、地域の学校という原点にたって、常に地域の方といっしょに取り組んでいく。今後は、いつまでも続けられる活動にするための手立てを考える必要がある。	
	・月1回の全校児童による集会活動『歌声の輪』全校合唱の取組 ・「いじめ撲滅」に向けた児童の主体的な活動の推進 ・縦割り活動（異年齢集団）の充実	単級による人間関係固定化の打破の一助となるよう、特に異年齢集団（縦割り）による活動を意図的に仕組んでいる。毎日取り組んでいる「縦割り掃除」、毎月一回の「縦割り給食・縦割り遊び」は定着している。また、運動会や「縦割りチャレンジラリー」等、様々な活動ができた。毎月1回「全校合唱の日」を設定し、全校児童で合唱している。この活動も本校ならではの取組で定着している。委員会活動等では児童が主体となる活動を意識して取り組んできた。	A		異年齢集団での活動は、今後も大切に取り組む。子どもたちに、「自分たちの学校を、自分たちの力でよりよくしていこう」という意識を高め、より主体的な活動ができるようにするために必要な手立てを模索し取り組む。	
	・「返事・あいさつ・くつそろえ」、「そうじ」の徹底した指導	「自分からあいさつできた」児童80%、保護者73%、教職員67%となった。「よくできている」と回答した割合では、さらに差が開き、児童の評価が高くなっている。掃除についても、その傾向は同じで、教職員の評価よりも児童の評価が高い。できているつもりであっても、周りから見るとまだまだであるという結果であり、昨年度の課題がそのまま残ってしまった。	B		「あいさつ」「そうじ」「くつそろえ」の取組については、学校全体が一丸となって取り組むとともに、児童自身が委員会活動等で積極的に取り組んでいこうとするようにしむけていく手立てを打つことで、子どもが学校づくりの主役になるようにする。	
■体力の向上と人間関係づくりを目指した取組の充実 ○体力づくりへの意欲を高め、目標達成を目指してがんばる児童の育成 ○集団遊びを通した人間関係づくりの推進 ○生活リズムの確立	・フィジカルタイムによる体力づくりの取組の推進 ・マラソン月間やなわとび月間の実施 ・遊びの中での人間関係づくり	週1回15分間フィジカルタイムを実施した。本年度は年間を通して「マラソン」と「なわとび」に取り組んだ。ともにカードを作成し記録していくことで、年間でどれだけ取り組めたかが残るようにした。一定期間、継続して取り組んだことは、一定体力の向上につながった。（職員自己評価90%）また、委員会活動でも「なわとび大会」「大縄大会」を開催した。	A	B	運動会やマラソン大会等の体育的行事については、暑さに対する児童の安全面を考え、開催時期や内容、実施方法について今後見直す予定である。フィジカルタイムは次年度も長休みに毎週1回実施していく。	・自宅ではなかなか体を動かすことができないと思うので、ぜひフィジカルタイムは継続してもらいたい。そこに、マラソンや縄跳びに取りを組む理由を子どもの自覚させることが大切である。 ・生活の一部として利用している部分もあるのでゲームやSNSを60分以上やっている児童の状況や、家庭内でのルールの在り方等をもう少し掘り下げて調査・分析してもらたい。
	・「早寝・早起き・朝ごはん」100%、家庭学習、歯みがきを含めた生活リズムの確立を図る取組の推進	毎月実施している「生活習慣チェック週間」では、規則正しい生活ができるように家庭学習をする時間帯、SNS、読書をした時間、就寝時刻等を記録し、保護者にもサインをもらうようにした。しかし、ゲームやSNSをしている時間が60分以内である児童は後期で68%であり、ルールを決めている家庭は児童73%、保護者88%と差が見られた。歯の受診勧告数43名（昨年度 50名）、うち受診していただいた数32名で、11名が未受診である。	B		SNSやゲームの時間については、学校だよりや保健だよりで発信したり、給会や学級懇談会の場で呼びかけたり、様々な機会を捉え粘り強く保護者に働きかける。生活習慣チェックでも、もう少し保護者に意識していただけるような工夫をしていきたい。児童自身が考える場を持つことも必要である。	
■教職員の力量の向上と保護者・地域との連携強化 教職員の力量の向上 ○「授業改善」を核とした授業力向上 ○児童をみとる力、感性を磨く ○全教職員のチーム体制での対応 保護者・地域との連携強化 ○コミュニティースクールの構築 ○学校支援ボランティア等を通した、「地域と繋がる学校」の基盤づくり	・アクティブラーニングを視野に入れた授業改善 ・授業力の向上をめざした研究授業の取組と、事後研究会の工夫 ・新学習指導要領完全実施に向けての研究推進	各学級で研究授業を実施した。算数科における「正しく読み取り、書く力」を高める授業をめざし、必要な手立てが明確になるように、一人ひとりの児童にフォカスを当てて観察し、その児童の変容から、よりよい授業の在り方を探ってきた。10月には久米央也滋賀短期大学准教授を招聘し研究を深めた。また、ICT機器活用や、特別支援教育の研修を、市教育委員会指導主事を招き研修を実施した。 ICT機器活用研修を行い、10月から導入されたタブレットを使った授業について研修を深めるとともに、各学	A	A	新学習指導要領完全実施となるが、これから問われる力をつけるべく、本校児童の課題を的確にとらえ、そのカを伸ばすべく研究を進める。ICT機器については、単にこれまでの授業・学習をICT機器を使って置き換えるということではなく、ICT機器のよさを最大限に生かし学びの質の改善につなげる。	・図書室復旧作業や運動会に地域の方に参加いただくことは素晴らしい取組である。これまで以上に地域に情報発信して、環境清掃作業や自然教室などの学校行事への参画もお願いしてもらいたい。また、学校支援ボランティアが、もっと協力できる、しやすい仕組みづくりを進めていきたい。 ・少人数の強みを生かし、担任だけでなく、全校職員で全児童をみるということは大変大切であり、ありがたい。 ・マキノ音頭が子ども園にもつながっていくのはとても素晴らしい。 ・教職員のスキルアップの取組がよくわかる。今後も継続を願う。
	・定期的に子どもの姿（いじめや不適応等）を全教職員が共有し、対応を協議する場の設定による早期発見・未然防止 ・きめ細かな児童のみとりと個に応じた指導・支援の徹底 ・課題のある児童への組織的対応 ・組織的で迅速、的確な対応を通した保護者・地域との信頼関係の構築	支援が必要な児童については校内ケース会議を開き、今の状況や今後の指導のあり方、保護者対応の進め方等について協議し、進めてきた。よりよい解決に向けて、保護者とつながりあうことを大切に、また市のスーパーバイザーや医療機関との連携も積極的に進めるようにしている。一人ひとりの児童とていねいに関わり、よさと課題を把握することで、組織で適切な指導・支援ができるようにしてきた。教育相談週間を年2回持ち、その前に児童と保護者へのアンケートを実施した。気になる回答があった時は、聞髪を入れず話を聞く等、迅速な対応を心掛けた。	A		毎週月曜日、各担任から学級の状況や気になる児童について報告し合う場を持っている。次年度も引き続き実施し、全職員で情報を共有し、より迅速な対応ができるようにする。すべての児童が「困ったときには教職員に相談できる」と思えるように、関係づくりを大切にする。少人数のつよみを生かし、担任だけではなく全教職員で全児童をみるようにする。	
	・学校評価の実施（年2回） ・学校運営協議会の開催（年5回） ・民生委員児童委員懇談会の開催	年2回の学校評価を実施。その結果を様々な教育活動の参考とした。本年度も「マキノ音頭」には多くの方々が参加していただくことができた。今後も継続させていきたい。学校運営協議会では、暑さ対策やNHKの放送等だけでなく、本校の課題となる点についても協議していただいた。図書室リニューアルに係る研修を実施した。	B		「マキノ音頭」については東子ども園の園児に6年生が教えに行くといった機会をもち、園小にわたって取り組める活動にしていく。評価で否定的な回答をした児童への支援については、次年度に確実に引継ぎ継続していくようにする。	
	・学校、学級、保健便り、ホームページの月1回以上の発行、更新	学校だより、学級だより、保健だよりについては随時発行できた。 保護者評価：「お便り等で学校や子どもの様子を把握できている」前期98%、後期96%。長期間更新できていなかったホームページについては、3学期中に更新する。	A		児童の頑張る姿や、生活の様子を伝える手段の一つとしてお便りを発信していく。また、生活リズムなど、保護者の方の協力を必要とすることについても積極的に発信していく。	

学校関係者評価	総　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	学校運営協議会での協議から、学校が様々な取組の柱に児童を据えいることがよくわかる。児童ファーストの姿勢は高く評価する。そのうえで、以下のことについて、さらに取り組むこと。地域の誇りであり、宝である学校に大いに期待を寄せている。 ○学習面では、興味・関心、好奇心や向上心が湧くような楽しい授業を心掛けてほしい。 ○自然教室に代表されるように、地域のよさを生かした取組ができている。今後も地域とともに育ち学べる学校であってほしい。 ○教員のさらなるスキルアップを目指し、保護者、地域とうまく連携しながら適切に学校運営を進めていただきたい。 ○学校と家庭が一体となった生活習慣の改善が必要である。 ○学校運営協議会委員と教職員が話し合い、コミュニケーションを持てる機会を設定してもらいたい。	A	「知」「徳」「体」のバランスが取れた教育を展開する。本校の「つよみ」を最大限に生かした教育活動を展開する中で、児童の可能性を信じ、一人一人が輝く学校づくりを強力に推進する。その際には、地域の学校という視点から、地域の思いをしっかりと共有し、そのために何が必要なのかを学校と地域が協議する中で、同じ方向性もって進めていく。そのために、地域とのつながりを質量ともに今以上に向上させる。 自然教室は、本校の核となる行事として、さらに地域を巻き込んだ形にしていく。学習面、生活面共に、一人一人の児童が授業や学校づくりの主役になれるようにするて なお、次年度の運営協議会委員は日中の会議でも参加して頂けるの可能性があるので、全教職員との話し合いの場を持つのみならず、授業参観や児童の様子を参観してもらう機会をもつ。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式1）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立マキノ西小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
最高教育理念 **自ら鍛え自ら学ぶたくましさと** **人や自然と共生するやさしさをもった人の育成** **校訓** **「明るく、元気に、励む子」** **地域とともにある学校** ～つながり響き合う教育の実践～	・先生方と保護者、普段学校とかかわりのない地域住民がいかに学校の様子を知り、関われるようにいろいろな行事を通して考えてくださっていることもわかりました。なかなか参加できないのも現実ですが、引き続き考え計画してくださることをお願いする。 ・市内では、最も早くから放課後子ども教室を実行され、そのおかげで児童と地域住民とのつながりが自然によくなっている。田んぼの学校の校長先生や読み聞かせなど開かれた学校を推進しようという心意気が嬉しく思う。他の学校の見本となるよう頑張ってほしい。 ・教育目標の実現に向けて先生方がさまざまな努力を重ねてくださっていることがわかる一年であった。児童の成長のためにも西小学区、マキノ町の良さや課題を地域住民も真剣に考える必要があると考えている。 ・児童についてはきめ細かな対応をしていただいていると思うが、全般において家庭との連携が不可欠と思われるのでこれまで以上に連携を深めてほしい。普段の児童の様子がわからない者にとっては、学習発表会やスキー教室など児童の様子が見られる機会をつくっていただいたのはとてもありがたかった。それぞれの担任とは話す機会がないため今後そんな機会もつくってほしい。 ・保護者の協力が必要な項目は、達成率が低くなるのは仕方がないと思うが、おおむね目標に近づく活動内容、結果であり、たいへん良いと思う。 ・学校運営協議会で指摘したことをすぐに改善していただいている。	○子どもの姿で勝負するプロ（教職員） ・保護者・地域の期待に応える ・小規模のよさを生かし、課題を克服する経営 ○自らの成長を感じ自信が持てる（児童） ・魅力ある楽しい教育活動、体験活動 ・集団力、自己肯定感の向上 ○学校・地域と課題と目標を共有する（地域） ・地域の核となる学校づくり ・語り合いつながり合う人間関係の醸成

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
明るい子 ○地域の人から生き方を学ぶ ○共生する力を育み生き方を学ぶ学習の推進 ○絆を深める集団づくり仲間づくり ○なかよし学級と共に歩む	地域に学ぶ体験学習実施　100%	1年：学校周辺、2年：校区、3年：市内&水プロ、4年：県内&森林、5年：米作り、6年：福祉　地域人材を活用した授業が積極的に実施できた。	A	A	関わっていただく方を広げていく。キャリア教育とも関連付けていく。	・体験活動、ゆめカード等で工夫した教育をされていると思う。 ・「挨拶、返事、靴そろえ」は各家庭との協力が必要な項目であると思うので引き続き啓発活動をして頂きたい。 ・地域の方々に対する挨拶や協力など良い点が多い。 ・整理整頓については、今後も指導が必要。 ・声を出して挨拶はできても相手の顔を見ての挨拶ができる子供さんは少ないようだ。せっかくの挨拶が逆効果になってならないよう家庭内での教育が必要と思う。 ・地域の方々とふれ合い学ぶ活動が大きな成果を上げていると思う。（体験学習、学習発表会等）
	夢・志をもつ子(夢カード活用)　100%	活用100%全児童が現時点での夢を抱いて頑張ろうとしている。 夢をかなえるために自ら努力している子…82%	A		「夢カード」を定期的に記入できるように担当者から指示をしていく。行事とのかかわりを深める。	
	明るい声で挨拶をする子　100%	児童…96%　保護者…88%　昨年度より親子とも評価が高くなった。 地域の方のからもよい評価を聞くようになった。	A		継続指導。地域でも広く啓発し、指導を進めていく。を進めていく。	
	大きな声で返事をする子　100%	児童…93%　保護者…83%　昨年同様、学校と家庭での様子が違うことがうかがえる。	A		継続的な指導を行い、保護者へも啓発する。	
	靴そろえを意識する子　100%	児童…85%　保護者…48%　昨年度より保護者の評価が下がり、さらに家庭との協働が必要になっている。	B		継続的に指導し、家庭でのしつけとして保護者にも啓発する。	
元気な子 ○体力向上・運動習慣確立 ○生活習慣確立 ○食育推進 ○いじめ・不登校ゼロの実践	10分間運動に進んで取り組む子　100%	放課後体力作り10分間運動（健やかﾀｲﾑ）への取組は、全児童が積極的に行っている。毎日元気に遊ぶ児童…82%	A	B	健やかタイムの内容の充実と天気の良い日は外遊びを促す。	・「先生にどんなことでも相談できるか」との質問にD評価の児童の声を聞いて欲しい。 ・学校での指導は良いと思う。 ・保護者、家庭との連携が必要な項目が多いので各家庭への啓発活動を引き続きして頂きたい。 ・スマホやゲームにはまる子供たちを減らすために特徴的なスポーツを進めればよい。 ・やむ負えないところもあるがインフルエンザの流行で学級閉鎖は残念なところです。免疫力の低下が懸念される。 ・良い生活習慣を身に着けるために、家庭の理解や支援が何よりも必要です。子どもたち自身が成長とともにそのことを理解できるようになればと思う。
	早寝する子　早起きする子　100%	早寝　児童…73%　保護者…67% 早起き　児童…66%　保護者…49% 朝ごはんについては 児童…96%　保護者…99%	B		保護者への啓発と学級活動で担任や養護教諭等から生活習慣の改善の指導を行う。	
	ｹﾞｰﾑﾃﾚﾋﾞ2時間以内　100%	児童…73%　保護者…47%　大きな課題となっており、さらに改善が必要である。	C		PTAと連携し、ノースクリーンデーの取組やスマホ等の研修会を実施する。	
	歯科受診率　100%	69名中、受診勧告を27名に発行。　70.4%　19名/27名（3月1日時点） 引き続き保護者への啓発が必要である。	B		治療勧告後の早期受診へ向けて保護者個々への声かけを行う。	
	いじめ・生活アンケート活用　100%	教育相談週間および子どもを語る会等　100% 保護者面談・関係機関との連携　等	A		無記名のアンケートを活用する。	
励む子 ○基礎学力・学習習慣の定着 ○魅力、喜びのある授業 ○授業改善 ICT活用授業 図書室活用授業 外国語活動 ○読書の質の向上	マ西漢字に喜んで取り組む子　100%	児童…100%　取組に個人差がある。	A	A	担任が個々へ声かけを行い、めざす級へ目標を決めて取り組むようにする。	・インプットに加え、アウトプットできる機会を増やして欲しい。異年齢集団で、例えば、地域資源のマップづくりなど一緒に地域を歩き、何かを一緒に作りあげるような協働の取組もして欲しい。 ・学校での取組は良いと思います。PTA、ひびきあいと協力し啓発活動に努めていただきたい。 ・同級生で共通の本を読み、話し合えばよいのではないか。 ・おおむねよい。 ・図書室の充実に取り組み、知識の向上が図れたと思う。 ・パソコンを活用して早く何でも調べられるようになった。本を読み、必要な時間をかけて探し出したりする活動は古いかもしれないが、読書習慣は学力のベースになる。継続した指導が必要である。
	家庭学習毎日10分×学年以上	年5回「家庭学習がんばろう週間」　100% 普段の取組　児童…80%　保護者…72%　微増	A		児童のよい実践事例を紹介し、みんなで取り組める工夫を行う。	
	「家読」月一回実施（年間10回）	よく読書をしている　児童…58%　保護者…42%　大きく減少 家庭によって実践していただくところとの差が大きい。	C		PTAひびきあい活動との連携を図る。 (強化月間設定や図書だよりとの連動)	
	読書の質を向上させる取組	1～3年生100冊、4～6年80冊　上学年は冊数よりも質を高める。 マキノ図書館より出張貸し出し　外部からの補助金により書籍の購入	B		学力向上と関連づけ、家族とともに「家読」に取り組むことの啓発を行う。	
	学習が楽しいと思える子　100%	児童…83%　保護者…84%　昨年度より増加している。	A		授業改善のために定期的に研修を行う。（OJT研修）	
地域とともにある学校 ○学校運営協議会の組織確立、運営 ○PTA活動の充実 小中一貫教育の推進 ○「小中一貫教育の日」の推進	年間5回の学校運営協議会の開催・協議	7名の委員に地域学校協働活動推進員を含め協議を重ねた。100%	B	A	教職員の関りを増やしていく。	・ボランティア募集ができたことは良かった。CS、学運協の理解が教師、委員、保護者に必要。 ・ホームページは、マキノ地区の協働活動のホームページを使ってはどうか。 ・学校だより等こまめに発行されており、学校の様子もわかりやすいので続けていただきたい。 ・地域との協力、1～6年の縦のつながりの良さはマ西小の強さではないか。 ・スポーツクラブ等で地区の運動会に参加できなかった児童がおられたことには残念だった。地域での行事も考え直す時期になっているようで地域でも保護者との連携を深めていきたい。 ・地域に開かれた学校を目指してさまざまな機会を設け努力していただいていることにありがたいなあと感じます。みんなで目指す子ども像を共有していくことが大切である。
	保護者が学校へ来る機会月1回以上	学校開放学習参観日 ひびきあい活動 懇談会 行事等 100%	A		現状維持	
	学校だより月1回発行/学年だより・保健だより発行/HP随時更新	学校だよりについては各区へ区長様を通じて各家庭へ回覧し、関係機関へ配布し、ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞにも掲載した。100%	A		学校だよりは、改善を図りながら月1回の発行とし、ホームページの充実を図る。	
	「小中一貫教育の日」共同授業研究システムの実施	年2回の授業に本校から2つの学年で実施。教員は、全員参加。	A		中学校区の小中一貫教育担当校（南小）を中心に改善していく。	
	小中一貫教育全員研修会への積極的な参加	年3回の研修会に積極的に参加し、取り組みの担当者や提案者を受け持つ。	A		管内の小学校や中学校の教職員との交流を深める機会として意識し研修を深める。	

学校関係者評価	総　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・児童数の減少や地域住民の高齢化など西小学区の課題も多い中、「地域とともにある学校」を目指してさまざまな取組をしていただいている。子どもたちのたくましさ、やさしさを見守り、支えていく上で先生方のご尽力に加えて、保護者・家庭との連携をいっそう深めることや地域住民の協力が今後とも必要になっていくと思う。 ・本校児童の一番いいところは、団体的な行動や活動に一致団結して取り組む姿勢である。学年毎の発表会は仲間同士が助け合い、運動会等の縦割りでの活動は、高学年は低学年のことを思い、低学年は高学年を見習い、良い雰囲気の中で学校生活が過ごせていると思っている。 ・地域との協力はよい。自然学習における環境はすばらしい。ゲームとスマホは、自由にさせすぎではないか。少人数学級の他校（高島市内）や小中一貫校（高島学園）に学ぶのを始めるべきである。リスクを含むチャレンジをさせることには躊躇があるのではないか（山、川、湖）。遮るだけでなく時間を決めてやらせるのはどうか？（早寝・早起きを含め）　様々な問題を聞いた。 ・学校での先生方の活動は、目標に向けて工夫、努力されている。各家庭との連携、協力が必要な項目が多いので啓発活動等、引き続きPTA、ひびきあいと協力していただきたい。 ・地域に開かれた学校を目指され、おだやかな地域の下でとても素直に明るく育っている。地域の人々を取り込んで学習しようという考えは核家族化で薄れていく人間関係を取り戻すためにも素晴らしいと考える。 ・先生方は、各々に頑張っていただいていると思うが、目標達成には多様な方々の協力が不可欠だということを基本に少しずつでよいので取組を進めていただきたい。子どもたちも社会に出ても協働の取組が必要になってくると思うので多様な主体で一緒に考え、作り出すようなきっかけになる取組をもっていただけたらと思う。 ・家読が減少したというのが残念です。マキノ図書館には、興味を引く図書が少ないのでしょうか。他の図書館からの出張貸し出しも増やしていただけるとよいのかもしれない。図書館にも子ども向け図書の充実をお願いできればと思う。	A	・読書の推進については、図書室を活用した授業を取り入れるなど書籍による調べ学習の機会をもつようにする。また、本校だけの課題でないので「マキノ中学校区園小中一貫教育」の中で一つの課題として話し合っていく機会をもつ。 ・児童が地域や校内で大きな声で相手に正対して挨拶ができるよう、地域住民や保護者とともに協働で指導に努めていく。 ・新しい学習指導要領に本格実施となり、授業時数も確保しつつ体験的な活動を維持して新しい取組にも挑戦していく。 ・すでにさまざまな場面で多くの地域の方にお世話になり活動に取り組んではいるが、新しい支援者の発掘を行い関り人口を増やすために地域学校協働活動推進員と連携していく。 ・ゲームやスマホの使用など、学校だけでは解決していかない課題に対しては、PTA役員やひびきあい委員とともに話し合う中で児童の健全な育成について同じ方向を向いて取組を進めていく。 ・今後、若手教員の増加が想定されるので、ICT活用やプログラミング、外国語などOJT研修により指導力を高めていくことを定期的に進めていく。 ・ホームページについては、市のサーバーが新しくなったため統一されたシステムが構築されるまではこれまでの取組のようにする。しかし、頻度を増やしていけるように工夫していく。

4段階評定（A　目標を十分に達成　B　ほぼ目標を達成　C　やや不十分　D　改善を要する）

（様式１）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立マキノ南小学校

学校教育目標

「ともに学び心豊かでたくましい児童の育成」のもとに
知・徳・体の調和のとれた児童を育てる

【目指す学校像】
- ○ 人権を守り、夢と希望を育む学校
- ○ 誰もが自分の力を発揮できる学校
- ○ 保護者から信頼される安心・安全な学校
- ○ 地域の誇りとなる学校（地域と共にある学校）

【めざす子ども像】
- ○ よく考える子
- ○ なかよくはげむ子
- ○ たくましい子

昨年度の評価概要

◎ 児童・保護者評価

○ よく考える子	B	学習理解 A	授業改善 B	家庭学習 B	読書習慣 C
○ なかよくはげむ子	A	体験活動 A	いじめ防止 A	あいさつ B	規範意識 A
○ たくましい子	B	体力向上 B	健康な生活 B	安全な生活 B	やり抜く力 B
○ 学校の対応	A	情報提供 A	方針説明 B	子ども理解 A	信頼関係 A

◎ 学校・傾斜評価
- ○ 学力アップ B
- ○ 心アップ A
- ○ 体力アップ A
- ○ 教職員の指導力アップ A
- ○ 保護者・地域との連携アップ B

中期的目標

◎ 学び深く（学力アップ）
- ○知的好奇心を高め、自主的、主体的に学ぶ態度を育成する。
- ○わかる、できる、考える楽しさが味わえる授業づくり
- ○学習規律、学習習慣の確立（宿題の出し方、評価の工夫、読書）
- ○中一貫教育：園校種の枠組みを越えた授業研究や実践交流

◎ 笑顔あふれ（心アップ）
- ○いのち・人権・人とのつながりによる居心地の良い学校づくり
- ○豊かな人間性、社会性（特別でない特別支援教育、キャリア教育）

◎ 健やかに（元気アップ）
- ○「運動好き」にすること、「動ける体」の基礎をつくること
- ○安全を確保することのできる知識・技能・態度を身に付けさせる

◎ 教師の力量アップ（学び合う教職員集団）
◎ 保護者、地域との連携アップ（協働、相互参画による教育活動の充実）

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価		改善方策	学校関係者評価
◎ 学び深く（学力アップ） ○ 全員参加の授業づくり（授業改善） ・ 知的好奇心を高め、自主的、主体的に学ぶ態度の育成（ＩＣＴ機器の活用など） ・ 教科の特性や学習の内容に応じた多様な学習活動の工夫 ○ 基礎・基本の定着 ・ 学ぶ力向上策の実施、つけたい力の明確化 授業のユニバーサルデザイン化 ○ 学習規律、学習習慣の確立 ・ 「聴く力」「話す力」「伝え合う力」の育成 ・ 学習環境の整備 ・ 宿題の改革、読書指導 ○ 幼小中との連携 ・ 園校種の枠組みを越えた授業研究や実践交流	○ 授業改善 ※ 授業の理解度、満足度への評価 90%以上 ※ 指導の工夫、授業改善への評価 90%以上 ※ 多様な学習活動の工夫	○ 授業改善、全員参加の授業づくりへの職員の意識は高く、ＩＣＴ機器を効果的に活用したり、導入や発問を工夫したり、達成感を味わえる授業づくりに努めた（職員評価100%）。 ○ 授業の理解度、満足度については、保護者、児童評価ともに90%以上であった。 ○ 学習規律は身についているが、学ぶ意識、知的好奇心、自己表現に課題がある。	A	A	○ 今学んでいることが将来につながっているという意識を育む。 ○ 全員参加の授業のため、導入の工夫、発表したくなるための発問、学び場の工夫等、教師の仕掛けをさらに充実させていく。 ○ 「読み解く力」「書く力」の向上を目指した授業改善に取り組む。	○ 児童の自主性、自発的な学習を支援する姿、きめ細やかな指導を心がけていることがわかる。小規模校の強みを生かし、先生方が子どもたちの「自分で考え、行動する力」を導く姿勢を続けて欲しい。 ○ ＩＣＴの積極的な使用、活用が認められる。拡大して提示するだけでなく大型モニターの性能を生かした使い方ができると良い。 ○ 授業改善については、現在の努力を継続、推進して欲しい。子どもたちの「わからない」を生かし、考えながら理解させる授業にしてほしい。 ○ 「ジャンプアップ週間」はある意味惰性で続けている印象があり、子どもも保護者も「やらされている感」がある。めあての設定や振り返り等、担任の先生の熱心な関りがあることを知ったが、保護者にしっかり伝えていくことが大切である。 ○ 宿題は家庭学習の習慣化という点で、当たり前のものと捉えがちだが、より授業に集中できるためのものとして、形を変えることも大切である。 ○ 小中一貫教育は、教職員のみならず小、中の学校運営協議会も合同で開催したい。新しい視点や発想が生まれるほか、地域ぐるみの連携効果も期待きる。ぜひ検討して欲しい。
	○ 基礎・基本の定着 ※ 全国学力・学習状況調査　全国平均以上 ※ きめ細やかな指導、対応への評価 90%以上 ※ 学ぶ力向上策の実施、つけたい力の明確化	○ 全国学力学習状況調査の結果、国語、算数ともに全国平均を大きく上回ったが、個人差がが大きい現状がある。また、目的や課題に応じて「読むこと」「書くこと」、「考えをまとめる力」に弱さがある。言語活動、読書活動の充実が課題となっている。 ○ きめ細やかな指導への保護者評価が90%以下であり、個に応じた手立てが課題である。	A		○ 全ての教科で、言語の役割を踏まえた言語活動の充実を図る。 ○ 個に応じた指導を充実させるため、児童の「わからない」を大切にする授業、考える楽しさを味わえる授業を目指す。 ○ 担任外、外部人材を活用し、放課後補充教室を充実させる。	
	○ 学習習慣の確立 ※ 家庭学習の習慣化、宿題の出し方等への評価 90%以上 ※ ジャンプアップ週間、学び方マスター週間への評価 90%以上 ※ 聴き合う教室づくり	○ 家庭学習の習慣化、宿題の出し方の工夫については、児童、保護者、教師とも90%以下となった。「自分で計画を立てて勉強する」「授業と家庭学習のつながり」が課題である。 ○ 読書環境を整え、本に触れる機会を増やすことに努めたが十分な成果が見られなかった。 ○ ジャンプアップ週間、学び方マスター週間のねらいが十分に理解されていない現状がある。	B		○ 宿題の出し方や評価を工夫し、達成感が持てるよう改善していく。 ○ 授業と家庭学習がつながるように予習を意識させていく。 ○ 児童が自然に本に手にとれるよう授業で積極的に図書室を活用する ○ 家庭学習の習慣化に向けての取組のＰＤＣＡサイクルを徹底する。	
	○ マキノ中学校区小中一貫教育の推進 ※ メリットや可能性を実現する取組の実施 ○ マキノ西こども園との連携の強化 ※ 学びに向かう力推進事業を生かした取り組みの充実	○ めざす15歳の子ども姿を改めて確認し、教員の指導力の向上、学力保障のための小中合同の授業づくりに努めた。中学校との滑らかな接続を意識して取り組むことができた。 ○ 学びに向かう力推進事業の指定校として、西こども園と連携し、児童と園児の交流だけでなく、職員の積極的な交流を行った。成果と課題を共有し、滑らかな就学につなげられた。	B		○ マキノ中学校区小中一貫教育の取組を中心に、小小連携、小中連携を図り、ともに学力向上に取り組んでいた。 ○ 小学校間の児童の交流、教師の連携による滑らかな接続を実現する ○ 学びに向かう力推進事業の成果を生か幼小の連携を強めていく。	
◎ 笑顔あふれ（心アップ） ○ いのち・人権・人とのつながり ・ 居心地の良い学級づくり ・ いじめをゆるさない学校づくり ・ 特別の教科「道徳」、人権教育の充実 ○ 豊かな人間性、社会性を育む ・ 自己肯定感をもつ児童の育成 ・ 聴き合う教室づくり ・ 認め合い、学び合い、高め合う学年・学校、集団づくり（自分を生かす） ・ キャリア教育の充実 役割や責任を果たし、役に立つ喜びを体得 ○ 特別でない特別支援教育の推進 ・ 児童を見取り、「困り感」に寄り添い、児童にとって一番良い方法を考え対応する ○ 凡事徹底の学校風土の構築 ・ 将来にわたって必ず身に付けておかなければならないことの指導を徹底 ・ 当たり前のことが当たり前にできる子	○ いじめをゆるさない学校づくり ※ 「学校が楽しい」への評価 90%以上 ※ 「いじめのない学校づくり」への評価 90%以上 ※ 教育相談の充実、生徒指導の組織的な対応	○ 「学校が楽しい」については児童が90%以下となった。保護者、職員の評価は90%以上だが昨年度より低下した。「魅力ある学校づくり」への取組を充実させたい。 ○ 「いじめのない学校づくり」については児童が100%、保護者が95%であった。学校全体で情報を共有し、チームで取り組む生徒指導、丁寧な対応に取り組んできた成果と考える。	A	B	○ 一人ひとりが活躍できる場面を増やすことに努め、居場所があり、やりがいのある楽しい学校づくりを実現する。 ○ 「報告、連絡、相談、記録」の徹底、情報と対応策の共有を図り、組織的な対応を堅持し、児童、保護者の安心感につなげる。	○ 「いじめはどんなものでも許されない」を今後も徹底した指導をする。 ○ 「学校が楽しい」については、子ども、親、教師それぞれの「楽しい」の捉え方が違う。視点、観点をすり合わせてもよいのでは。 ○ 学校生活の中での触れ合う全ての事柄で。優しさ、温かさ、大切さ等について互いに感じ合える心を育てて欲しい。 ○ いじめや道徳については地域の力を借りてもよい。理想と現実の乖離、大人の世界にも問題がある等、地域の大人、高齢者の体験を聞くことで、子ども達の心も育つと思われる。 ○ 高学年による読み聞かせ等、心温まる風景が多くあった。素直で、心穏やかな子どもが多く、良い環境が整っている。 ○ 小学校時代に肯定され、受け入れられた子どもは「強さ」を合わせ持つと思う。関わる大人たちが子どもの成長を見守り「待つ」姿勢でいることは素晴らしいことだと思う。 ○ 児童と保護者との関係の良さが見て取れた。児童の自主性も生かされ、伝統の継承、経験と充実感、満足感が得られていると思う。 ○ 少人数であるが故のきめ細やかな対応、「報連相」の徹底、児童の人権個性を認めたうえの指導がなされている。 ○ 凡事徹底の学校風土にむけ、何事も平凡なことがはじまりであるとの認識を共有し、指導を継続する。
	○ 豊かな人間性、社会性を育む ※ 思いやりの心の育成への評価 90%以上 ※ 支持的な学級づくりへの評価 90%以上 ※ 聴き合う教室の実現、自尊感情を高める	○ 「思いやりの心の育成」は、児童、保護者とも95%以上、「支持的な学級づくり」は児童は95%、保護者は90%を超えた。自尊感情、自己肯定感の高まり、「みんなでがんばる」という互いを認め合う関係が育ってきていると考えられる。 ○ 意図的に人を傷つける言動をとる等、人との関わり方に課題のある児童がいる。	B		○ 集団の中で自分の役割を果たす達成感を味わわせ、互いを認め合う関係づくり、励まし合う絆づくり、児童による児童のための活動、多様な人々との関わりを通して、思いやりの心を育てる。 ○ 聴き合う教室づくりを目指し、自己表現できる児童を増やす。	
	○ 道徳教育、人権教育の充実 ※ 道徳の授業改善、人権教育の研修 ※ 子どもの発言や行動に敏感になり、人権意識を高める	○ 研修会に積極的に参加し、研修で学んだことを生かし、児童の現状に合った題材を取り入れたり、ロールプレイ、ワークシートを活用したりして、道徳の授業改善に努めた。 ○ 学級で人権スローガンを考えたり、全校道徳を実施したり、人権意識の向上に努めたが、目に見えての効果が見られず、自分自身の問題として捉え、向き合うことが課題である。	B		○ 「教師は児童の人権感覚を育てる重要な他者である」という認識を持ち、支え合う温かな人間関係を基本とした学級経営に努める。 ○ 答えが１つではない道徳的課題を、児童が自分自身の問題と捉え、課題に向き合い、思いを交流できる授業づくりに努める。	
	○ 学校行事、体験活動、特別支援教育の充実 ※ 学校行事、体験活動への評価 90%以上 ※ 自己有用感と自己肯定感を育むへの評価 90%以上 ※ 教育のユニバーサルデザイン化	○ 「学校行事、体験活動」「自己有用感と自己肯定感を育む」については児童、保護者とも95%以上の高評価となった。自分の役割を意識させ、見通しを持たせることを重視したことで、自立意識と社会性の育成につながったと考えている。 ○ 教育のユニバーサルデザイン化は意識できてきたが、児童にはまだ浸透していない。	B		○ キャリア教育の視点を特別活動、各教科に生かし主体性を育てる。 ○ 「任せる」意味を全職員が共有し、自分の意志・判断によって、自ら責任をもって行動できる児童を育てる。 ○ どの子にも優しく、地域に、未来につなぐ教育の実現に努める。	
	○ 凡事徹底の学校風土 ※ しっかりあいさつができる子への評価 90%以上 ※ 範意識向上への評価 90%以上 ※ 当たり前のことが当たり前にできる子	○ 当たり前のことが当たり前にできる児童は多いが、決まりやルールをあまり守れていないと答えた児童が昨年より10ポイント増えた。指導と評価について検討すべき事案である。 ○ あいさつは、地域、保護者から「できていない」という指摘が続いている。気持ちの良いあいさつについてしっかり考えさせていきたい。	B		○ 「凡事徹底はまず教師から」をスローガンとして、児童に望む姿を教師が見せることで、自ら気づく姿勢を育む。 ○ 「望ましい姿」を児童と共有し、児童会の取組を活性化させる。 ○ 全職員が同じ歩調で粘り強く指導し、適切な評価を行う。	
◎ 健やかに（元気アップ） ○ 魅力ある体育授業の工夫改善 ○ 保健・安全教育の充実 ・ 生活リズムを確立 「早寝・早起き・朝ご飯」 ・ 命を守る安全意識の向上 ・ 健康、体力向上を意識できる子を育てる	○ 魅力ある体育授業、体育的行事 ※ 体力の向上、運動への親しみへの評価 90%以上 ※ やり抜く力の育成への評価 90%以上 ※ 体育授業の工夫改善	○ 「体力の向上、運動への親しみ」「やり抜く力」についての児童の自己評価が高く、学年部体育の実施、場の工夫、めあての重視等、体育授業、行事の改善の効果が見られた。 ○ 保護者評価は90%以下であった。学校の取組についてアピール不足も原因と考えられる。 ○ できないから挑戦しない、失敗したくない等、苦手意識を持つ児童への指導が課題である。	B	B	○ 学年部体育を継続し、個別の目標を重視し、個々の伸びに着目した指導を工夫し、児童の挑戦意欲、やり抜く力を育む。 ○ 運動をすることの楽しさや必要性を理解できる取組を進め、児童の体力向上につなげていく。	○ 身体を動かすことの意義、必要性、簡単にできる方法等については興味のある保護者も多いと思う。親への情報提供、啓発も有効ではないか。 ○ 地域の方の経験を活用した体育授業を検討しては。 ○ 体育授業で体を動かす楽しさを感じさせることが外遊びにつながる。 ○ 遊びのレパートリーを増やす取組も大切では。 ○ 給食試食会に参加し、食事風景や準備、後始末の様子を見せてもらったが、指導が行き届いており、自分の役割をしっかり果たせていた。 ○ 基本的な生活習慣、早寝早起き朝ごはん等、これからも継続して指導、保護者への啓発を続けて欲しい。 ○ 「自分の身体は自分で守る。人は他人の身体を守ることができない」ことをしっかり指導し、安全について考え、判断できる子を育てて欲しい。
	○ 健康への意識向上 ※ 健康に気をつけて生活することへの評価 90%以上 ※ 食に関する指導への評価 90%以上	○ 家庭の協力もあり、早寝早起き朝ごはん、規則正しい生活習慣はほぼついている。また、養護教諭と連携した保健指導、健康指導の結果、児童の健康への意識が向上してきた。 ○ 栄養ボードの継続、給食クイズ等の仕掛け、講師を招いての食育指導を実施してきた。 ○ 睡眠指導、時間の使い方を意識させるなど、生活リズムについての指導に取り組んだ。	A		○ 健康の基本となる生活習慣を自ら進んで見直すことができるような働きかけを継続し、時間を管理することの大切さに気づかせる。 ○ バランスの良い食事の大切さ、マナー、食事を通した人間関係、食文化等について各教科の中でも指導する。	
	○ 安全への意識向上 ※ 安全に関する指導への評価 90%以上 ※ 学校全体の危機意識・危機対応力を高める	○ 「非常時に適切な行動がとれる」と答えた児童は95%以上、保護者評価も昨年度より10ポイント高くなる等、避難訓練の事前、事後指導、日々の安全指導の成果が出ている。 ○ 職員の「危機管理」の意識は昨年度より向上したが、児童自身が判断し、行動することについては、指導がまだ十分ではない。危機管理マニュアルの活用が課題である。	B		○ 危機管理を理解し、意識化、行動化まで高める研修を実施し、様々な事態に素早く対応できる機動的な組織を編成する。 ○ 全ての学校教育活動を通して、計画的、継続的に安全教育、安全指導を実施し、児童の危機管理意識の向上に努める。	
◎ 教職員の力量アップ ○ 学び続ける姿勢と学び合う教職員集団 ○ 「チーム」で勝負する教職員集団 ・ 授業改善を核とした授業力向上 ・ 児童を見取る力、感性を磨く ・ 人権意識高揚のための研修の充実 ◎ 保護者、地域との連携アップ ○ 地域とともにある学校 （コミュニティースクールの立ち上げ） ・ 目指す児童像の共有 ・ 地域資源の発掘、活用	○ 資質向上、学び続ける姿勢 ※ 授業力向上を目指した研究授業の取り組み ※ 学級経営力、学校運営への参画意識の向上 ※ ＯＪＴ研修の充実	○ 「学び続ける教員像の確立」を学校経営計画に位置づけ、職員会、打合せなどの時間を有効に使い、機会あるごとに周知徹底した。職員室での学び合いにつながってきた。 ○ 児童の姿に焦点を当てて研究を進めることができた。授業力向上への意識が高くなった。 ○ 6年次研修に合わせ、G-OJTに取り組んだが、時間を生み出せず、回数も十分でなかった。	A	A	○ 学校の課題や目標を共有し、一人ひとりが学校の取組に前向きに関わり、学校運営への参画意識の向上を図る。 ○ 困ったことを相談しあえる研修、ニーズに合った今必要な研修、自ら学ぶ研修等、職員が主体となったＯＪＴ研修を実現する。	○ 資質向上、よりよい学校づくり等、終わりの見えない仕事であるが、子どもとともに学び続ける姿勢を継続してほしい。 ○ 小規模校であり、全職員が共通理解のもと、全ての子どもを見守る態勢情報共有が整っており、とても頼もしく感じる。継続することで、先生の「ゆとり」が生まれることを期待している。 ○ これからも小規模校であるメリットを最大限に生かしてほしい。 ○ ＨＰがよく更新されてる。引き続きタイムリーな更新をお願いする。 ○ 保護者は職員の「顔」や「人となり」が伝わる情報を求めている。地域と学校の心理的な距離を狭める取組をお願いしたい。 ○ 本年度から学校支援ボランティアの活動が始まった。子どもたちを見守る目が増えたことは、子ども達だけでなく地域の未来にも光を与える。今年まいた種が少しずつ大きくなることを楽しみにしている。 ○ 地域住民の学校への思い、愛情は素晴らしいものがあることを感じた。地域のマンパワーを更に得られることを望む。
	○ 児童を見取る力の向上 ※ 相談できる教師、相談できる学校への評価 90%以上 ※ 一人で抱え込まない、報連相＆記録 ※ 組織対応力の向上	○ 「相談できる教師、相談できる学校」への評価は、児童、保護者とも90%を超えた。引き続き高い評価を得られるよう、「ともに子どもを育てる」思いを共有していきたい。 ○ 担任が一人で抱え込まないように、学校全体で情報を共有し、チーム取り組む生徒指導につなげ丁寧な対応ができた。大事にならないための初期対応にも心がけてきた。	A		○ 小規模校の良さを生かし、全職員で全児童を見守る体制を続ける。 ○ 教育相談タイムを継続するとともに、日々の働きかけを重視し、児童との信頼関係を強め、話しやすい、相談しやすい環境をつくる。 ○ 保護者の学校、教師への期待を知り、誠実に対応を心がける。	
	○ 保護者の信頼にこたえる学校づくり ※ めざす学校像、子ども像の共有への評価 90%以上 ※ 情報提供への評価 90%以上	○ 「めざす学校像、子ども像の共有」「情報提供」の評価はともに95%以上であった。家庭との連絡を密にし、「思いを聴く」ことを重視してきた成果と考えている。 ○ 学校だより、学級だより、保健だより、図書だよりを随時発行できた。今年はホームページの更新を定期的に実施できたこともあり、情報提供の機会が広がった。	A		○ タイムリーな情報提供となるようＨＰの更新、学校だより、学級だより、保健だより等の定期的な発行を継続する。 ○ 玄関ホールの学校の取組を紹介する掲示、学級の様子を知らせる教室掲示を充実させる。	
	○ 地域とともにある学校づくり ※ 協働、相互参画による教育活動の充実 ※ 地域人材、素材の発掘、活用	○ 学校運営協議会委員との懇談を繰り返し、学校の強み、弱み、目指す子ども像、学校像を共有するとともに、学校と地域でできることを確認することができた。 ○ 今年度より学校支援ボランティアを募集し、教育活動への支援を行ってもらっている。地域の方に来ていただくことで、児童の学習態度が前向きになってきた。	B		○ 学校運営協議会委員との熟議を継続し、教育課題への取組を地域とともに考え、実行する体制を充実させる。 ○ ボランティア募集を継続し地域人材、地域素材を学習に取り入れ、地域の力を学校運営に活かす取組を充実させる。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	○小規模校であり、多様な考え方に触れる機会が少なくなりがちというデメリットがあるが、学校全体で児童の掌握が容易であること、一人ひとりの個性や特性に応じた教育活動がしやすいという長所を活かし、個々の能力や適性を伸ばしてほしい。 ○自己評価で「B」となっているところは、本来家庭や地域がもっと役割を発揮する分野でもある。家庭や地域による「学校応援団」が定着していくことが望ましい。学校支援ボランティアの取組は、その第一歩として大きな前進であった。 ○理想の学びは、学びの主体者である子どもが楽しさを感じることと思う。授業改善に継続して取り組んで欲しい。教室の学び、教室外の学び、地域とともに学ぶことをうまくかみ合わせてほしい。 ○教師、保護者、地域の方々、年齢の近い学生等、子どもへの距離感、見る角度によって子どもの捉え方は異なる。子ども達がいろいろな姿を持っていることがわかった。これからも多くの目で子どもを見守り、その良さを発揮させたい。	B	◎ 小規模校のよさを生かした「学び」のある学校　～どの子にも優しく、地域に、未来につなぐ学校教育の推進～ ○わかる、できる、考える楽しさが味わえる全員参加の授業を全職員でめざす。そのために、基礎基本の定着、自主的・主体的に学ぶ姿勢を育むとともに、魅力ある課題設定、発問の工夫等の教師のしかけ、本物か学ぶ体験活動を重視して、子どもの可能性を広げていく ○豊かな言葉かけができる児童、将来の夢や希望を語れる児童を育てるため、安心して挑戦できる環境を重視する。自分も友達も大切にできる人間関係の基盤づくりのため、いじめのない学校づくりを子どもたちと一緒に取り組んでいく。また、凡事徹底の学校風土の構築を引き続き重視していく。 ○自分の健康、体力に関心を持ち、自分の命を自分で守る意識を高めるための健康・安全教育を充実させ、自分で判断、行動できる力を育む。また、最後までやり切る力の育成を重視していく。 ○「学校・家庭・地域がつながり、地域の宝である子どもを守り育てる」ために、「育てたい子ども像」を学校、保護者、地域で共有するとともに、地域人材、地域素材を生かした教育活動を充実させる。 ○「学び続ける教員像」の確立、「学校運営への参画意識」の向上を図り、小規模校の良さを生かした「学び」を創造する。

（様式１）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立今津東小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
心身共に健全で 創造性豊かな子の育成	<H30学校評価（自己評価）> （児童）「勉強がわかりできる」の割合　自信をもってできる50% （教員）わかる授業72%、生活習慣ルール指導80%、人権教育80% （保護者）地域行事参加74%、ゲームテレビのきまり58%、家庭学習の習慣化72% （学運協）地域保護者への協力依頼とともに、根気強い指導を期待。	<中期的目標（H28～R1）> ○言語能力の向上を図り、正しい用語による論理的な表現力の育成を図る。 ○成就感や達成感を高める行事の工夫と連帯感や充実感を深める学級づくり ○すこやかタイムの定着と保健安全指導の工夫

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
（かんがえ） 基礎学力の定着と読み解く力の育成	「勉強がわかり、できる」の児童の評価90%以上。	「勉強がわかり、できる」に対する児童の評価は、81.6%。「子どもがよく分かると思う授業をする」教員の評価は、94%。教員が自己評価するほど、子どもたちに達成感を与えることができていない。	B	B	児童の評価については、職員会議で確認し合った。結果を真摯に受け止め、いっそうの分かる授業づくりに心がける。	・改善方策にあげられた内容を、次年度は徹底されるようにお願いしたい。 ・基礎学力の定着に加えて、読み解く力が身につけば、学力は自ずと身につく。 ・タブレットの使用状況はどのようなものか。
	思いや考えを書く学習を、毎日１回以上実施する（字数やキーワードなどの条件付き）。	書く学習の重要性は認識しているが、条件付きの文づくりを継続して取り組むことは徹底できていない。全国学力・学習状況調査や学びの基礎チャレンジなどの平均値も県や全国に比べて低い。	B		学びの基礎チャレンジの結果を分析し、ガッテン!プリントを使って書く力を高める取組を継続して行う。	
	「ICTを活用した授業に取り組んでいる」教員の割合90%以上。	「ICTを活用した授業に取り組んでいる」教員の割合は、74%と目標に届いていない。しかし、タブレットが導入された後は、多くの教員が授業で活用し、児童のスキルも高まっている。	B		タブレットの活用を引き続き行うとともに、校務支援システムの効果的な利用について研修を深める。	
（おもいやり） 豊かな心と人間性の醸成	「学校に来るのが楽しい」の児童の評価90%以上。	「学校に来るのが楽しい」に対する児童の評価は、77.2%。いじめアンケートや教育相談期間による面談などで、個々の児童の気持ちを知るとともに、学校生活を充実させるため、学級やたてわり集団による集団づくりに取り組んできた。	B	B	①個別のみとり②安心安全な学校・集団づくり、を取組の柱として、子どもたちの心情に寄りそった指導を継続していく。	・今を生きる子どもたちに、「おもいやり」の心を育てることはとても重要。そのためには、学習班ばかりでなく、生活班を生かす活動も大事にしてほしい。 ・地域学校協働活動（はなまる広場）と、学校の学活や総合の学習をどうマッチングさせ、おもいやりにつなぐのか。 ・いじめアンケートはどこまで実態がとらえられているのか。答えにくい質問であったり、いじめの実態をとらえにくいものだったりしないか。市統一の質問事項に加え、学校独自の項目を加えることも考えてほしい。
	校内人権の日に、教員が交代で人権啓発のメッセージを伝える。	人権教育主任が作成した原稿をもとに、毎月の校内人権の日に、教員が交代でメッセージを伝えてきた。放送を聞いた後に、学級指導を行い、児童の実態に応じた説話を担任が行っている。	A		人権にかかわる身近な話題から、児童が生活や自分自身を振り返るよい機会となっている。継続的に取り組みたい。	
	「学校はいじめ問題に誠実に取り組んでいる」の保護者評価75%以上。	「学校はいじめ問題に誠実に取り組んでいる」に対する保護者の評価は、80.9%。ただし、回答の内訳は、「どちらかと言えばそう思う」が74%であり、明確に学校の取組を高評価していただいたものではない。	B		学校の取組が分かるような啓発・広報活動とともに、保護者や子どもの相談に真摯に応えられるようにしていくことが肝要である。	
	適時適切な教育相談を行い、課題解決に努める。	学校生活アンケートを基に個別面談実施週間を実施し、いじめの早期発見と児童の個別理解に努めた。	B		教育相談担当を核として、今後も計画的にアンケートを実施し、いじめについての危機意識を持ちながら児童理解に努める。	
（たくましい子） 体力・気力を培う活動の推進	「すこやかタイムをはじめ、教育活動全般で体力づくりを図る」の教職員の自己評価90%以上。	教職員の自己評価は、82.4%。校内マラソン大会では、事前に一斉練習の時間を設けて、それぞれに自己目標を持たせて取り組んだ。また、ボランティアの力を借り、試走も本番同様に行うことで意欲付けをした。	B	B	マラソンや縄跳びなど、全校での取組を継続して行うとともに、普段から全員での外遊びの指導に努める。	・「たくましさ＝生活力・自立する力」と考える。単に、体力や気力にとどまらず、広げて考えていくことが望ましい。 ・基本的な生活習慣のチェックを保護者に協力してもらって行う。それを集計して、学力との相関関係でとらえることも必要だろう。 ・かつては、児童会の役員選挙があった。そこに向けたいろいろな取組から学ぶことも多かったように思う。
	健康で安全な生活を意識させる指導の工夫。	フッ素洗口（１～3年生で実施）や年間指導計画に位置付けた学校保健教育・安全教育を計画的に実施した。また、避難訓練は、火災や地震、不審者対応などを想定して実施し、児童に身の守り方を学習させることができた。	A		避難訓練の計画的な実施とともに、校内生活における安全指導では、特に廊下歩行と外遊びの注意などに重点的に取り組む。	
	縦割り活動や児童会活動を通じて効果的な集団作りを行う。	縦割り活動や児童会活動等を通した、集団づくりに対する教職員の自己評価は、83.3%であった。運動会や秋祭りなどの行事に加えて、6年生をそうじリーダーにすることで、リーダーとしての自覚が芽生えた。	B		東っ子秋祭りなど、児童が企画運営する行事を教師が丁寧に指導することで、自治的意識を高める。	
	「早寝早起き朝ごはんを家族で実施している」保護者の割合90%以上。	「早寝早起き朝ごはんを家族で実施している」に対する保護者の評価は、86.1%と高かった。学校では、食に関する指導全体計画の中に朝ごはんの必要性を位置づけ、栄養教諭と養護教諭が連携して指導を実施した。	B		児童への指導とともに、保護者への啓発が必要である。PTAと連携して取組を進めたい。	
地域を愛する子の育成	地域学習を年間計画に位置付け、各学年とも年１回以上実施する。	今年も、低学年の地域たんけんや3年生の柿農家、4年生の淡海湖やサロンでの交流、5年生の米作りやしめ縄づくり、6年生の茶の湯や平和学習など、地域に出かけて見聞したり講師を招いて学習したりしてきた。	A	A	これまでの地域学習を継続させながら、令和2年度から始まる新学習指導要領に合わせた地域素材の発掘も併せて行っていく。	・地域のさまざまな活動（例：はなの道の澤田さんたちの取組）に、子どもも出向いて一緒に活動できることも考えてはどうだろう。 ・子どもが地域行事に参加するような声かけを学校もしてほしい。また、教職員も地域に出かけていく姿勢を忘れないようにしてほしい。
	保護者や地域との密接な連携と効果的な発信を行う。	学校運営協議会による学校運営への参画や「はなまる広場」による学校支援、主体的なPTA活動など、連携は進んでいる。広報活動は、学校だよりや学年・学級だよりを読んでいるという保護者は92.1%と率は高い。	A		学校運営協議会で承認された経営方針を具現化すべく、PTAやはなまる広場の支援を受けながら、より一層地域とのつながりを深めていく。	
学びあう教職員	教職員が一丸となり、共通の課題に向かい、ともに高まろうとする教職員集団をめざす。	学年および学年部等では同僚性があり、温かい雰囲気がある。授業研究会では活発な協議を重ねてきた。	B	B	学校全体として、一丸となれるよう、より一層学校目標に向けて個々の力を発揮していく。	・学校の教職員は一枚岩になって、学校運営や教育活動に取り組めているか。
	小中一貫教育における共同授業研究の学びを、授業改善や学習規律の確保につなげる。	今津中学校区において、年2回の統一研修日を設け、部会別研修や共同授業研究等の教員研修を実施した。また、小から中への滑らかな接続のために「ようこそ先輩事業」や中学校での授業体験を行った。	B		高島市小中一貫教育カリキュラムを活用した学習指導を行うとともに、一貫教育の特色が出るよう、小小、小中での取組みを工夫する。	

学校関係者評価	総　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	○学校教育目標は、学校運営協議会の中で熟議を重ねながら、学校の取組を評価してきた。「思いやりのある子・ふかく考える子・強くたくましい子」という目標は、まだ地域の中に浸透しているとは言えない。引き続き、地域への発信に努めてほしい。 ○達成状況をもとに、次年度の改善方策が示されたが、教職員で共有し、その実現に努めてほしい。 ○タブレットの導入により、多くの教員が授業で活用したり、児童のスキルも高まっているというのは心強い。タブレットを使いこなすことが目標ではないので、ぜひそれを学力向上につなげられるように、工夫を続けていくことをお願いしたい。 ○たくましさが、体育や運動面から論じられることが多かったが、そうではなく、もっと広義にとらえて、生活力や自立する力と考えて取り組みを進めてはどうだろう。 ○自分たちが子どものころは、班活動が盛んで、生活班主体の取組を通して、思いやりや助け合いの気持ちが育まれてきたように思う。 ○総合的な学習に、地域の人を多く招いて学びを深めてほしい。また、教職員が地域に出向く・地域から学ぶことを大事にしてほしい。	B	○令和2年度の学校教育目標と、5つの評価項目（指導力点）は、今年度を引き継ぐ内容で承認していただいた。ただ、そのやり方は、令和元年度の踏襲ではなく、改善方策を具現化していくことを条件に認められたものである。 ○学校教育目標が保護者や地域住民にとって認知度が低い（あまり知られていない）ことから、もっと分かりやすい文言に変えていこうとの意見も頂戴した。そのため、学校運営協議会委員には全員留任していただき、令和2年度の熟議を経て、みんなの学校教育目標を生み出していくことになった。令和5年に迎える学校創立150周年には、新しい目標がみんなのものとなるように、広報活動や取組内容に工夫を凝らす必要がある。 ○タブレットを使った授業やプログラミング教育、ICT教育の現状については、授業参観や授業公開日を設けて、保護者や地域の方に知ってもらうことが理解を深めることになる。学校運営協議会でも、参観の機会を設けたい。 ○たくましさを、生活力や自立する力（生きる力）ととらえなおし、改めて教育のあらゆる場面で生きる力の育成に努めたい。 ○児童の地域行事への参加、教職員の協力については意識改革を行い、積極的に関わっていけるように工夫したい。

4段階評定（A　目標を十分に達成　B　ほぼ目標を達成　C　やや不十分　D　改善を要する）

（様式１）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立今津北小学校

学校教育目標	すすんで　やさしく　たくましく 人を思いやる豊かな心と自ら学ぶ意欲を持ち、ふるさとを愛する心身ともにたくましい子どもの育成

昨年度の評価概要	・学力の向上について、学習の習慣化を図るとともに、家庭学習の充実を図るため、学校と家庭の連携を強めて一体となって取り組めるようにする。そしてお互いが根気よく指導・支援を継続する。 ・いじめ等の防止に向けて、日常的な情報把握に努め、児童のいじめについての認識を高める指導を進める。いじめなっしー集会や道徳の時間を効果的に使って人権意識を高める。 ・保護者の根強い協力体制があるというものの、時代の移り変わりにより保護者の生活状況も変化して生きている。様々な方法により、保護者の学校の思いを伝えて協力してもらうことは大切なことである。学校でやるべきことは何かを種々の機会をとおして家庭や地域に発信していくことが大事である。 ・地域学習を地域と連携してこれまで以上に進めて、地域を愛する心情を培っていく。

中期目標	・学力の基礎基本の定着を図り、自分の考えたことを表現につなげる。 ・行事を通して成就感や自己存在感を深める学級づくり。 ・日頃から健康と体力を高めようとする意欲を育てる保健・安全　指導の展開。 ・地域の特色を知り、ふるさとを愛する心情の育成。

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
学びあう子の育成のための力点 ◎ 考えたことを話し合い、言葉を工夫して表現する学習活動の工夫 ◎主体的な学びにつながる、わかる授業の実践 ◎ICTの活用	・「授業が分かる」と回答する児童 ・・・85%以上	どの学年も基礎基本の学習を大切にして授業を実施している。児童、保護者ともにわかると回答している。	B	B	教員に経験差があり、指導技術についての研究や相談をすることで指導力を高める。基礎基本の徹底方法や授業に関心意欲を持たせる工夫などの交流。	・日常的にグループ学習を授業の中に取り入れるようにすること。そのなかで、意見を発表する場面と聞く場面を明確にすることで、児童にも活動内容がわかりやすいと思われる。また、自分の意見をあまり表に出さない児童もいることを想定して意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけてほしい。 ・文章問題に苦手意識を持つ児童が少なからずいることから、問題をしっかりと読み、学習活動が理解できているかを全体で確認する習慣が必要であろう。 ・家庭学習の定着を図るために、家庭の協力をえられるように働きかけること。該当学年の家庭学習時間に相当する宿題を出すことと家庭でチェックをしてもらう。
	・家庭学習時間の定着化 ・・・20分（1，2年生） 10分×学年（3年生以上）	年度初めは6割程度の達成状況であったが、2学期には学習時間が増えたとの回答があった。確実に取り組めている児童とそうでない児童の差は大きい。	B		家庭学習に対する意識を共通のものとして、課題を設定する。自主学習の方法について工夫をするとともに家庭にも協力を依頼する。	
	・話し合いを取り入れた学習活動 主体的・対話的で、深い学びの実現 各教科で単元のまとめ等で随時実施	日頃の授業では基礎基本の学習を中心として進めているため、話し合いの活動は場が限られている。校内研究のテーマであり、教科や単元設定をして集中して意識的に取り組んだ。	C		ペア学習やグループ学習を低学年から取り組むことで日常化する。学年が上がるにつれて話し合い活動で問題解決や意見提案ができるよう指導する。	
	◎ICTを使った学習活動 ・情報機器の効果的な使い方について各教科の学習活動を通じて学ぶ	タブレット導入により、意欲的に学習に取り組む様子が見られた。活用状況は学年により差が見られた。	B		年間指導計画のなかに使用教科及び単元を明確にする。また効果的な活用方法について実践例に基づき校内研修をする。	
豊かな心を育むための力点 ◎いのち・人権を大切に ◎いじめをなくそう	◎いのち・人権・思いやり ①やさしい言葉をかけられた経験 85%以上	普段から荒々しい言葉を使う児童が多い。進んで友だちの仕事を助けたり相手を思いやる行動ができる児童も見られる。仲良くしている姿はあるが、一部児童の言動により行動が左右されている。	C	C	引き続いて根気強く丁寧に指導を続けていく。児童の呼び方や日ごろの話し方、言葉遣いなど意識することで人権を尊重する環境をつくる。	・言葉遣いについての指導は学校と家庭が連携して指導する必要がある。人権感覚を磨くのには、一部の取組だけでは容易にできるものではない。学校、家庭、地域が同一歩調で取り組む必要がある。大人も子どもも相手のことを適切な言葉遣いができるようになることが必要である。 ・あいさつは大人が根気よく子どもたちに声をかけていくこと。普通にあいさつができるようになるには時間がかかると思われるが、地域が一体となって取り組むことが必要である。学校内では、多くの子どもたちからあいさつをしてくれるので、大人の気持ちが変わることで子どもたちにも広く伝わっているものと考える。
	◎いじめのない学校づくり ①学校が楽しいと回答できる児童 90%以上	学校評価アンケートでは、「いじめがある」と回答されるが、学校が楽しいと回答する児童も多い。2学期にはいじめが減ったとの回答があり、一定の指導の成果と捉える。	B		いじめアンケートや教育相談を活用して個々の思いを聞き取る。自己有用感を高める学級での取り組みや道徳の授業の工夫をする。	
	◎いじめのない学校づくり ②場にあったあいさつがしっかりとできる 85%以上	登下校中にスクールガードや教員へあいさつをする児童は多いが、登校班によっては無言で通過するところもみられる。下学年の児童や少人数でいる時には、あいさつがしっかりとできる児童も多い。	C		児童会を中心にあいさつ運動やPTA活動を連携させて地域が一体となって運動を起こす。教職員の日頃から手本となるようなあいさつを意識的に実践する。	
健やかなからだづくりのための力点 ◎体を動かすこと・外遊びの奨励と環境整備 ◎体力づくりの推進 自らの健康に関心を持ち、健康な毎日を送るための保健指導を推進	◎児童の体力向上への意欲を高める 授業づくりや運動環境の工夫 ①外遊びをする子　85%以上	運動場や体育館など、時間にゆとりがある場合は体を動かして遊ぶ児童が多い。	B	B	運動への意識は高いが手洗いやうがいなど健康維持管理の意識を高める工夫をすることも必要である。	・運動をする機会を今後も継続して計画していってほしい。 ・冬季には、運動をする場所が限られてくるので、安全でなおかつ一定の運動量が確保できる企画を検討していただきたい。 ・健康管理を児童一人ひとりが意識できるように、感染病防止に行っている手洗いやうがい、休み時間などの換気の指導の徹底をしてほしい。
	②運動が好きと答える児童 95%以上	ミニ運動会や学級遊び（長休みの利用）の推奨により、運動をする機会が増えている。	A		休み時間に読書や絵を描くことで心の安定を図る児童もいることを理解して、学級遊びの企画をして機会を設定する。	
	昼休みを利用した児童会の企画（なわとび大会やドッジボール大会）で体力増進の機会を設定	児童会体育委員会の企画により、全校的な取組となった。また運動場が使えない時期は体育館の使用について約束を決めて冬場の運動量確保ができた。	B		夏休みの「早寝早起き朝ごはん」の取組がPTAで行われていることを年間活動の取組とすることも体力増進・健康維持管理につながる。保健室との連携をとることも必要。	
地域とともにある学校 ◎地域の教材の効果的活用と、地域人材からの学ぶ場を創出する 小中一貫教育の推進 ◎発達段階に応じた学習規範の統一 ◎小中教員による授業づくり	学校運営協議会 ・学校と地域のつながりについて、場面や方法について協議し、地域の学校づくりを推進する	学校運営協議会は、委員の方から貴重な意見をいただける場となっている。地域の実態に合った外部人材活用の方法や学習環境を支える方策などの具体的な動きには繋げられなかった。	B	B	外部人材の活用については年間指導計画に明記して、連絡調整を行い、深まりのある授業として単元を構成していく。	・地域とのつながりの方法として、左義長や運動会、資源回収、環境整備作業などの行事に地域の方との活動が考えられる。 ・郷土料理の調理実習や地域探索などで地域とのつながりが可能となるので、年間計画のなかで検討してほしい。 ・日常的に、長休みや昼休みなどで地域の方とのつながる機会と場所を設定してほしい。
	小中合同による授業づくり ・協働授業研究を機会として、学区内の児童生徒の学力状況や学習課題 にせまる。	小中一貫教育の日を学区内で設定したことは、研修や実践交流は教師一人ひとりのこととして意識化できた。部会での話し合いから出てきた課題について共有できていない。	B		統一研修日の授業にかかる事前協議がぎりぎりであるため、十分な検討がないままとなっている。地域の児童生徒をどのように育てるのかの共通理解の場を持つことを進言していく。	

学校関係者評価	総　　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・今の学校がやるべきことが多く、また教育課程が新しくなったことでより教師ばかりでなく子どもにとっても多忙感があるように思われる。学校では、時代のニーズにあったことを教育課程に組み入れてやらなければならないが子どもが学びに向かう姿勢を育てる基本的なスタイルは崩すことなく取り組んでいただきたい。そのかなで学校でやるべきこととかていでやるべきこととを様々な機会をとおして発信していくことが大事である。 ・親がわが子に関わるのと同様に、地域の大人が地域の子に適切に関わることが重要であり、地域全体で子育てを進めていくという認識を広めることで、豊かな心を育み、いじめをなくす取組にもつながっていくものと考えらえる。 ・地域と保護者の協力なしには今の学校を維持していくことは難しい状況にあることから、コミュニティスクールとしての在り方を地域にも発信をしていき、共に学校づくり、子育てを進めていくことことが大切であろう。	B	・学習の習慣化を図るために、家庭学習の充実を図るため、学校と家庭の連携を強めて一体となって取り組めるようにする。そしてお互いが根気よく指導・支援を継続する。 ・あいさつをする習慣を定着させることで人との好ましい人間関係づくりをする。いじめ防止につながる取組の第一歩であるとと捉えて地域とともに進めていく。 ・運動好きな子どもづくりを継続するとともに、自らの健康と安全にも気を配れるように、日頃の指導を徹底する。 ・地域とつながる場面をこれまで以上に設定して、学習だけでなく様々な場面で地域の方とふれあい、地域を愛する心情を培っていく。PTAや学校運営協議会から地域への呼びかけを行い、地域の学校として全教職員が取組を推進する。

4段階評定（A　目標を十分に達成　B　ほぼ目標を達成　C　やや不十分　D　改善を要する）

（様式1）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立朽木東小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
『心身ともにたくましく、ふる里を愛する人間性豊かな　子どもの育成』 なかよく　たっしゃで　きばる子 （共生）　（自立）　（創造） 徳　体　知	学校関係者評価　B ・全般的に色々と工夫して学校経営や授業改善にチャレンジされていて、大変良い。 ・園小中学校の連携がよくできていて、異年齢の子どもたちが諸活動や交流を通して、温かく優しい心を育んでいると感じた。地域団体や関係機関とも結びついている。スポーツデーは校種の枠を超えて地域に開き、盛況で来校者が増えて大成功であった。地域文化祭へ学校音楽会が参入する新たな取組もよく、双方向の行き来が始まったと感じた。つながりひびきあう教育の第一歩が踏み出せている。 ・学校目標達成に向けて特色をうまくアピールして学習発表会につなげていた。6学年間のふるさと学習の集大成として、体験活動と連動した積極的な取組であった。学校力と教員の指導力が高く、どの子も堂々と大きな声で発表することができていた。今後も少人数を生かした「わかる授業」「楽しい学校」を目指し、自信をもって相手に考えを伝える子どもの育成をしてほしい。	1. 地域とともにある学校を目指す ＋『夢』『志』をもって学び合う学校づくりをする ・中学校区保幼小中一貫教育6年目　・コミュニティースクール2年目 ・スポーツデー第2回＆朽木文化祭参加　・学習発表会第2回の開催 2. 授業改善・指導力を向上し、新学習指導要領につなぐ ・道徳・外国語・ICT機器活用・学び合いに重点を置いた授業改善・授業研究 ・地区でキャリア教育に取り組み、「くっつき愛シート」を全学年つないで実施 3.「気づき・考え・行動する」子に「伝える」場を与えて、プレゼン力の伸長を促進 （コミュニケーション力の育成）

	評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
なかよく（徳）	**①仲間・集団づくり** ・心に響く道徳授業 ・絆を深め認め合う集団づくり ・特別活動・縦割活動の工夫	保護者への道徳授業公開　（2回／年間） 小中学校で水曜1～2校時を「道徳」の時間として、計画通り進める	学校開放日外に2学期・3学期に自由参観として実施できた　100% どの学年も年間計画に従って、心をはぐくむ道徳授業を展開できている	A	A	朽木中学校区で「特別の教科道徳」の研究会を持つとともに水曜朝に一斉に授業実践を積み効果的であった。次年度も同様に取り組むとよい。児童発表の場を複数回/年持てるよう工夫する。	地域とともにある学校・学び合う学校を目指して、積極的に工夫して取り組み生き生きとした児童の姿が見られる。道徳授業は教員の工夫が認められ効果は上がっている。授業公開予定を保護者へ早目に知らせるとよい。学習発表会は伝える姿勢がとてもよかった。福祉教育は児童に印象深くよい取組である。①②③全項目における「聴く」をさらに進めるとよい。
		児童集会での個人発表機会　（1回／年間）	始業式・終業式後の児童集会において、年間1回以上実施100% 児童は大きな声で堂々と発表　聞く姿勢態度もよく受容的な雰囲気	A			
	②共生する力・生き方学習継続 ・『オグラスプロジェクト』 ・特色ある地域学習の継承発展 ・森林・田んぼ・自然体験活動	(低学年)稚鮎放流・川に学ぶ学習・町探検（中学年)・森林学習・どんぐりプロジェクト（高学年)オグラス登山　米作り　随時実施	各学年部とも予定通り実施　100% 企業・地域連携や保護者ボランティアも活用して実施	A		朽木ならではのふるさと学習を充実し継続する。学習発表の場を例年3学期に設定し、児童のプレゼン能力発表力を伸ばす場とし、1年間の学習活動における作成物を掲示・展示するようにする。	
		キャリア教育に繋ぐ学習発表機会（1回／年間　3学期実施）	2/7全校が一堂に会し各学年1年間の学びをタブレットを活用して発表 学校開放日として保護者地域の方が多数参観　高評価を得る	A			
	③特別支援教育・福祉教育推進 ・個別支援計画による指導相談 ・保護者・専門的関係機関連携 ・障がい児(者)理解教育推進	福祉教育計画的実施(社協連携)　（各学年1単元／年間）	社会福祉協議会と連携を図り有意義に展開　100% 1年入門 2年聴覚障害 3年手話 4年視覚障害 5年ボランティア 6年高齢者	A		子どもの立場に立った支援・相談体制と各種機関との連携をさらに図る。いじめや虐待等事案への対応連携ができる組織であり続けられるよう、体制を強化する。	
		学級づくり　アンケート「いじめ許さない」意識（100%） 「いじめゼロ」児童集会・意見発表（毎学期）	「いじめ仲間外れをしない・いけないことだ」　児童98%　保護者98% 児童集会中学校区連携取組　校内放送を使った意見発表　100%	A			
たっしゃで（体）	**④命を大事にする環境づくり** ・命の学習・安全教育取組 ・教育相談週間計画実施 ・ｱﾝｹｰﾄ等調査結果の活用	『命の授業』2・4・6年　『ストップいじめ講話』高学年（1回／年） 安全集会・避難訓練　（4回／年）	計画に従ってすべて完遂　安全への意思が高まっている 「子どもの健康や安全確保を考慮した教育活動展開」　保護者95%	A	B	「学校が楽しい」と思えない子や保護者への個別相談・支援にあたる。 各種調査記述内容に即応した聞き取り面談対応を引き続き適宜実施する。	児童が元気に登校し規則正しい生活が送れている事が基本として大切で、安心安全の確保が保護者とともにできている。挨拶は目標には届かないが「自分から」はかなりできている。スポーツデーは大成功で一貫教育の成果が如実でレベルアップしている。外遊びの声がよく響いているが「みんな遊び」の様子が詳しく知りたい。命の学習は全学年実施するとよい。
		「学校が楽しい」と思う児童　（100%） アンケート調査結果活用　結果即指導対応ケース会議　随時	「学校は楽しい」　児童90%　保護者88% 教育相談週間には児童一人一人とゆっくり話す機会を持てた	B			
	⑤生活習慣確立・食育推進 ・『NO!メディアウィーク』 ・『早寝 早起き 朝ごはん』 ・保健学習・食育指導の充実	『NO!メディアウィーク』の 工夫実施・中学校区取組（100%）	8年目取組としてシートを改訂工夫して実施　回収率　100% 「早寝早起きに気をつけて生活している」　児童93%　保護者86%	B		中学校定期考査とリンクしたノーメディア取組がマンネリ化しないよう取り組む。次年度PTA研修会も家庭教育・心身の健康・子育てをテーマにして開催する方向で検討協議する。	
		栄養教諭による食育指導　（各学年　100%） 朝食摂食率　（100%）	担当栄養教諭とのTT指導により、計画的に指導できた　100% 「毎日朝ご飯をしっかり食べる」朝食摂食率　児童100%保護者100%	A			
	⑥体力向上策の継続 ・『健やかタイム』の充実 ・苦手種目克服・技能習得 ・みんな遊び・外遊びの奨励	地区小中学校スポーツデー　（大成功） 放課後健やかタイムの実施　（4回／週）	6月1日に第2回スポーツデーを開催　課題種目の工夫で大成功 健やかタイムは元気に展開実施　「体力づくりをがんばった」児童90%	A		スポーツデーの成果と課題をもとに次年度案を立案協議し始めている。児童生徒の思いを中心に据え地域とともによりよいものにしていく必要がある。「できる」技が増える喜びを共有していく。	
		運動場であそぶ機会の増加　みんな遊び(1回／毎週) 苦手種目の克服　（「できる」を増やす）	毎週水曜昼休み「みんな遊び」を児童自らが相談して計画　楽しく実施 逆上がり・竹馬・一輪車等できる種目を増やそうと積極的に取り組めた	A			
きばる（知）	**⑦学力向上のための授業改善** ・「学び合い」授業の追究 ・課題解決的な学習の確立 ・高学年一部教科担任制	「授業が楽しい」「勉強がわかる」児童（100%）	「勉強は楽しい」　児童88%　「勉強はよくわかる」 児童97% 「授業がわかりやすく工夫されている」　保護者97%	B	B	少人数ならではの良さを今後も生かして、個別指導を取り入れながら児童の持ち味を引き出すカリキュラムマネジメント学習指導を追究していく。 6年三者懇談は評判が良く今後も継続実施する。	ICT機器タブレット活用授業にも児童が楽しく意欲的に取り組んでおり、やる気や学習意欲が向上している。一人ひとりにきめ細やかな指導ができており、学力向上が期待できる。教育活動に工夫した指導があり効果をあげている。図書貸出の様子や読書量アップはとてもよい。予習が理解を深めると思うので、家庭学習のやり方をさらに工夫してほしい。
		学力調査・確認テスト結果活用（6年三者懇談・個別懇談会実施）	学力調査結果を全職員で分析し、学ぶ力向上対策に生かしている 6年学学調査4年学力テストに成果が出ている　面談で随時指導	A			
	⑧指導方法の工夫 ・ICT機器活用授業 ・外国語活動・道徳指導の工夫 ・朝学習の充実（朽東漢字検定等）	ICT機器等を活用した授業　（毎日）	教科・学習活動や学年に応じて毎日効果的にタブレットを活用100% その他ICT機器はどの教室でも毎日活用　遠隔操作にもチャレンジ	A		市内先進校としてICT機器タブレット等を活用した授業改善に自信をもって取り組み実績を蓄積する。漢字検定は翌日再テスト合格できるようなしくみを継続していく。	
		朽木東小漢字検定の実施・朝読書の定着(15分／毎日)	火曜朝学習で全学年漢字検定(10～1級→初段～10段) 全児童が非常に意欲的に取り組んでいる	B			
	⑨学習規律確立・学習習慣定着 ・家庭学習「10分×学年」以上 ・朝読書朝学習補習授業BUT ・図書貸出冊数増(図書ｻﾛﾝ活用)	家庭学習時間10分×学年　（95%以上）	「家庭学習にしっかり取り組めた」児童93%　「自主学習の工夫取組」児童83%　「進んで家庭学習に取り組んだ」保護者71%	B		宿題や自主学習を真面目に熱心にやっている児童がほとんどであるが、予復習のやり方が中学校に確実につながるような指導を工夫する。ゲームスマホ時間増加が気になる。家庭連携が必要。	
		読書量の増加　（1・2年）180冊／年　（3年)120冊／年 （4年)100冊／年　（5・6年)80冊／年　以上	2学期末1年56%2年73%3年84%4年74%5年81%6年78%進捗 3学期末には全学年100%達成見込み	A			
チーム学校	**⑩地域とともに・繋がり響きあう学校** ・[コミュニティースクール]2年目 ・学校情報提供・地域連携の推進 ・保幼小中の連携	・地域学校協働本部『結の会』通信の発行2回　地域メール随時 ・各種広報 学校だより月2回、保健だより月1回、小中一貫通信学期1回 メール配信　毎週土曜日(次週予定)　HP随時更新	・朽木地区学運協・協働本部2年目　認知度が上昇し活動が活発化 ・各種広報については目標回数をクリアしながら発行している 保護者調査「学校の考え方・子どもの様子よくわかる」95% ・地区コミュニティーメール配信開始「結の会だより」広報2回配布	A	A	コミュニティースクール2年目としての課題を十分把握して、地域・学校が相互に行き来できる関係性と地域と共にある学校を意識した仕組みをさらに構築していきたい。	CS認知が向上しメール配信により地域学校の距離が縮まった。地域の方が学校・子どもの様子をよく知ってくれている。

学校関係者評価	総　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	学校教育目標を目指して、学力・心・生きる力の育成を図り、学校・保護者・地域が一体となって児童の育ちの保障をしていく積極的な取組がとてもよい。目標が十分達成できているものが5割以上あり、素晴らしい。その分、児童に力がついたものと確信する。 少人数での小中一貫教育ゆえに、教員が一丸となって機動的・能動的に対応し成果を上げている。知恵と工夫の結果と思う。児童数・世帯数減少の中で、保幼小中の連携はとてもよい。様々な場面で相互交流があることで就学や進学の際に不安が減っていると感じる。朽木ならでは、少人数ならではのよさを子どもと共に保護者も感じ、地域の中の学校という意識がさらに定着してほしい。 園から小学校の滑らかな接続の部分において、「気づき・考え・行動する力」が繋がり、さらに積み上がることを願う。今後も小規模校のメリットを生かし、いずれ経験する大集団の中でも自信をもって自己を表現できるように、思考力とコミュニケーション力をつけて欲しい。	A	総じて実効ある取組によって成果を上げていると高評価であった。今後の留意点及び改善点は以下の通りである。 ・1学期スポーツデー、2学期朽木文化祭音楽発表、3学期学習発表会は、一定定着し地域住民・保護者の楽しみとする取組であるので、今後も学校行事・学習活動の核として大いに継承発展継続していくこと。 ・「聴く」しっかり聞かせる指導を徹底し浸透させると、さらに良い効果が生まれるであろうことから、様々な場面で繰り返し意識させて学び合いの姿・授業を創造し、学力向上・体力向上・生きる力の醸成に真摯に取り組むこと。 ・いじめ根絶の意識をさらに強固にし、いじめは絶対にいけないと児童・保護者全員が確認し実行する学校づくりをすすめること。 ・こども園から小学校への緩やかで切れ目のない橋渡しを各分野で確認し、学習・生活・食育等において本人のみならず保護者に理解周知できるように心がけること。

4段階評定（A　目標を十分に達成　B　ほぼ目標を達成　C　やや不十分　D　改善を要する）

（様式１）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立朽木西小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
針畑を愛し 心身ともにたくましく生きる 心豊かな子どもの育成 〇明るく健康な子どもの育成 〇深く考えやりぬく子どもの育成 〇心豊かな子どもの育成	〇校長をはじめ教職員と保護者の間にも、諸課題を解決しようとする意志と風通しの良い話し合いの場が持たれている。関係者の不断の努力に敬意を表すと同時に、このような関係がさらに地域へと広がっていくことを望む。 〇少人数の中で地域に根差した伝統や文化を生かした多くの体験活動は、今後の児童の未来に大きな力となっていくので、今後も継続的に実施していただきたい。 〇和太鼓演奏の取組は毎年素晴らしく、子どもたちの成長に見合ったきめ細かな指導が徹底されていて、しかも子どもたちも楽しそうに取り組んでいる。地域の人たちとの関係性も良く、西小児童と教職員は西地区で愛されている。子どもたちにとって、学校が楽しい場で在り続けてほしいし、教職員の自由でアイデアのある取組を、積極的に展開してほしい。	針畑で学び取った力を生かして自らの志を達成するとともに、学んだことを地域や社会のために役立てようと行動する人の育成

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
〇 明るく健康な子どもの育成 1. 適切な言葉遣いの習慣化 2. 体力の向上 3. 安全・健康への自己管理 4. 自主的・実践的態度の育成 5. 防災・安全教育の推進	TPOに応じた挨拶、言葉遣いの定着を図る。（朝、帰り、来客時） 【毎学期末評価】	登校時や下校時には、大きな声で元気な挨拶ができている。挨拶をきっかけに、友達同士や周囲の人とのコミュニケーションがもっと取れるとよい。	B	B	家庭とも連携し、TPOに応じた言葉遣いを児童自らが考え実践できるようにしていく。	・家庭的な関係は良いと思う。 ・JRCの理念は、大人がまず実践するという心構えと徹底してからだと思う。 ・西小の児童は皆明るく元気。話したら聞く、洗ったら拭く、基本的なことですが、すべての言動は信頼できる関係性の中で豊かになり、健康な心と体をつくるのではないか。その点で、西小の教育は素晴らしい。
	体育の授業や長休みの時間等の活用により、目標をもって運動に取り組ませる。	日常的に全員で運動遊びをしている。特に、一輪車、マラソン、鉄棒、縄跳びなど、季節に応じた運動遊びは目標をもってがんばることができた。	B		子ども同士で季節に応じた全校遊びができるよう働きかける。	
	身の回りの整頓や衛生面に心がける指導を行う。【随時】	常に指導し続けたことで、身の回りの整理整頓ができるようになってきた。課題はあるが衛生面に気をつけて生活する態度が身についてきた。	B		家庭の意向も考慮しながら、衛生面に心がけるよう継続的に意識づけをしていく。	
	JRCの理念「気づき、考え、行動する」が実践できるようにする。 【毎月末自己評価】	毎月の朝会で自己評価させて意識を高めてきたが、理念が難しく児童も理解しにくかったようだ。	C		具体的な場面で、児童個々に応じたタイムリーな言葉がけにより意識させていく。	
	保護者や地域・関係機関等と連携し、実践的な防災・安全教育を実施する。【年間3回】	9月に地域防災組織と合同で、火災を想定した実践的な訓練ができた。7月の防災課による原子力防災学習には保護者も参加していただいた。	A		本年度は充実していた。今後も様々な災害を想定した訓練を地域と合同で実施。	
〇 深く考えやりぬく子どもの育成 1. 自分の思いを豊かに表現し、深く考える指導の工夫 2. 学習意欲の向上と基礎・基本の徹底 3. 家庭学習の工夫と習慣化 4. 体験を通した学びの充実 5. 保幼小中一貫教育での学びの充実 6. 外国語教育の充実 7. 読書活動の推進	見通しを持ちながら学習課題を解決する「自学自習」の力をつける。その研究テーマに迫るための授業研究会を実施。【年間3回】	教科の特性や児童の実態に合わせて単元構成や教材を工夫することにより、少しずつ自分と向き合いながらの自学自習の力がついてきた。	B	B	「自学自習」は今の児童に必要な力であり、今後もこのテーマで研究を進めていく。	・答えの無い問い、あるいは答えが次の問いにつながるような会話。児童の「なぜ?」に自明の答えを用意することは、教育の罠でしょう。まず、私たちが、深く考える実践をしましょう。 ・多くの行事が、授業が各々単発に終わらないよう、全体を関連付けて子どもに伝えて教育してほしい。
	個に応じた指導により、基礎・基本の確実な定着を図る。言語活動（話す・聞く・表現する・話し合う等）の充実を図る。	ICT機器や学習プリントの活用が、学習意欲の向上と基礎・基本の定着につながっている。行事等の取組を中心に言語活動の充実も図れた。	B		児童個々の実態に応じて、学力面での達成感を味わわせ、自尊感情を高めていく。	
	家庭学習の方法を工夫し、習慣化を図る。【家庭学習実行率100%】	児童個々の力に応じて、目標や興味をもって取り組める内容を課題として取り組ませた。決められた課題はほぼ実行でき、習慣化してきた。	B		粘り強く取り組ませ内容を充実させる。やったことを認めて励まし意欲づけを図る。	
	地域の人、豊かな自然、文化を生かした体験学習を実施する。 【年間10回】	計画通り、年間を通して地域の特色を生かした体験学習ができた。（田んぼの学校、野菜等の栽培、百里ガ岳登山、へしこ漬け、地域訪問など）	A		各教科や領域と関連させて、事前・事後学習を通してしっかりと振り返りをさせる。	
	東小やこども園との交流活動、中学校教員による出前授業の実施。【年間複数回） 共同授業研究会への参加。【毎学期】	東小やこども園との交流活動は、計画通り有意義な内容で実施できた。昨年度できなかった中学校教員による出前授業も秋に実施できた。	B		中学校教員による出前授業は継続。交流学習は無理のない回数や内容で検討。	
	児童の実態に応じた外国語指導助手とのTT授業を推進する。 【低：10時間　中：35時間　高：70時間】	毎週1回、外国語指導助手と担任とのTT授業が実施でき、その積み重ねが学習意欲やコミュニケーション能力の向上につながっている。	A		TT授業は継続していくが、実施曜日は中学校と相談し、変えていく方向で検討。	
	朝読書の実施、家読の奨励、お話会等の実施により、本に親しむ機会を増やす。「お気に入りの1冊」発表会を実施する。	図書サロンのブックトークや本の入替、読み聞かせボランティアのお話会は定期的に実施。補充学習との兼ね合いで、朝読書の時間確保が課題。	B		本にふれる環境を整え、幅広く本に親しみ読書の楽しさを感じられるようにする。	
〇 心豊かな子どもの育成 1. 人に「感謝」できる心の育成 2. いじめを許さない学校づくり 3. 考えを深め、心に響く道徳教育の推進 4. きめ細かな教育相談の実施 5. 系統立てたキャリア教育の推進 6. マイスクール事業の推進	人に感謝し、感謝されることを喜びと感じる心の育成と仲間づくりを行う。 【毎学期末自己評価】	キャリア教育との関連で振り返りをさせながら、友だちや周囲の方々の支え、地域の方々の温かい励ましがあることを機会をとらえて伝えてきた。	B	B	言葉遣いの指導と併せて、思いやりのある言動につながるよう指導していく。	・世界には、未だ知らぬ生活や価値観があること。想像し、心躍るような教育をしていただきたい。 ・一番身近な他人の大人として、子どもの視線と向き合ってほしい。（先生がどこを、誰を向いて動いているかは、子どもには伝わると思う）
	児童会によるいじめ防止の取組を行う。【通年】	毎月の生活のめあてを考える際に、人への思いやりや協力し合うことの大切さを全員で話し合い、より良い仲間づくりにつなげてきた。	B		児童会で定期的に話し合う機会を大切にし、話し合った内容を具体化していく。	
	毎週水曜日2校時を全校道徳の時間と位置付ける。 地域の人や保護者に参画いただく道徳授業を実施する。【年間1回】	行事等の関係で、毎週の全校道徳の時間が設定できないこともあった。9月には参加型の道徳参観にすることができ、授業改善も進んできている。	B		「考えを広め、深める授業」に向けた工夫や評価方法について研修を進めていく。	
	きめ細かな教育相談の実施と、全職員による情報共有と対応に努める。	子どもと些細なことでも話す機会を大事にしてきた。家庭での様子や学校生活など、子どもの思いや考えがよくわかり、指導に生かすことができた。	A		きめ細かな観察・児童理解を心がけ、教職員間で情報共有、共通理解を図っていく。	
	「夢ファイル」等を活用したキャリア教育を推進する。【通年】	日常の学習活動を振り返りながら「夢ファイル」への書き込みを蓄積。その中で、児童自身が自らのキャリアや将来について考えることができた。	A		学校生活の足跡を記録するなど、振り返りの蓄積をキャリア形成につなげていく。	
	和太鼓演奏の技能向上を図り、その成果を校内外で積極的発表する。 【年間7回以上】	昨年度以降、技能が高まってきた。地域や市レベルでの発表、他校園での交流を通して賞賛を得ることにで自信もつき、励みになっている。	A		発表ありきでなく、「練習の成果を披露したい」という気持ちの高まりを発表につなげたい。	
〇 地域とともにある学校づくり 1. 保護者や地域、関係団体・機関等との情報共有と信頼関係の構築 2. コミュニティスクール（2年次）の取組推進 3. 「チーム朽木西」の体制構築	学校だよりやHP更新等による情報発信に努める。保護者や地域住民のニーズを把握（学校評価等）し、教育活動に生かす。【通年】	学校だよりやHP更新による情報発信はできた。学校説明会や保護者会等を通して、学校の現状や今後について協議する場がもてた。	B	B	学校としてのビジョンを明確に持ちながら、数年先を見据えた方向性を見出していく。	・大人同士のコミュニケーションが一番難しく、技術が求められる。双方の努力が必要に思う。 ・西小の課題が見えてきたことで、保護者との話し合いは、一歩前進したのではないだろうか。
	学校運営協議会で目標やビジョンを共有し、課題解決に向けた協議を継続的に行う。【通年】	学校が示す目標やビジョン、今後の課題等について共有いただき、広い視野からの提言もいただいた。その内容は学校運営に生かしている。	B		学校・地域の現状や課題について熟議を重ね、学校運営の改善を進めていく。	
	教職員やPTA、地域住民との協働体制を構築し、「チーム学校」としての取組を推進する。	関係者間での認識の相違やコミュニケーション不足も感じられたが、現状と課題を踏まえ、今後の学校運営について協議を重ねることができた。	B		コミュニケーションを密にし、保護者・地域との協働体制を確かなものにしていく。	

学校関係者評価	総　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	〇子どもの数が少ないこと、家庭環境と育ちの過程が様々であることは西小の特徴で、それが学校運営にとって難しいことだと思われます。しかし、今年度に見られたように、話し合う場を重ねることが出来れば、それは小規模校としての利点であると思われます。多様な価値観を調整し、来年度は更に課題の解決に向けて前進して頂きたいと思います。 〇「チーム西小」の体制構築について。教職員については、一教育者、一人間として、保護者や地域住民と心を開いてコミュニケーションをとって欲しい。組織的壁や事なかれ主義を感じる。保護者、地域住民は、節度と良識を持って教職員との話し合いに臨む姿勢が大切である。小規模な地域だけに、できるだけオープンな場作りが必要（子どもと大人共に）。 〇運動会、文化祭、感謝祭どれもすべて素晴らしく、先生方の取組には敬意を表します。 〇どの子どもたちも、学年以上の力がついているように思います。子どもたちの生き生きとした活動が、針畑地域の元気の源となっていると思います。今後も、限られていると思いますが、地域の人々をまき込んだ学校経営に尽力ください。	B	〇地域の自然や文化、人材を活用した取組は、カリキュラムマネジメントのもと教科横断的に取り組み、児童の主体性を生かしながらキャリア教育の重点として位置づけていく。校内研究のテーマである「自学自習」の力の育成は、本校の児童に最も必要な力であり、次年度もこのテーマで研究を深めていく。 〇和太鼓演奏は児童の表現活動の柱と位置づけ、更なる技量の向上と取組成果の発表につなげていく。 〇運動会や文化祭、ふるさと感謝祭等は、保護者や地域と協議の上、内容を改善しながら継続実施する。また、地域と合同の防災訓練をはじめとして、関係機関・団体と連携した教育活動を積極的に進める。 〇小規模校の利点を生かして、学校と保護者、地域住民とのコミュニケーションを密に取りながら、地域とともにある学校づくりを更に進めていく。そのベースとなるのが保護者会や学校運営協議会であり、学校・地域の課題について話し合って信頼関係を深め、より良い方向性を見出していく。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式１）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立安曇小学校

学校教育目標	豊かな心と自ら学び考える意欲をもつ　心身ともにたくましい安曇っ子の育成 じょうぶで　がんばる　やさしい子

昨年度の評価概要	・日常の努力の積み重ねから児童の成長を感じる。全職員の知識や知恵を結集しながら高いレベルでの学校教育の推進を期待する。 ・地域と学校地域のコラボ（協働）の考え方で進んでいるのは良い。地域の良き人材をさらに活用され、更に活性化していただきたい。 ・学習発表会での児童の学びの様子から日々の成長を感じることができた。更なる可能性を広げるために日々着実に多くのことを積んでいって欲しい。 ・あいさつについては、長年の本校のウイークポイントである。あいさつは心の交流、相手への尊敬の念を表すものとして指導を継続していくことが大切であろう。 ・職員が児童と一体化していることが多くの取組で伝わがってくる。今後もこの良き雰囲気、環境が続くするようサポートする。学力も向上しているとのこと。先生方が毎日丁寧に教えてくださっているからであろう。 ・安曇川学習を20数年間継続されていることは素晴らしいことであるし、児童、保護者の評価も非常に高い。続けるのは大変であろうが、今後も安曇小学校の特色有る教育活動として継続してほしい。学校と地域との協働活動の推進ともなるので、より多くの地域人材を募り、活用すると良い。 ・地域学校協働活動にも協力いただき、外部講師や支援ボランティア、教育活動をさらに活性化していただきたい。

中期的目標	・基礎、基本の確実な習得と、話し合いや学び合いを活性化し、考えを高め合う授業の創造 ・読解力等言語力、活用力を高める授業の展開 ・道徳教育の充実と共に豊かな人間関係を育成し、いじめを許さない仲間づくりの推進 ・健康、体力づくりに取り組むとともに豊かな心の育成 ・小中一貫教育の推進による教育課程や生徒指導面での連携と学力観等の意識共有 ・地域に学び、家庭や地域に発信する学校教育の推進 ・ICTの活用による、わかる、できる授業の創造

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
○自ら学び考える教育の創造 ・魅力ある分かる授業と基礎的基本的な学習内容の定着 ・話し合い活動の質を高め、考えを高め合う学習の創造 ・リバーウォッチング活動や福祉学習を核とした生活科、総合的な学習の推進 ・話す、交わることをとおして、楽しく学ぶ外国語活動の推進 ・読み聞かせ、朝読書など読書活動の充実 〔学力向上ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ8の具現化〕 〔学力向上アクションプランの実践〕	・学校に来るのが楽しい、児童評価率 90%以上 ・授業が楽しい、わかるの児童自己評 価率95%以上をめざす。	・学校に来るのが楽しい84%（児童）　・子どもは楽しく学校に通っている94.7%（保護者） ・授業が楽しく、よく分かる86.4%（児童） ・子どもは学校の学習内容をだいたい理解しているようだ89.1%（保護者）	B	B	・個別最適な学力がしっかりと身につくように、次年度より毎週一回算数の基礎学習を全校で実施する。 ・「学び合い」の手法を取り入れ、グループ活動を活性化して深い学びにつなげる。 ・読み解く力を育成し、しっかりと教科書の内容や課題を理解できるようにする。	・ICT、外国語教育など、新しい教育内容について、取り組みが進みつつあり、児童も楽しく参加できている。 ・20年以上続いているリバー学習で、それぞれ個人が課題を見つけ、研究し発表の場をもつ機会は、これからの将来の中で大きな糧となっています。この活動を支えておられる先生方、保護者、地域の方に感謝します。これからも、発展的な継続をお願いしたい。 ・自主的な態度を育成するためには、委員会活動はとても大切である。図書員会のみならず他の委員会も児童が自主的に運営できるような工夫をしてほしい。また、その中でボランティア精神も育成してほしい。
	・相手の話をしっかり聞けた、児童評 価率が95%以上	・「話をしっかりと聴く」は、2学期の児童目標として取り組んだ。しっかりとは、相手を見て、最後まで、何を話しているかを考えてと具体的に示した。 ・あなたは、先生や友達の話をしっかりと聴けていますか81.9%	B		・学級の中で、何でも言える何でも聴いてもらえるよう指導し、温かい雰囲気を醸成する。 ・学習規律を徹底し、全教員が同一歩調で聴くことの大切さを指導する。	
	・リバー学習をはじめとする学校行事は、楽しいの児童自己評価90%以上	・リバーウォッチングをはじめとする学校行事は楽しいですか96.2%（児童） ・子どもはリバー活動をはじめとする学校行事に喜んで参加している97.7%（保護者）	A		・各学年のリバー活動計画を振り返り、次年度の活動内容をしっかりと見直す。 ・各行事終了時に、必ず反省（チェック）を行い、次年度の見通しを持つようにし、PDCAサイクルがしっかりと回るようにする。	
	・外国語活動は楽しいの児童の自己評価率95%以上を目指す。 ・ICT活用による、わかる、できる授業の研修と実践	・外国語活動の授業は楽しい95.6% ・9月よりノート型パソコンが配備され、1日1回の使用割り当てではあるが、校内の研修を経て多くの教員が授業で活用している。	A		・「わかる」「できる」授業を創造するために、効果的なICT機器の利用について職員研修を実施する。 ・外国語については、専科教員とALTの密接な授業計画に基づいて、興味・関心を喚起して楽しい授業を展開していく。	
	・朝読書等で読書の習慣化	・あたなは、進んで読書活動をしていすか75.4% ・週一回の朝学習での読者、お話サークルによるお話会、安曇川図書館からの貸し出し訪問など、読書に親しむ環境は整っている。	B		・各学期に読書週間を位置づけ、読書活動がさらに推進できるように働きかける。 ・委員会活動を活性化させ、児童目線での推薦図書等を全校に紹介できるようにする。	
○豊かな心と人間関係づくり ・児童によるいじめ啓発活動 ・言葉遣いや言語環境の整備 ・心をつなぐあいさつ運動 ・インクルーシブ教育の推進 ・気づき、考え、実行する特別活動の実践とVS活動推進 ・教育活動全体を通じた道徳科の充実と藤樹先生の教えに学び実践する心の教育の推進	・自分も他者も大切にする児童の育成 ・いじめをしない、許さない児童の育成	・あたなの学級はみんなで仲良く協力し合っていると思いますか81.9% ・いじめ防止対策会議を定例開催し、情報の共有、未然防止対策、いじめの対処について協議し、周知を図った。また、学期始めにスタートアンケートを今年度より実施した。	B	B	・学級で1週間ごとをしっかりと振り返りことができるように指導し、学期に1回は必ずPDCAサイクルをまわせるようにマネジメントする。 ・児童自らが、いじめ防止について啓発活動ができるように、サポートする。	・居心地がよい学級、学校づくりを今後も更に推進し、みんなが安心して生活できるよう取り組んでいただきたい。 ・児童が自ら、いじめ防止を訴えることは、先生方が言うよりも効果が上がると思います。ぜひ計画的に子どもたちの自主性や主体性を生かした取り組みをお願いします。 ・一人一人の良さを認め、自尊感情を高めることは、児童のやるきスイッチを押すことにもつながる。きめ細かな対応をお願いします。
	・学校、学級は居心地がよい、児童評価率90%以上 ・個別の教育支援計画、合理的配慮に基づく、きめ細かな指導と支援の実践	・あなたは、学級や学校は居心地がよいですか78%（1学期85%） ・年度当初から、児童にとって居心地がよいとはどんなことなのかを考えて、学級経営にあたった。 ・各学期に個々の教育支援計画を見直したり、合理的配慮について専門的な知識のある教員から学ぶ機会をもっている。	B		・効果のある合理的配慮についての情報共有を行い、職員間での相談・研修を深める。 ・一人ひとりの良さを認め、自尊感情を高められるようにする。 ・先生は自分の良いところを認めてくれる児童評価88%を90%へ向上させる。	
	・縦割り活動による、良好な人間関係の育成	・運動会等の行事による縦割り活動に、今年度は掃除を2学期末より実施し、効果が上がった。 ・落ち着いた高学年のリーダーのもと、下学年をけん引した。下学年は、先輩に対して憧れをもつようになった。	A		・縦割り活動をさらに充実させ、縦割り掃除を年間で取り組む。 ・1・6年、3・5年、2・4年のペア活動にも積極的に取り組む。	
	・藤樹先生の教えに学び、よりよく生きる道徳教育の推進	・授業参観日には、全学級が道徳の授業を公開できた。 ・全学年で、藤樹先生の教えを学ぶ道徳の授業を展開した。特に3年生は、立志祭の事前学習や当日の活動で身近に藤樹先生を感じることができた。	B		・中江藤樹先生の教えを年間通じて、指導できるように計画・実践していく。 ・実りある立志祭のために、担当学年のみならず全校を挙げて雰囲気づくりする。	
○たくましい心と体づくり ・業間運動、鉄棒や縄跳び、マラソン等の体力づくりの推進 ・外遊び、集団遊びの奨励 ・もくもく掃除の取組 ・食育の推進や早寝早起き等生活リズムの構築	・マラソンや鉄棒、縄跳び週間、教科体育の充実で体力づくりに努める。	・体育主任を中心として、鉄棒週間、マラソン週間、縄跳び週間と体力づくりに取り組んだ。児童はこの週間だけでなく、元気に外で遊ぶなどして、適度な体力の向上を図った。 ・新体カテストC段階以上男子55%、女子65%であり、昨年より男子でポイントを下げている。	B	B	・自分の体力の課題を知り、その克服に努められるように年間を通じて、体育科の授業を中心に指導する。 ・鉄棒、縄跳び、マラソン週間等、児童にとって取組意欲を喚起できるようにエ夫する。	・縦割り掃除は、効果があると思います。上級生と下級生の触れ合いにもなり、下級生が身近に上級生に憧れることにもなります。今後、様々な場面で取り組みを進めてほしい。 ・ゲームやSNS、スマホ等の指導は、先ず保護者が行うべきものである。その点では、保護者の危機意識の低さが気になる。 ・たくましい心と体力の育成に向けて、様々な工夫がなされている。今後も児童の体力向上に向けて工夫をお願いします。
	・掃除の時間、もくもくと頑張っていると答える児童評価90%以上を目指す。	・2学期から、縦割り掃除に取り組み、以前にも増して頑張って掃除をする児童が増えた。児童評価は、91.8%であった。	A		・掃除の時間の合言葉「じもぴ」を徹底する。（じ・・時間を守って、も・・もくもくと、ぴ・・ぴかぴか）	
	・生活アンケート等実施し、家庭に啓発して、子どもたちの生活習慣の改善を図る。 ・早寝・早起・朝ごはんの生活習慣が身についている。	安曇川地区小中一貫教育の生徒指導部会で、ゲームやSNS等のアンケートを実施した。また、警察から講師を招聘して、その危険性について児童や保護者に講義をしていただいた。 ・子どもは、早寝・早起き・朝ごはんの生活リズムができている88%	B		・家でインターネットやメールをしていることが多いが保護者評価で31.4%、ゲーム・インターネットの使用について約束事を決めている保護者評価73.5%を少しでも改善できるように、しっかりと実態を把握して啓発に努める。	
○小中一貫教育の推進 ・学力向上や生徒指導面での連携推進 ・授業交流の推進と学力観、指導観、評価観の意識改革	・教育課程や生徒指導面での連携会議を定期的に開催する。	・学力向上部会（国語、算数・数学、外国語）、心の育ち部会（生徒指導）、特別支援部会、地域協働部会を開催し、効果的な連携協力が図れるように取り組んだ。 ・年度当初は、教員同士がつながってよかったと実感できる取組をと思っていたが、実現できなった。	B	A	・中学校が取り組んでいる「学び合い」について、9年間を通じて「学び合い」が実践できるように研修して取り組む。	・地域の中の学校が、徐々に成果として表れてきてるように感じる。 ・小中一貫教育で、教科でのつながりをさらに深める必要があります。小中で、学習内容を話すだけでも効果があるのではないか。 ・子どもたちに、たくさん地域の方々と出会ってほしい。 ・広瀬学区でのマラソン大会は大いに賛成であるし、協力もしたい。 ・学校が必要な時に、必要な支援ボランティアに協力いただいている。このネットワークを今後は、大きな組織にまとめられるとよい。
	・6年生の合同学習や学力向上部会による授業交流を推進する。	・安曇川地区小中一貫統括校として、次年度の反省を基に3回の合同学習会を実施した。6年生にとっては、中学校への不安を解消してスムーズな接続となっており、児童からの評価も高い。	A		・今の取組をブラッシュアップして、小中の職員の意識を高め、児童のみならず教員にとっても意義のあるものにする。	
○家庭、地域等との連携 ・学校便りやホームページ等保護者、地域への情報発信 ・新たな地域人材の発掘 ・地域学校協働活動との連携 ・新しい安曇小学校文化の創造	・あど小通信を月1回以上発行する。 ・ホームページの充実と月1回以上の更新を行う。	・担任の小まめな学級だより、月一回の学校だよりで、学級や学校の様子について情報発信できた。 ・月間の行事予定など、メールで配信したり、必要に応じて、保護者へのメール配信を行った。 ・ホームページについては、更新ができなかった。	B		・必要な情報を必要な時に、正確に発信できるように努める。 ・メール配信の登録を保護者に働きかける。 ・ホームページについては、更新できるように取り組む。	
	・学校運営協議会の適切な運営 ・地域人材をより積極的に活用する。 ・統合による、新しい安曇小学校文化の創造	・学校の課題等について様々な立場から協議していただき、学校運営協議会としての今後の方向性を示すことができた。 ・地域学校協働活動推進員の活動により、多くの分野で学校支援をいただき、学校関わり人口は確実に増加している。 ・統合による新しい文化の一つとして、広瀬学区での行事を次年度、計画実施する予定である。	A		・学校支援サポーターの募集について、今後も呼びかけを続けて学校への関わり人口をさらに増やす。 ・広瀬学区での学校行事を実現させ、学校と地域の絆を深められるようにする。 ・下校の見守りにつて、課題があるのでその解決方法を学校運営協議会で協議して解決する。	

学校関係者評価	総　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・概ね目標を達成できている。児童と保護者との意識の異なる部分、目標を下回った理由などを分析して、次年度に生かしてもらいたい。 ・常に子どもたちにとって居心地がよいとは、安心できる居場所があること、勉強がわかること、気にかけてくれる仲間や先生がいることだと思います。ぜひ、次年度もこのことをしっかりと職員間で共有して取り組んでください。 ・来年度、広瀬学区での行事を考えていることは、地域づくりの観点からも高く評価できる。協力もするので、ぜひ実現を願いしたい。 ・保護者が子どもが楽しく学校に通っているの回答に94.7%と、子どもより高いポイントであり、学校に対しても信頼感が感じられます。 ・子どもたちが、今後社会の中で生きていくうえで、何が大切であるかを考えて「生きる力」を培えるように指導されていることに感謝します。 ・少しずつではあるが、学校支援の輪が地域の中で広がっている。今年度初めて地域との九九道場ができたこと、中学校に小学1年生が踏み入れたことは、大きな成果ではないでしょうか。 ・地域の人との関わりによってわかることも出てくると思うので、年度当初から計画的に学校の担当者と推進委員とが、相談しながら進められるとよい。	B	○学力向上について ・次年度より、毎週水曜日に基礎学力の更なる定着を図るために、1学期は特に算数に重点をあてて百マス計算に取り組む。 ・ICTを活用した授業について研修を深め、楽しい、わかる授業の実践に向けて取り組む。 ・中学校での「学びあい」の実践につながるよう、特に高学年で「学びあい」について研修して、授業実践を行い対話的な学びから深い学びにつなげる。 ○居心地のよい学校づくり ・今年度の縦割り掃除を継続し、さらにペア活動を積極的に取り入れて、上学年のリーダーシップ、下学年の先輩への憧れ意識を高める。 ・児童が褒めてほしい時に適切に褒め、自尊感情を高められるよう、常に児童観察を行う。 ・いじめは、絶対に許されないということをしっかりと指導し、気持ちが抑えられない時の避難場所として、校長室を開放する。また、児童自らがいじめ撲滅のための啓発活動を積極的に実施できるように指導する。 ・校務支援ソフトを効果的に使用して、児童の個人情報を蓄積して、生徒指導等に役立てる。 ○家庭、地域との連携 ・地域学校協働活動推進員との年度当初からの連携を密にして、今年度の取組に加えてさらに関わり人口が増加するように働きかける。 ・広瀬学区でのマラソン大会の実施に向けて、広瀬学区の多くの方に協力していただく中で、統合5年目を迎える本校の理解を深めたい。 ・安曇小学校ホームページの更新に向けて取り組み、学校の情報を広く保護者、地域の方々に伝える。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式1）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立青柳小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
校訓　「良知に生きる」 学校教育目標 自ら学び　心豊かでたくましい　子どもの育成	・中江藤樹先生の生誕の地であるという誇りをもって、青柳小学校独自の教育活動を継続して実践してほしい。 ・青柳小学校独自の「一家庭一家訓」の取組を継続し、そのことを振り返りをしてほしい。 ・学習することの意義をキャリア教育の観点から子どもに意識させてもらいたい。 ・例えば集合したら静かに待つという、次の事を考えられる子どもになってもらいたい。 ・学校と地域の連携をより一層、充実してもらいたい。 ・いじめを見逃すことなく、初期の段階でしっかりと厳しく指導してもらいたい。	めざす子ども像 徳：たがいに思いやる子 知：よく考え実行する子 体：明るく元気な子 めざす学校像 地域とともに歩む学校

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
○学力の向上 ・「我が校の学ぶ力向上策」の点検見直しにより学力向上を図る。 ・保護者と学校が連携し、家庭学習の習慣化を図る。	○学力の向上 ・「我が校の学ぶ力向上策」について学期ごとに評価、改善を加え、実効性のあるものにする。 ・家庭学習の習慣化のため、PTAと連携して展開する。「一家庭一家訓」の実践と振り返りを行う。	・教職員の評価において「我が校の学ぶ力向上策」にしたがい、基礎基本の定着に努めているという評価は高い。 ・全国学力学習状況調査では、質問紙の「算数の授業の内容はよくわかりますか。」の問いに対して強い肯定が55.6%、肯定が44.4%で否定は0%であった。	B	B	・今後も本校が大切にしている学習規範を基盤とし、「我が校の学ぶ力向上策」を確実に実践していく。何より学ぶ心を絶えず意識し、落ち着いて学習に集中することを意識させる。	・一家庭一家訓の取組は、青柳小学校独自の取組であるので大切にしてほしい。ただ、取組を始めてから年月が経過しているので、その主旨がずれてきていようにに思う。学力向上のための家訓を親子でしっかりと話し合って充実する必要がある。学級懇談会等で保護者に周知する必要がある。 ・自主学習の児童アンケートに塾や習い事も含めると良い。
		・PTAと連携し一家庭一家訓の取組を実践し校内掲示や広報で紹介した。また、学校評価で振り返りを行ったが、実践しているという肯定的な家庭は一学期は59%、二学期は41%であった。	C		・PTAと連携して、年間を通した「一家庭一家訓」の継続した取組を工夫する。また、継続した啓発をPTAの研修部と行う。	
		・保護者評価の「あなたのお子さんは、学校の学習が分かり、楽しく勉強している。」は一学期88%、二学期86%であった。 ・児童評価で「進んで自主学習に取り組んでいる。」は一学期は44%であったが、二学期64%に大幅に上昇した。	B		・キャリア教育の視点を充実させ、何故学習することが大切であるかを理解させる。 ・年齢の近い高校生等の進路選択の経験談を聞かす場面をつくる。	
○言語活動の充実 ・国語科における言語活動を基盤として、各教科においてその特性を生かしながら言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力を育む。 ・外国語活動を通してコミュニケーションを図る資質、能力の育成。 ・「考え議論する道徳」の充実。 ○小中一貫教育の推進 ・高島市小中一貫教育標準カリキュラムを活用しめざす15才のすがたを共有して各段階での教育活動に取り組む。	○言語活動の充実 ・校内研究のテーマ「子どもたち自身が共に学び合う授業の創造」の確実な実践。 ・「考え議論する道徳」において多様な考えを大切にする授業の充実。 ・ICT機器の積極的な活用。 ・外国語活動を通して「聞くこと・話すこと等」の言語活動の充実。 ・「先生はわからないときに丁寧に教えてくれる。」（児童評価90%以上） ○現学年での学習活動が上学年のどの学習につながるかを意識した授業作りに取り組む。	・校内研究のサブテーマは「各教科での言語活動を通して、思考力を高めながら主体的に学ぶ姿をめざして」として各教科で「考える活動」「話し合う活動」を多く取り入れることに取り組んだ。	B	A	・学習活動の基盤となる学級集団作りが何より重要である。子どもたちが互いに認め合い協力して学び合うことのできる人間関係を高める。 ・複数で学び合う活動や書くことを重点においた指導を行う。	・一家庭一家訓の取組をしっかりと親子で話し合って決めていくことで、子どもたちが「自分で考える」、「話し合う」ことが自然と増えてくると思う。 ・安曇川中学校区内の子どもが、いっしょに合同で学習するすることは良い。特に学年に少人数しかいない学校の子どもたちにとっては不安の解消につながる。
		・外国語活動において4年生の授業を公開し、iPadを使用した授業を実施した。また、学年によって偏りはあるがiPadを積極的に使用した授業を行っている。 ・プロジェクター等を積極的に活用してわかりやすい授業を実践している。	A		・研修会等を通して教職員一人一人の外国語における力量のアップをめざす。 ・iPad、書画カメラ、プロジェクターを積極的に使う。	
		・児童評価で「先生は、勉強でわからない時、ていねいに教えてくれる。」は一、二学期とも96%であった。 ・合同学習の国語と算数の授業において、中学校教員と小学校教員がいっしょに集まり指導案を作成した。また、その指導案をもとに授業を実施した。	A		・教職員が絶えず教材における情報交換ができる雰囲気を継続する。学習規範を基盤にしながら、わかった、できたと実感できる授業の構築に努める。 ・年間3回の合同学習の取組を充実させる。	
○集団づくり ・けじめのある生活を送ることのできる集団を育成する。 ・誰に対しても思いやりの気持ちをもって接し、いじめを許さない集団を育成する。	○集団づくり ・生徒指導に関する情報交換やケース会議により、適切かつ早期に対応する。また、いじめは絶対に許さない。 ・「縦割り活動や全校的な行事では自分から進んで活動している。」（児童評価90%以上） ・「進んであいさつや返事をしている。」（児童評価90%以上）	・児童評価において、「先生は、いけないことをした時は、厳しく注意をしてくれる。」は一学期94%、二学期95%であった。 ・生徒指導主任や児童虐待対応教員が常に中心になってケース会議を開催し、様々な課題に迅速に対応している。	A	A	・厳しさの中に優しさのある、また、優しさの中に厳しさのある指導を継続する。 ・全教職員が「いじめは絶対に許さない。」という毅然とした態度で臨む。	・青柳小学校の子どもたちは、上級生、下級生問わず仲が良い。集団登校を見かけることがあるが、上級生がしっかりリードしている。また、横断歩道で車を停車させると、旗をもっている上級生が頭をさげてくれる。 ・たて割り活動によって、上級生が下級生をリードし、世話をしていくことは、とても良いことである。
		・児童評価で「縦割り活動や全校的な行事では、自分から進んで活動している。」は一学期92%、二学期96%であった。 ・今年度も運動会や藤樹デー等において縦割り活動を積極的に取り入れた。	A		・本校が大切にしてきた縦割り活動を引き続き継続して取り組んでいく。 ・友だちと話し合う活動で自分の考えを深めたり広げたりする活動を積極的に行う。	
		・児童評価において「おはようございます。」「さようなら。」など、進んであいさつや返事をしているは一学期88%であったが、二学期97%に大幅に上昇した。 ・児童評価において「児童集会など多くの人が集まる場では、下級生に注意したり、静かに並んだり、話を聞いたりしている。」は一学期98%、二学期96%であった。	A		・指導するだけではなく、教職員が常に範を示して、自らあいさつができる児童を育成する。 ・多くの人との関わりを通して、社会性を身につけさせる。	
○藤樹学習と地域との連携 ・学校運営協議会、地域学校協働本部が一体なった学校、地域づくりを行う。 ・地域の文化や伝統を取り入れた体験的な活動を実践する。 ○教職員の資質向上 ・子どもの力を引き伸ばす教職員の実践力の向上。 ・言語活動の充実等、本校教育の重点内容の研修に努める。	○藤樹学習と地域との連携 ・「学校では藤樹先生に関係する学習をしている。」（児童評価90%以上） ・「掃除をがんばっている。」（児童評価90%以上） ・学校支援と地域支援を意識した保護者、地域との連携 ○教職員の資質向上 ・子どもにトコトン関わる。（学習や運動など） ・積極的な研修への参加とOJTの推進。	・児童評価において、「学校では藤樹先生について勉強している。」は一学期93%、二学期96%であった。昨年度同様、非常に高い評価である。 ・昼休みに漢字、計算の小テストに自主的に取り組む「了佐タイム」を実施した。 ・児童評価において、「そうじを頑張っている。」は一学期95%、二学期98%であった。 ・学校支援だけでなく、地域支援として秋花壇の苗1000ポット、春花壇の苗500ポットを保育園や子ども園、福祉施設に配布した。	A	A	・様々な場面で中江藤樹先生の教えを理解させ、藤樹先生生誕の地を校区にもつことを児童の誇りにさせる。 ・地域学校Coとの連携をさらに進める。 ・伝統あるAC（青柳コミュニティ）との連携を今後も大切にする。	・昔から青柳小学校と言えば中江藤樹先生である。青柳小学校独自の教育活動を大切にしてほしい。 ・AC（青柳学区青少年育成コミュニティ）の取組を大事にしてもらい。ただ最近、参加人数が減ってきているのではないか。また、ACの役員が保護者が多くなってきているが、もっと地域の方になってもらうことはできないのか。 ・ACと地域学校協働活動の連携がよりできると良い。
		・一日を通して、朝から下校までの子どもへの声かけ、見守り活動を組織的に行った。 ・大垣女子短期大学より、特別支援教育の権威である松村教授を招聘して研修会をもった。さらに校内研究会では授業実践だけでなく、各自が受講した研修会の報告会を開催した。	A		・様々な場面において、子どもにトコトン関わることを確実に実践する。 ・単学級のため担任の力量によって学級経営が左右される。その解消のため絶えず児童の情報交換や教材に関する助言等を話せる職員室を進める。	

学校関係者評価	総　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・中江藤樹先生の生誕の地であるという誇りをもって、青柳小学校独自の教育活動を今後も継続して発展させてほしい。 ・青柳小学校独自の取組である一家庭一家訓の取組は非常に良い。ただし、始まってから年月が経過して、主旨がしっかりと保護者や子どもに浸透していないように思われる。子どもたちの学力を高めるために、親子で話し合って一家庭一家訓を考え実行をしていくことを年度当初に啓発していくことが大切である。 ・地域学校協働活動連携の強化（地域と学校）を更に増してほしい。 ・上級生、下級生仲よく交流があって良いことであるので、今後も継続してたて割り活動を継続していってほしい。 ・子どもたちが地域貢献として、藤樹記念館、玉林寺、藤樹書院等を訪れている人にガイドをできると良い。また、地域に花の苗を配布することは、とても良いけれど、子どもたちが自分達で種を蒔いたり、植えかえをしたものを配布できると良い。	A	・青柳小学校の学校経営の重点である「中江藤樹先生の教え」をしっかりと継続していく。また、その教えを実践することが自分の夢や目標を実現する力となることを意識させる。 ・青柳小学校が大切にしている、学力の向上の根本は学習規律の確立にあることを全教職員が意識して指導していく。また、子どもにとことん関わり、一人一人の良さを見つけ認めることを意識して取り組む。 ・縦割りを基本とした異学年交流を充実させ、上級生としての自覚をもたせ、下級生が「自分も何年後かにそんな上級生になりたい」と思えるような雰囲気を醸成させる。 ・一家庭一家訓の取組を見直し、さらに保護者との連携を強め、普段から良い関係を築き、家庭と共通認識をもって指導していく。 ・学校支援と地域貢献を確実に実践させ、地域との連携をより強める。

4段階評定（A　目標を十分に達成　B　ほぼ目標を達成　C　やや不十分　D　改善を要する）

（様式１）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立本庄小学校

学校教育目標	校訓「たくましい子　本庄の心」 主体的にけじめのある生活を送り 思いやりの気持ちを表現できる子ども

昨年度の評価概要	・他校にない地域や保護者との関係を保って学校運営をしている点で大いに評価できる。地域や保護者との連携を今後も継続し、関わりがより増えるようさらに知恵を絞る必要がある。 ・学習面で「目標を十分またはほぼ達成」と自己評価している児童が９７％というのは評価できるが、目標はあくまで「Ａが１００％」である。 ・マラソンや遠泳で自己目標を設定し、それを達成した児童の満足した顔が印象的でうれしく思う。「自己目標」としたところが大変よい。 ・全体的に児童も教職員もよく頑張っていてよい流れになっているが、そんなときこそよいものを過度に求めやすくなるので、注意願いたい。

中期的目標	○自ら学び、考え、表現し、行動するたくましさを育む教育 ・主体的に課題解決に取り組み、高め合う学習活動を推進する。 ○学力の向上をめざした教育活動の推進 ・思考力、判断力、表現力を育成するための言語活動を充実させる。 ○豊かな心、たくましい体を育む教育活動の推進 ・様々な体験を通して、心身ともにたくましさを育む。

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
確かな学力の定着	授業改善の推進 「学習内容がわかる」90%以上 「学習は将来役に立つ」90%以上	児　童：「学習内容が分かる」９４%、 保護者：「授業は分かりやすい、楽しいと言っている」９０％ 児　童：「学習は将来役に立つ」９５％	A	B	県の重点課題でもある『読み解く力の向上』に焦点化し、教科を問わず授業改善に取り組む。	・一人の落ちこぼれも出さないよう、尽力してほしい。 ・読書のおもしろさや心奪われる本との出会いを指導し、学校でも家庭も読書に取り組めるよう工夫する必要がある。読書で得た知識の活用法を考えさせたり、outputの機会を与えることが確かな学力の定着に繋がる。 ・宿題は、めやすの時間に合う内容と量を具体的に追究してほしい。ノートは徹底して丁寧に書かせてほしい。自ら学習する楽しさ喜びを感じさせてほしい。
	読書習慣の定着・読書の質の向上 読書量（低：P2000、中：P2500、高：P3000以上） 教科書の本（５冊以上）手のひら文庫（10冊以上）	児　童：「目標ページを目指して読書をしている」７９%、 保護者：「家庭でよく本を読んでいる」４０％ 教職員：「活字文化の向上に繋がるよう読書指導を工夫できたか」７０％	C		図書室の活用促進に向け工夫するとともに、児童や保護者への啓発を進め家庭での読書習慣定着を図る。	
	家庭学習の習慣の定着（宿題＋自主学習） 低20分、中･高10分×学年	児　童：「目標時間以上、家庭学習できている。（低・中） 工夫して自主勉強をしている。（高）」９７％ 保護者：「決まった時刻に目標時間以上家庭学習ができている」８７％	B		読書も含めた家庭での計画的な過ごし方、自主学習の内容や方法を指導し、宿題の質の向上を図る。	
心身のたくましさの充実	基本的な生活習慣の定着 はっきりと挨拶や返事ができる子（90%以上） けじめのある生活を送ることができる子（90%以上）	児　童：「はっきりと挨拶や返事」９８％　「地域の人に挨拶」９８％ 保護者：「家庭や地域でよく挨拶ができている」８９％ 児童：「けじめのある生活」９４％　保護者：「早寝早起き朝ご飯」８７％	A	A	自分で気付き行動できるよう、挨拶や返事、靴揃えなど身近なことを具体的に指導（躾）する。	・生活習慣が身に付き、比較的健康に過ごせていると思う。地域では、個別には挨拶できるものの集団ではできない。 ・良いところを認められていると感じていることは、それを常に観察し伝えるのに相当な努力を要することだけに、すばらしいと思う。 ・自己目標の達成に向けて頑張っていることはたいへんすばらしく、それが本庄っ子の良いところだと思う。
	自尊感情の醸成 周りの人は自分のことを考えてくれている(90%以上) 自分のことがすき（90%以上）	児　童：「先生は良いところを認めてくれる」９８％ 「自分のことが好きである」８７％ 保護者：「良いところを見つけてほめている」８４％	B		常に児童の心に寄り添い、良いところを認めながら自己肯定感を高め、保護者への理解と協力を進める。	
	向上心や忍耐力の育成 自己目標の達成（マラソン、遠泳等）（90%以上）	児　童：「運動会、マラソン大会を頑張れた」９７％ 保護者：「学校行事は楽しく参加でき充実していたか」９７％	A		目標をしっかり自覚させることで練習や準備の段階から真剣に取り組ませ、達成感を高めさせる。	
豊かな心の育成	豊かな感性を培う体験活動の充実 『地域で、地域と、地域を』学ぶ活動の推進 （自然と歴史に親しみ、人と関わる）	児　童：「ふるさと本庄のことが好きだ」９５％ 教職員：「地域の力を取り入れた教育ができている」１００％	A	A	各学年の発達段階に応じて地域学習を計画的に実践する。地域教材の発見、開発を進める。	・縦割り活動と少人数の効果からか、学年間の壁をあまり感じず、全校生が仲良く生活できていることは、大いに評価できる。 ・ごく少数だが否定的な回答をしている児童がいることがたいへん気になる。 ・体験を通して成長できるので、いろんな事・人に接する機会をたくさん持てるようにしてほしい。 ・時々パフォーマンスで先生を喜ばせたという話を聞くととても嬉しい、『ひとを喜ばせる』という気持ちを持ち続けてほしい。
	個性を尊重し、つながり合う集団づくり 友だちを大切にし、呼びすてをしない子（80%以上） 学級や学校が楽しい（90%以上）	児　童：「友だちを大切にし、呼び捨てしない」９７％ 「学校生活は楽しい」９８％　「仲の良い学級だ」９８％ 保護者：「楽しく学校生活を送っている」９８％	A		学級活動や児童会活動、縦割り活動等の目的に応じて人間関係づくりの充実を図る。	
	健全な倫理観の育成 道徳の授業改善（考え、議論する授業） 人権週間における人権学習の取組	児　童：「道徳の勉強は楽しい。生活に活かしている」９７％ 保護者：「人権感覚が育っている」９４％ 教職員：「人権尊重の態度が育っている」１００％	A		多様な価値観に触れ価値観を高め合える道徳の授業改善を図る。個性を認め合える集団づくりを進める。	
地域、保護者と連携した安心安全で開かれた学校	地域や保護者との連携（横のつながり） 学校運営協議会･地域学校共同活動の充実 授業参観・学校行事への保護者参加（90%以上）	・「ほんじょうカフェ」の開設し、地域と学校の繋がりをより深める基盤とした。 ・授業参観、学校行事に多くの保護者が参加して下さった。	A	A	年間を見通して計画的に地域学校協働活動を推進する。「ほんじょうカフェ」の運営を軌道に乗せる。	・「学校のためなら」と思ってくださる方が多くおられるので、協働活動も少しずつ充実してきたように思う。今後、さらに学校に行く機会が増えると良い。 ・授業参観等に多くの保護者が参加していることは結構なことである。 ・合同学習だけでなく、楽しく交わり合える場の提供が必要なのではないか。 ・不審者や災害などの危険因子に対して、避難訓練などに全力で取り組んでいる姿勢を評価する。 ・少人数なので登下校（特に下校）が心配である。見守りが増えると良い。
	小中一貫教育の推進（縦のつながり） 小中連携による授業改善 園小中連携による児童支援	・国語科、算数科、外国語活動において、小中合同で授業研究を進め、３小学校６年生合同の授業を実施した。 ・園小、小中の情報交流により個に応じた対応ができた。	B		小小・小中による授業力向上の取組方法を見直す。園小の交流の機会を増やし、支援の充実を図る。	
	安心安全な学校づくり 避難訓練の予告なし実施（年３回） 安全点検（月１回）　　分かる学校だよりの発行	児　童：「学校は安心できる場所である。」９２％ 保護者：「学校は健康や安全に配慮し、適切に対応している」１００％ 教職員：「保健安全について適切に指導できた」１００％	A		避難訓練をさらに工夫し、児童自ら命を守る行動がとれるようにする。登下校の安全への意識を高める。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	○子どもたちはのびのび育っていると思う。自分の思いをしっかり言え、人の意見に耳を傾けて考えられるようになってほしい。 ○先生は良いところを認めてくれると９８％の児童が思っている。これはとても大事なことで、子どもたちの生活の土台となっている。また、学校は楽しいと答えている要因の一つでもあると思う。 ○「ほんじょうカフェ」が開設しうまく活用できたと思う。祖父母の協力が大きく、これからも地域学校協働活動が充実していくだろう。地域の方にもっと入っていただき、児童のために、また、地域の方の生きがいにもなるような活動を工夫してほしい。 ○授業参観や学校行事等に多くの保護者の参加があり良かった。祖父母や地域の方にも来てもらえるよう案内ができると良い。 ○図書室リニューアルに伴い、図書ボランティアとぶっくママの方々が連携し、児童の読書意欲が上がることを期待している。 ●挨拶、けじめ、後片付け等は、地域と学校ではやや違うところもあるが、学校では意識して緊張して過ごしているのだなと評価できる。少人数になってなれ合いになっていないか心配している。けじめ、厳しさと優しさのある校風になってほしい。 ▲到達目標が高率である場合はそれで良しと思われがちだが、それに漏れた一人二人の子が一番問題である。それらの子を支援するための教師の苦労はたいへんであると思う。本報告書は、そのような苦労が現れにくい形式だと思う。この形式で評価すればほとんどが高率になっており、評価は当然Ａとすべきと思う。 ▲『働き方改革』の中で質を落とさず時間を減らすことは、たいへんな努力とさらなる工夫が必要である。何かを切らないと施策の共倒れになる。現状を市教委・教職員・保護者・地域等と十分に議論し、全体で子どもが育てる環境を作っていくことが大切である。	A	【確かな学力の定着】 ★『読み解く力』向上に重点を置き、教科を問わず授業改善を図る。特に教材への深い理解・学び合いや深め合いの質の向上を図るための教師の働きかけに注目して授業力向上を目指す。　★児童の思考力や表現力の質の向上を目指し、語彙や表現法、言い回しなどのバリエーションを増やすための取組を行う。その一つとして読書指導をさらに徹底する。（例えば、卒業までに読んでほしい本をリストアップし、読むように推奨、指導する。）　★宿題や自主学習の内容や方法等を学びの喜びを感じられるよう再検討し、学習習慣の定着を図る。 【心身のたくましさの充実】 ★引き続き体育的行事の充実に努めるとともに、児童の健康や安全に配慮して実施時期や内容について改善を図る。　★挨拶や返事などの人間関係を築くための基礎をしっかり躾ける。　★忍耐力の向上や人の役に立つ喜びを体感させるために勤労体験学習の機会を増やす。 【豊かな心の育成】 ★生活科や社会科、総合的な学習の時間を中心に地域を学ぶ取組を充実させ、地域への愛着や誇りを高める。　★児童会活動やクラブ活動、学級活動を工夫し、児童の主体性や協調性、自治能力等を高める。　★道徳や人権学習等の充実により、価値観や倫理観を高める。 【地域・保護者との連携、安心安全で開かれた学校】 ★『ほんじょうカフェ』の活用を促進する。　★学校行事等に祖父母や地域の方々もお招きする。　★学校運営協議会と地域学校協働活動の連動した取組を推進する。　★避難訓練や安全教室等をさらに工夫し、児童の安全意識を高める。　★登下校の安全を高めるための対策を講じる。

４段階評定（Ａ　目標を十分に達成　　Ｂ　ほぼ目標を達成　　Ｃ　やや不十分　　Ｄ　改善を要する）

（様式１）

令和元年度 学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立高島小学校

学校教育目標	確かな学力と豊かな心を身につけ、 たくましく未来を拓く子どもの育成

昨年度の評価概要	
	・楽しい学校、わかる授業 ・・・・B 楽しい学校80% わかる授業89%（児） ・家庭学習で目標時間を達成・・・・B 76%（児）68%（P） ・読書に一生懸命取り組む ・・・・B 67%（児）41%（P）・・・・実態との差 ・自分からすすんであいさつ・・・・B 83%（児）68%（P）・・・・実態との差 ・小中一貫教育の推進・・・・B 学園研究を通じて9年間を見通した指導を意識した71%（教） ・学校からの通信で学校の様子がわかる・・・・B 84%(学校だより)、88%(学年・学級だより) ・地域学校協働活動等効果的な地域との連携・・・・・B 79%（P）

中期的目標	
	○「主体的、対話的で深い学び」の実現をめざし、カリキュラムマネジメントに基づく授業改善を図る。 ○基礎基本の習得を徹底し、学び方を身につける。 ○道徳教育を基軸に児童の個性や可能性を最大限に伸ばす指導を進める。 ○児童理解を深め、人間的ふれあいを基調にした指導の充実を図る。 ○児童の自主的体験的な活動を重視する。 ○家庭・地域との連携を密にし、開かれた学校づくりに努める。

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
○小中一貫教育の推進と充実 ・9年間を見通した教育課程の実践 ・児童生徒の学力の向上 ・小中合同授業研究会の充実(道徳科) ・教科の専門性を生かした授業の展開 ・各ステージでリーダーシップを発揮できる力の育成 ・特別な支援の必要な児童生徒への継続的な指導	・「主体的・対話的に学びを深める子の育成」をテーマに小中合同授業研究会を充実させる。	道徳科の研究発表に向けて、小中学校合同研究会を数回開催した。指導力の向上につなぐべく、意識の高い研修会となった。	A	A	引続き指定研究を継続し、補助金を有効に活用し小中一体となった研究に努めたい。	・小中の児童生徒の交流や教員の人事配置などから一貫教育の推進が図られているが、保護者へのアピールの手法を検討すべき。 ・432による一貫教育のシステムは、中１ギャップの解消には有効であるが、問題も提起されていることから検討の必要もある。
	・教員の授業交流により、高学年で一部教科担任制を拡充するとともに、中学校教員等教科の専門性を生かして学力の向上につなげる。	第2ステージで算数、理科、英語、体育、音楽の5教科において、中学校教員と連携した教科担任制を実施できた。特に算数は、学級担任との複数指導を行った。	A		指導体制に関わることは、人的裏付けが必要となるため、今年度と同様の指導が継続できるよう、中学校と一体となって人事配置の検討したい。	
	・各ステージの活動を充実させるとともに、ステージを越えた児童生徒の交流、教職員の交流を推進する。	ステージの交流活動は計画通り実施した。新規の取組として、6年生部活動体験の回数を増やし、児童生徒の交流の拡充を図った。	A		これまで手薄であった小学校教員の中学校での指導を拡充させ、一貫校としての良さを児童生徒の学校生活の充実につなぎたい。	
	・通級指導教室で学習する新たな児童生徒の指導事例を増やす。	ｻﾎﾟｰﾄﾙｰﾑで個別指導を受ける児童の数は、月ごとに増えた。限られた時間の中で集中して学習する経験が、自己肯定感の育成になった。	A			
○学力の向上 ・「わかる」授業の展開と個に応じた多様な学習指導の工夫 ・教科の専門性をいかした授業の展開（再掲：加配教員による英語学習） ・タブレット等ICT機器を活用した授業改善と活性化 ・「家庭学習の手引き」を活用した学習習慣の確立 ・読書活動、読書環境の充実	・「わかる楽しい授業」80%以上（児童）。	児童アンケート結果（87.4%）から、肯定的な回答を得ることができたが、保護者評価では、ややその数値を下げている。	A	B	道徳の研究を通じて、児童の聴く態度が改善されたと思われる。学習の基本的姿勢であり、引き続き充実した取組にしていきたい。	ゆめノートそのものが宿題のようになっていてはいけない。自主的な学習にステップアップしていく必要がある。 ・「ゆめノート」の取組は、児童や保護者に差がある。学習内容を保護者とも共有し、家庭学習の充実を図る必要がある。 ・読書活動に関しては、低い評価である。目標達成になるよう更なる取組を期待する。
	・タブレット端末を使った学び合い学習の充実。	教職員評価では、前期調査の35.3%に対し、後期は63.6%に上昇し、授業におけるICT機器の活用は進んできた。	B		使用から活用の段階へステップアップしていくために、効果的に活用する指導方法の改善に取組みたい。	
	・チャレンジタイム(漢字検定)、パワーアップタイム(国語算数の基礎基本・記述力育成)の充実。	学年学級で取組に差があったため、期待する成果には至らなかった。	C		『ゆめノート』は児童の主体的な学習姿勢を育てるために取組んでいるものである。『ゆめノートチャレンジウィーク』のように、期間を限定し全校で集中的に取組ませることにより、意欲の持続を図りたい。そのことにより、家庭や学校での自主的な学習態度を育成したい。	
	・家庭学習の時間を達成した児童が80%以上。(１・2年:30分,3・4年:30～50分,5・6年:60～70分以上)	児童アンケートと保護者評価のいずれも、肯定的な回答が増えてきているが、児童の結果に比べ保護者評価では、やや数値を下げている。	B			
	・ゆめノートチャレンジウィークを設定し、ゆめノートの活用を通じて児童の意欲を喚起する。	家庭学習のめやす時間に達している児童は、81.1%となっているが、保護者は74.1%に止まっており、実際は十分とは言えないと思われる。	B			
	・年間１・2年50冊3・4年30冊5・6年20冊以上読書。	最も厳しい結果となっており、児童アンケートでは65.0%、保護者評価ではさらに低く45.3%に止まっている。	C		朝の読書タイム、読み聞かせ活動、図書室の改善などの取組を進めており、継続して読書環境の充実に努めたい。	
○豊かな心の育成 ・特別の教科「道徳」の充実 ・キャリア教育の視点を生かした道徳、総合的学習の充実 ・豊かな感性を磨き、感動する心と表現力の育成 ・心を耕す芸術とのふれあい	・道徳の教材開発と家庭地域への公開に努める。	児童の多様な考えを引き出すために、指導方法の工夫改善に取組み授業スタイルの変化はみられるようになってきた。	B	B	道徳の授業が楽しいと思う児童の割合が増えるように、指導の研究に引き続き取組みたい。	・道徳教育が学園の独自のユニークな取組になるよう更なる工夫を期待する。 ・道徳教育で培われた成果を他の教育活動に繋げていく指導の工夫を期待する。 ・芸術鑑賞の機会は家庭では用意できないので。引き続き継続を期待する。
	・全校の前で自分の考えや思いを発表する機会を増やす。	全校の前で発表する機会は限られるが、大勢に向き合って自らの考えを発表する活動は、学年学級で多く工夫することができた。	B		自分の考えを発言できる児童を育成するために、グループ討議やペアによる話し合い活動を位置付けた指導の改善に取組みたい。	
	・キャリア教育の視点から、総合的な学習の時間や道徳科のカリキュラムの改善を行う。	道徳の授業と他の教育活動を関連させ、学んだ道徳的価値を実践したり、実感したりできるような、アウトプットする活動が十分でなかった。	B		道徳科の授業と他の教育活動（特別活動・人権教育・キャリア教育等）を関連させ、相乗効果につながるよう教育課程の改善を研究の柱の一つに位置付ける必要がある。	
	・学んだ道徳的価値を実践する(ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ)活動を教育活動に位置付ける。					
	・文化芸術に直に触れ、豊かな情操を養う。	室内ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ、狂言、ﾊﾞｲｵﾘﾝｺﾝｻｰﾄのプロの芸術を鑑賞する機会を各学年にバランスよく設けた。縄跳びのﾀﾞﾌﾞﾙﾀﾞｯﾁの演技も全校で鑑賞した。	A		次年度も積極的に補助事業等に応募し、本物のすばらしさに触れる機会を設けたい。	
○豊かな人間関係づくりと社会性の育成 ・人間関係、集団づくりの工夫 ・いじめを許さない学校づくりの展開 ・各ステージでリーダーシップを発揮できる指導の推進 ・学園生活のめあて（あいさつ、掃除、時間を守る）の徹底	・「ゆめタイム」で、友達や多様な人々との交流。（第１st「ちびっこFestival」、第2st「MyCity高島」等）	第2stの『MyCity高島』については、学年に応じた学習になるよう改善を図ったが、第2stの一体的縦割り活動としての弱さが見られた。	C	B	縦割りのチームによる活動をより充実させ、学園の核である第2stの活動を工夫する必要がある。	あいさつは社会生活の基盤であり、80%の達成目標を目指すべきである。 ・時間割のすりあわせの難しさはあるが、児童生徒の縦割り交流をさらに増やせるとよい。 ・「MyCity高島」は、この地域が好きになる子どもを増やせるような取組を期待する。 ・第2ｽﾃｰｼﾞの充実こそ大事
	・学級活動等特別活動の充実により、主体的で協力的な学級集団づくりを図る。	協力的で支持的な学校づくりにつながるよう、発達段階に応じて、ステージごとに集団を意識した教育活動を工夫した。	B		道徳科の授業と他の教育活動（特別活動・人権教育・キャリア教育等）を関連させ、相乗効果につながるよう教育課程の改善を研究の柱の一つに位置付ける必要がある。（再掲）	
	・人権の日(毎月)や人権集会(12月)を充実する。	毎月の人権の日の取組は計画通り実施し、人権について児童に考えさせる機会にできた。	B			
	・あいさつができる児童80%以上をめざす。	児童は、87.9%となっているが、保護者と教職員は低い数値となっており、ズレが大きい。	B		整った挨拶（止まって向かい合ってお辞儀するような）に気づかせて、あいさつの意識化を工夫したい。	
	・縦割り遊びや縦割り掃除の設定(学期ごと)により、望ましい縦割集団と真面目に取り組める態度の育成。	児童会活動の一つとして、掃除や集団遊びを縦割りで行った。また第１ステージでは、縦割りミニ集会を行いより集団を意識した活動ができた。	A		第１stでは、4年生が発達に応じたリーダーシップを発揮する集会を実施し、成果を上げることができた。	
○体力・健康づくりの推進 ・日常生活における体力づくりの習慣化と基礎体力の向上 ・基本的生活習慣の定着	・大縄跳びや業間マラソン等による体力向上をめざし、体力テスト等の記録を伸ばす。	秋のマラソンは十分な練習期間を確保できず、期待する体力づくり活動とはならなかった。	B	C	年間を通じた体力づくりになる運動の時間確保できるか研究する必要がある。	ﾉｰｽｸﾘｰﾝﾃﾞｰは一定定着が見られるが、マンネリ化しないように、成果を確認していく必要がある。 ・食育と睡眠について、保護者を巻き込んだ取組を期待する。
	・食育や睡眠の大切さを理解して生活に生かす。	基本的生活習慣の定着に向けた具体的なポイントとして、食事と睡眠を考えたが、保護者への啓発は十分ではなかった。	C		様々な広報手段を工夫して、家庭との連携強化を図り、改善に取組みたい。	
	・PTAと連携した『ノー スクリーンデー』の定着	メール配信や学校だより等のメディアを活用し、『ノー・スクリーンデー』を周知し、各家庭での取組みの後押しができた。	B		マンネリに陥らないように、児童と家庭に継続的に意識化を図り、成果を確認する必要がある。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・到達目標に対して、「達成」もしくは「改善傾向」が多くみられ、学校と家庭がそれぞれに子どもたちと向き合っている結果だと感じられる。学園生活の目当てである「あいさつ・そうじ・じかん」を守ることや、睡眠・食事・体力づくりといった基本的生活習慣からの見直しを次年度期待したい。 ・道徳教育の充実による豊かな心の育成から、他の教育活動への相乗効果と継続的な指導の成果が確認できればよりよいと感じる。 ・読書やあいさつ、家庭学習の評価が例年通り低いものとなっている。もっと異なった方法で取組を検討する必要があるが、学校だけの問題ではなく、教師と保護者との密接なコミュニケーションが必要であろう。。 ・高い評価を得られた項目が多く、成果があると思う。小中一貫教育のよさを保護者に十分発信し、メリットを最大限に生かす更なる取組を期待する。	B	・4-3-2のステージ制をとっている意味合いを今一度、職員で共有し、それにふさわしい教育活動の再構築を図る。例えば、「MyCity高島」の活動内容など ・社会生活の基盤である『あいさつ』の重要性をより意識させるように、『調ったあいさつ』の指導に取組む。例えば、立ち止まって、相手の目を見て、はきはきした声でなどの具体的指標を示す。 ・読書に親しませるために、朝の読書活動の時間をどの学年も確実に確保し、学年の発達段階に応じた読書指導につとめ、読書に親しむ風土の醸成を図る。

4段階評定（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）

（様式１）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立新旭南小学校

学校教育目標	〈学校教育目標〉 **かがやくひとみ** **～自律できるたくましさを育む～** 〈めざす子ども像〉 自らあいさつする子・自ら考え、きく子 自ら努力し続ける子・自分も仲間も大切にできる子
昨年度の評価概要	・学力の保障：B(授業よくわかる：児92%)　・話す人の顔を見て話を聞ける：B(児64%) ・家庭学習の習慣化：C（目標時間到達7割程度、二極化の傾向大）　・教員の授業公開とICT活用：B（教員の8割が授業公開） ・仲間はずれやいじめをしない：B(児98%)　・自分からのあいさつ：B(児92%) ・黙って熱心にそうじをする：B(児89%)　・児童の自己肯定感の向上：B（自分にはよいところがある：児92%） ・睡眠時間の確保：C（早寝全校で7割どまり） ・給食を残さず食べる：A（残食率年間平均約2%） ・スマホやゲームの家庭での使用ルール有り：C(5，6年生5割以下)
中期的目標	・各教科等の基礎基本の確実な定着と、協働的な学びのある授業づくりに努めて思考力、表現力の育成を図る。 ・町内各校園とより深く連携し、系統性を意識した指導体制の一層の充実を図る。 ・コミュニティースクールの機能により学校に対する地域の理解や関心を一層高める。 ・自分も他者も大切にできる心情を育み、ともに生きる力を伸ばせるような人権感覚あふれる児童集団をつくる。

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
《学ぶ力の育成》 ・学習規範や学習習慣の定着 ・生徒指導の機能を生かした授業改善 ・読書習慣の形成 ・授業改善に向けた教職員の学び合いの充実	・「授業がわかる」という問いに対し60%以上の児童がA評価をする。	「わかる」「どちらかといえばわかる」と答えた児童は全体の児童92%と評価（昨年は92%）し、「わかる」とA評価した児童は62%（一昨年51%,昨年59%）となり3年間で増加傾向にある。「授業でわからないことを先生に質問しているか」という問いに対して、H29…3.24,H30…3.27、R1…3.32（ともに4を肯定評価の満点とした場合）というように若干ではあるが積極性の高まりも見られる。	B	B	・児童が授業の中でペアやグループなど対話する場面をいっそう重視する。そのための教職員の研修の充実を図る。 ・学力の二極化への対応として、アセスメントを重視しながら個別指導できる体制の充実に努める。 ・家庭学習の質的向上をめざす。読み書き計算のドリル学習に加え、本校の課題である文章記述の作業も宿題に取り入れる。 ・読書啓発をさらに進める。 ・保幼小中一貫教育で進める「学習の約束」をどの学級でも意識して指導し、習慣化を図る。	・「わかる」という評価が高いのに学力テストの結果が芳しくないのは、何が原因となっているのか明らかにしてほしい。定着に向けた指導・取組に期待する。 ・二極化ということだが、高学年になればなるほど低位の児童の学力を底上げするのは難しくなるだろう。その意味で低、中学年期の学力保証に取り組んでほしい。 ・2月28日で終わったということだが、インフルエンザ等で長期間休んだ児童の学力補充もしっかりやってほしい。 ・地域の図書館を利用している家庭も多い。新旭図書室からの出張貸し出しの効果も大きいと思う。
	・「話す人の顔を見て話を聞けている」という問い対して70%以上の児童がA評価をする。	A評価した児童は59%と目標値には届かなかったが、聞けている、どちらかといえば聞けている、と回答した児童は92%となり、全体としては聞くことを意識した児童の実態が見て取れる。	B			
	・家庭学習を1～3年は30分程度、4～6年は学年×10分以上行う（90%以上の子どもが目標の時間学習する）。	12月の評価では6年生以外目標の時間以上家庭学習に励む児童は7割程度にとどまった。昨年度同様家庭学習の時間においても内容においても、個人差が大きく二極化の傾向がある。	C			
	・図書室の図書貸出冊数を児童一人あたり毎学期5冊以上とする。	・1学期39%、2学期39%、3学期17%　借りる児童と借りない児童の二極化が顕著になっている。	C			
	・校内研究の推進と教職員の授業公開1人年間2回以上実施 ・「授業をかたろう会」を1ヶ月に1回以上開催とICT器機の活用	・校内研究を計画的、意欲的に取り組んだかの問いに対して教職員の肯定評価は68% ・授業をかたろう会は11月よりスタートして10回程度開催。毎回数名の参加にとどまっているが、経験の浅い職員の貴重な研修の場となっている。	B			
《豊かな心の育成》 ・自分も仲間も大切にする心の育み ・あいさつの更なる習慣化 ・心みがき清掃の徹底 ・自尊感情の育み	・児童の自己評価「仲間はずれやいじめをしない」90%以上	「仲間はずれやいじめをしない」の問いに対し98%の児童が肯定評価。いじめの認知について職員の共通理解を図り、早期対応に努めた。「人の気持ちを考えて話したり行動したりできたか」という問いの対しては、肯定評価は4段階で3.50（昨年度3.44）となっている。	B	B	・引き続き「いじめ」に対する教職員や児童、保護者の認識を深める。 ・各教科、学級指導等あらゆる機会を捉え、自己決定、自己存在感、共感的人間関係という生徒指導の3つの原則を具体化する。 ・いじめ防止対策委員会の定期的開催および毎週の児童の情報交流等で全職員での情報共有に努める。 ・いじめ防止を児童会活動の柱に据え、児童主体の活動を促す。 ・特別活動を重視し、児童の自主的、自治的活動を推進する。	・登校時の挨拶は、リーダー（登校班長）の姿勢によるところが大きい。班長の姿を下級生は見ている。その意味で登校班長への指導は大切である。 ・5年生の時に比べ6年になって目覚ましくリーダー性が伸びた子が目立つ。やはり、ほめてもらったり認めてもらったりした経験からかと思う。子どもたちのがんばりを認めてほしい。 ・子どもたちの自尊感情を高めるためにも、あいさつなど子どもたちの頑張りを今後も気をとらえて認めていってほしい。
	・困り感や悩み把握のために、児童のふりかえりアンケートを毎週末に実施	月3～4回週金曜日に実施。児童の困り感の早期把握と、自己肯定感の状況把握に努め、情報は全職員で共有している。	B			
	・児童の自己評価「あいさつを自分からする」90%以上	児童は92%が肯定評価。職員評価でも全員が肯定評価をするなど、改善傾向にある。一方で、校内では活発なあいさつが見られるが、校外ではあいさつに消極的な児童が多い。	B			
	・児童の自己評価「三つの玉（見つけ玉・しんせつ玉・がまん玉）」を大切にしてそうじをする」90%以上	児童89%が肯定。H29…3.28、H30…3.35、R1…3.35（ともに4を肯定評価の満点とした場合）という3カ年の推移である。	B		・引き続き心みがき清掃の定着に向けて、教職員からの指導の徹底と、児童会の取組支援を行う。	
	・児童の自己評価「自分にはよいところがあると思う」90%以上	児童85%が肯定評価。「思わない」と答えた児童が全校で23名いる。週末実施のふりかえりアンケートから自己肯定感の低い児童に個別に注目すると、毎週固定化している傾向がある。	B		・学級でのかかえこみをなくし、全職員で全児童を見守るスタンスで児童理解に努め、声掛けや居場所づくりを進める。	
《たくましい心身の育成》 ・バランスのとれた体力・運動能力の育成 ・めあてをもって努力し続ける力の育成 ・望ましい生活習慣の確立 ・食育の推進	・持久力、瞬発力の向上	5年生の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、持久力と柔軟性は優れ、瞬発力、腹筋力は平均より劣る。	B	B	・保幼小中一貫教育の重点取組として睡眠指導に取り組んできたが、引き続き養護教諭による保健指導や担任による保健学習を行っていく。 ・保護者と児童の両方が参加できるネット利用に関わる学習会の開催を工夫する。 ・引き続き日々の指導とともに「ふりかえりファイル」等の活用を進める。 ・見る側の関心を高めるためのコンテンツの工夫を重ねながら、引き続き更新に努める。	・持久力の高さは、登下校で歩いていることにもよると思う。 ・今回の臨時休業により生活リズムを崩す子どもがいないか様子を見ていく必要がある。一方で、休業中には自分のことは自分でするということを習慣づける良い機会になっている場合もある。 ・ゲームは禁止と規制はできないだろう。家庭がどれだけ意識してルールを守らせるかが鍵となる。家庭への意識付けを図ってほしい。
	・4年生以上で22時までの就寝70%以上	1年生94%、2年生91%、3年生78%、4年生69%、5年生59%、6年生49%と年齢が上がるにつれ就寝が遅くなる。個人差が大きく個別への指導を要する。	C			
	・ネットやゲームの使用について家庭でのルール有りを90%以上	児童に対して「ゲームやインターネットを使うときの約束を決めているか？」という問いに対して全校では71%は決めている、15%は概ね決めているとの回答である。しかし、昨年に比べ通信ゲームのによる寝不足やトラブルなどの事例が多く上がってきている事実もある。	B			
	・残食率年間平均2%以下	「給食を残さず食べましたか」の問いに対する肯定評価は90%だった。また栄養教諭や給食担当職員の指導の積み重ねも改善に寄与して、残食率は年平均1.6%となった。	A			
	・ホームページによる給食献立の紹介を毎週更新	ほぼ毎日の給食の画像とメニュー、それにかかわるコメントを栄養教諭によって作成し、本校ホームページ上にアップしながら、給食への理解を求めた。	A			

学校関係者評価	総　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・「自律」という言葉はよい言葉である。我慢する、コントロールする、つづける、など今後必要になってくる力を小学校期に身に付けさせる上で、今後も大事にしてほしいキーワードである。 ・「夢の会」などに参加して、行事の引率や学習活動への参加などを通して、地域の人が子どもを見ることで関心が高まっている。そういう地域の人がまだ多くいる。地域のボランティアが学校にどんどん入っていくことで地域と学校が一体化してきた。 ・体の不自由な人の話を聞く学習があった際、子どもたちの真摯な姿に関係の方々が感心されたと聞いた。そういう姿を見てもらうことで学校の「良さ」がどんどん地域に広がっていくと思う。子どもたちにもそういう地域の方々の関心の声を届けてほしい。 ・学校に来てほしいと依頼があることはよいことである。今後も学校を開いていってほしい。	B	・授業時数の確保を優先し水曜6校時を設けているが、一方で子どもたちに基礎基本の定着を行う学力補充の時間確保の位置づけが曖昧になっている。既習内容の復習に重点を置きながら、「理解」から「定着」への取組に力を注ぐ。また、低、中学年期の基礎基本の定着のために、学習規範、学習習慣の定着を一層進める。 ・地域学校協働活動が3年目を迎えるが、左記のような地域住民の声に応えるためにも、地域ボランティアが学校に入る機会を一層増やしていきたい。学校側からの支援要請をより積極的に行っていく。あわせて、子どもたちには地域ボランティアの感想などの声を機会を捉えて伝えていく。 ・登下校指導を通して上学年の自尊感情の育みとリーダー性の伸長を図る。そのためにも子どもたちの姿を看取って、機会を捉えてそのがんばりを認めていくことに努める。 ・ゲーム依存による生活習慣の乱れを防ぐため子どもたちには自己コントロールできる力を育みたい。次年度もPTAと連携しながら啓発を進める。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式１）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立新旭北小学校

学校教育目標	「自ら学ぶ子どもの育成」 夢や目標に向かい、仲間と学び合い、支え合いながら努力する子ども

昨年度の評価概要	・学習規律の徹底や児童の主体的な学びを意識した授業づくりに取り組めたがともに88%となり学ぶ力を育む授業づくりについて教員の中で取り組む意識が浸透してきている。 ・時と場に応じた言葉遣い、あいさつ等、子どもはできていると自己評価しているが、教員や保護者は評価が低く差が出ている。 ・縦割活動は異年齢がふれあえる活動で、そのよさを生かした多くの活動がなされ仲間づくりに役立っている。（仲間はずれやいじめをしない　子どもの意識94%） ・地域学校協働本部が立ち上がり北小希望の会（保護者ボランティアの会）もできた。会員も30名を超えボランティア活動の中身も充実してきた。

中期的目標	＜中期的（3年間）目標＞ ・豊かな人間性、社会性の育成と学力向上 （生活習慣・学習習慣の確立） ・教員の授業力の向上 （授業改善と個に応じた指導） ・地域とともにある学校づくりをめざす （学校運営協議会　地域学校協働本部）

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
◎確かな学力を育む授業づくり ☆学力向上ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝの実践化 ・各教科の基礎・基本の徹底 ・言語活動を窓口とした授業改善 (ペアやグループを通しての対話的学び) ・個に応じた少人数指導 ・教師の指導力の向上 ・外国語教育の推進 ・考え議論する道徳科の推進	学年に応じた学習規律の確立を図る。	学年の発達段階に応じて学習規律の徹底を図っている。「規律の徹底が図れている」が88%となっているがメリハリをつけた指導がさらに必要である。	B	A	全職員で共通理解を図り、教室に決まりを掲示し常に意識させながら指導する。	・学習に真剣に取り組める学級集団作りが前提にある。そのための「きまり」の振り返りをお願いしたい。 ・学習内容の変化に伴い先生方も大変だと思います。その中で意識の高まりを自覚できるのは取組の方向性が正しいのでしょう。 ・家庭学習習慣は時間ばかりでなく内容も充実を望みます。 ・木工作業の時に会のメンバーが補助することで授業がスムーズに流れまとめの時間や振り返りの時間が確保できた。他の授業にも活用できれば良い。
	子どもにとって授業が楽しい、学習がよくわかる授業づくり。	家庭学習がんばり週間を月に１回実施。個人や学級のデータを蓄積して生かしている。学習する中身を学級だよりなどで紹介できた。	B		目標達成できない子には、保護者への協力もお願いしながら具体的にやる内容も指導する。	
	授業において、めあての提示と振返りタイムの確実な実施を図る。	授業改善（児童の主体的な学び等）を意識して授業に取り組めた。職員評価94%と意識の高まりがみられる。	A		まとめの時間での振り返りの時間確保とその日の家庭学習の関連を図る工夫をする。	
	研究授業の充実に努め児童の学力向上と指導者側の資質向上に資する研究を行う。	小学校サポートパック事業を受け国語の研究を深めた。道徳の研究授業も計画的に行い、教育研究所からも指導を仰ぎ研究の深まりが見られた。	A		事前の話し合いや教材研究を大切にして組織的に授業づくりができる体制を取る。	
◎柔軟でやさしい心づくり ☆マイスクール事業の推進 ・地域の人・もの・事に学ぶ ・心をつなぐあいさつ運動の推進 ・縦割り活動の充実 ・朝読書、家読など読書活動の充実 ・ストップいじめ行動計画の推進 ・毎月の人権の日の設定 ・ぽっかぽか集会と人権月間の設定	言語環境を整え、時と場に応じた言葉遣いができる。	時と場に応じた言葉遣いができている、子どもの評価81%、教師の評価47%。子ども達は言葉の使い分けができず日々の指導の継続必要。	C	B	友だちと目上の人に対する物の言い方の違いなど全職員で共通理解をして粘り強い指導をしていく。	・弱い立場や障がいのある人に対する福祉教育も含めた人権教育の取組をお願いしたい。 ・あいさつは特に高学年の姿勢が手本になるので引き続き5・6年生の継続的な取組をお願いします。 ・１年間の切磋琢磨の成果で落ち着きがある子ども達の姿が見られます。１年生の自主的な挨拶の声に心が癒されます。中・高学年が顔を見て挨拶をしてくれるとよいです。
	自分から進んであいさつと素直な返事ができる。	自分からあいさつができた。子ども87%、教師55%となり意識に差が出ている。相手の顔を見てすることや登下校時の挨拶ができないことが多い。	B		高学年がしっかりすれば低学年もできるので指導を重点的に指導をする。児童会のあいさつ運動は有効。	
	読書に目標を持ち、進んで読書ができる。	学級文庫に必読書を入れ、図書室もボランティアさんを中心に整備が進んだ。「本をたくさん読んだか」子どもの意識70%を上げる取組が必要。	B		家読をすすめる。読み聞かせなど本のよさを知る機会を増やす。授業と関連した読書指導も充実させる。	
	仲間はずれやいじめをしない、負けない、許さない。	人権集会や毎月の人権の日の設定を行い、機会を捉えて指導をした。いじめ、仲間外れにしない子どもの意識90%、仲の良い子がいる保護者97%。	A		道徳を中心に相手の立場を考える授業を実践していく。教師側の人権意識を研ぎ澄ますとともに、共通した認識で指導にあたる。	
◎強くしなやかな体づくり ☆体力向上ﾌﾟﾗﾝの実践化 ・遊びを通した仲間づくり ・体力・運動能力向上の全校的な取組 ・食育を通した健康な体づくり ・生活習慣の確立 ・学年ごとの評価目標の設定	体育の始まり5分間運動と外遊びの充実を図る。	学級でみんな遊びの機会を設けてた。秋のマラソン練習や冬の縄跳びの練習に熱心に取り組む児童が多い。毎日30分以上の外遊び子どもの達成率77%	B	B	目標に向かあって取り組めるマラソン月間、なわとびタイムの奨励と遊具や外遊びの機会を増やす。	・外遊び、みんな遊びの日を学級会活動（児童会、体育委員会等）などで子どもが自主的に取り組めるのも有効だと思う。 ・夜更かし、歯の治療は家庭への啓発を継続してください。個別も有効。 ・保護者が常にスマホをさわっている環境でのゲームルール決めはなかなか難しい。ゲーム脳、スマホの危険性等ひびきあいやPTAの研修会で取り上げていくことは大切。読書の環境は整ってきましたが家庭のゲームの力には負けるんですね。
	スマホ・ゲーム・テレビは家で決められた時間内を守る。「ノースクリーンウィーク」の推進	「ゲーム等決められた時間を守れているか」の保護者の評価は63%、子どもの評価は81%で認識の差が大きい。	C		学校だけでなく保護者とも連携を取りゲームの時間など各家庭のルール作りを進める必要がある。	
	「早寝早起き朝ご飯」の推進	「早寝早起き朝ご飯の生活リズムがついているか」保護者の評価81%子どもの評価80%。課題は夜10時までに寝た子どもの達成率68%で特に6年生は50%を下回る状況である。	C		特に高学年での夜更かし傾向が強いので家庭への呼びかけをさらに進める。夜型のライフスタイルが進み、難しい面がある。	
	むし歯の治療率の向上	治療勧告は34．1%で今後はフッ化物洗口の効果を見ていく必要がある。受診率が昨年度64．5%で今年度72．8%と改善された。	B		保護者懇談会などを利用して治療勧告を個別に手渡し、再勧告も実施していく。	
地域とともにある学校 ◎保幼小中・家庭地域との連携 ・学び合いに視点を当てた授業交流の推進 ・生活習慣・学習習慣の確立 ・子どもの交流活動の充実 ・自立と共生による環境作り ・学校運営協議会と希望の会の充実による地域とともにある学校づくり	家庭学習を学年×10分以上行う。（1・2年生は30分間）	「家の勉強をしっかりしているか」子どもの達成率85%　保護者の意識74%で固定化しつつある達成できない児童に声かけをしていく必要あり。	B	A	家庭学習ができていない児童への個別指導と内容の質を高める学習内容の紹介が必要。	・「家庭学習のしおり」等を工夫してはどうか。 ・希望の会の活発な取組が特に評価できる。 ・学校だよりを随時届けてくださるので北小の様子がわかりやすく伝わっている。 ・地域の協力体制が構築されてきています。学校からの情報発信もタイムリーです。 ・授業についていけない児童の対応も協力してもらえる体制づくりがこれからの課題です。
	学校運営協議会と希望の会による地域とともにある学校づくり	地域学校協働本部と「北小希望の会（保護者ボランティアの会）」は会員も46名となり、ボランティア活動の内容も充実してきた。	A		ボランティアが必要な行事の早めの周知をして人材の確保を図る。登録させていただいた人材の有効な活用も進める。	
	保幼小中一貫教育の推進	今年度統一研修日を設けて授業をしたため職員の意識は上がった。5・5交流や授業研を実施して成果も上がっている。「積極的に取り組んでいる」は教師の評価76%	B		事前研究会をして意識を高める。統一研修日は引き続き実施して職員の意識を高めていく。	
	タイムリーで分かりやすい学校情報の発信	学校だより、学年だより、学級だよりをタイムリーに発行し学校の様子を伝えた。緊急時のメール配信も有効にできている。保護者の評価94%	A		学校の方針や学校運営協議会の内容を伝える。学校での教育実践もタイムリーに伝えていく。	

学校関係者評価	総　　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・希望の会を中心に子ども達の様々な活動に地域の方の協力が得られ活性化されている。 ・学校全体が落ち着いた雰囲気で登校時の地域の方々の見守りも目につきありがたい。地域ぐるみ学級ぐるみで学校をサポートして地域の子どもを地域で見守り「安心・安全」な学校につながっているように感じる。 ・学力、体力、心のトータルな指導のため、学級、学年の独自性を保ちつつ全校児童全職員及び地域で育てる仕組みを引き続き期待します。特に道徳の研究を核にした「心の教育」の充実、人権教育や言葉づかいの日常的な指導を引き続き重点的に推進していただきたい。 ・学習内容の変容には目を見張るばかりですが、子ども達につけたい力の根本は常に「自分で考えられる子」に育ってほしいということです。いろいろな体験をし、多くの感動を持ち、それを表現する手段を持つ。自分を表現するだけでなく、まわりの人の思いや考えにも興味を持ち関わっていこうとする。そんな人間を育てるために学校の先生方の率先のもと、地域も（家族を含む）ともに子育てをする。地道な努力が一番だと思っています。	B	・オンラインゲーム等危険を含む点を継続してPTAに周知していく。 ・朝起きられず集団登校ができない児童がいる。生活リズムの改善とともに集団登校の必要性を児童、保護者に周知する。 ・保健室利用の状況等子ども達の体だけでなく、心のよりどころとなるサポートの仕方や落ち着く場所を考えていく。 ・学年により少人数授業やTTのサポートがあるが１年生の算数は言葉の理解面での課題が多い。国語の拗音、促音の指導を含め読み解く力の向上を図る。 ・登下校の見守りや低学年の指導がしっかりできる高学年のリーダーの育成に力を入れる。 ・授業や児童会、帰りの会等を通して、自分の思いを話す機会を増やし、児童のコミュニケーション能力を高める。

4段階評定（A　目標を十分に達成　B　ほぼ目標を達成　C　やや不十分　D　改善を要する）

（様式１）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立マキノ中学校

学校教育目標	品位・気魄・和合 「自主・自立・感謝」 校訓：「想像の３センチ上をいく」 ｷｬｯﾁﾌﾚｰｽﾞ：「日本一の環境づくり」

昨年度の評価概要	・授業がわかる９０％（生）　・家庭学習６０分以上６４％　・部活動の充実９０％（生） ・月２冊以上の読書４７％　・給食の完食９０％　・１０ｋｍロードレースへの意欲９６％ ○学力向上への取り組み・・・グループ学習の充実と補充学習の徹底 ○いじめ点検・・・生徒・保護者月１回を実施 ○１１時までの就寝・・・４７％　自己管理を指導し、保護者にも要望 学校関係者評価より ・自ら学習に取り組もうとする課題の工夫や授業の展開を工夫してほしい。 ・生徒の仲間づくりに力を入れ、いじめ問題等には教師がすぐに対応できるようにしてほしい。 ・携帯やスマホのマナーやモラルの指導を継続してほしい。 ・安定した学力をつけるため、読み解く力や自ら考える力の育成をお願いしたい。

中期的目標	□学びの姿勢の育成 □自立した生徒の育成 □豊な心を育てる体験活動の推進 □新教育課程に向けた研鑽を積む教師 □学校・家庭・地域の繋がりを深める活動の推進 □教師の高い経営参画意識と組織対応 □個性を生かし支え合える教師集団

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
学力の向上 基礎基本の徹底 家庭学習の定着 学び合う学習の充実 表現・言語活動の充実 総合的な学習の構築	「授業がよくわかる」と生徒の　９０％以上が評価	「授業がわかる」と肯定的な回答は全校生徒の９０％。	A	B	分かる授業を発展させ、生徒が主体的に考え、学ぶ授業を各教科で推進する。	・１日６０分以上の学習をするためには、何のために勉強するのかということを分からせておく必要がある。６０分間じっと机に向かっていられない子どもや何をしていいかわからない子どもにどうすればいいのか等の方向性を示してやるのは家庭の責任でもある。 ・授業の中では自分で考えて、自分の言葉で話す機会を増やして学力の向上にさらに努めるべきである。 ・子どもの学習時間の把握は保護者はそんなにしっかりできてはいないだろう。
	生徒９０％以上が家庭学習を毎日　６０分以上	ほぼできたという肯定的な回答は、生徒は５２％；保護者は３８％が回答。	B		日常的な学習課題を明示し、生徒の手で点検を行うなどの活動を作り出していく。	
	学び合う場面を設定した授業実践	形式にとらわれず学び合う場面を設定する前の段階で、自力思考をもとに考える授業を構築中である。	B		自らの考えを交流し、理解を深める場面設定を授業の中に取り入れる。	
	全授業における1分間スピーチの実施	スピーチは定着しているが、内容の停滞が見られる。方法と意識を改善し、質の向上をさせる必要がある。	B		授業の始まりに固執せず、授業終わりなどに取り入れ、内容の深化を図る。	
	ICT機器を活用した授業実践	市より導入されたタブレット端末は積極的に活用している。全生徒が触れる機会は作れた。	A		生徒の理解度を深めるためのICT機器の活用を積極的に行い、あらゆる機会を通して活用す	
	進級試験を加味した学年末試験の実施	単なる暗記問題でない試験問題作りに取り組んでいる。進級試験までには至っていない。	C		進級するにあたり身に付けておくべき内容として試験内容を検討し、必須問題の完全履修を行う。	
	全教職員による補充学習（テスト週間）	定期テスト時に計画的に実施している。全教職員で行う計画には至らなかった。	B		計画的な補充学習を行う。最低限必要な内容を各方法で身に付けさせる。	
豊かな心づくり 道徳教育の充実 集団づくり・体験活動の充実 読書の推進 ボランティア活動の推進 いじめ防止を含めた生徒指導の充実	ｱｸｼｮﾝﾄﾚｰﾆﾝｸﾞを取り入れた道徳教育の実践（授業研究の充実）	道徳の教科化に向けた研究・実践に取り組み、今年度は全教員が１度道徳授業を行う取組を行った。	B	B	ともに考える、多角的・多面的な思考を推奨するなど道徳の実践研究を推し進める。	・今の学校は我慢しなくてもよいという雰囲気になっていないかを危惧する。社会に出て必要となる力を教えていく場面を設定していくべきである。 ・本を読みこむということはできていない気がする。読み取る力を付けるために継続した取組は必要である。
	「いじめ点検」を月２回実施　いじめの解決　１００％	「いじめを見た、した」ことがない生徒が８７％。数少ないいじめ事案も即座に解決し、見守りを続けている。現在継続中はなく、解決はほぼ１００％。	A		いじめはなくすものであり、いじめを許さない集団作りを生徒会と連携して進める。	
	年間３回以上のボランティア活動参加	ほぼ全員の生徒が積極的にボランティアに参加した。回数は不確かな部分があるので、参加予定を決める必要がある。	B		参加実績を把握するとともに、地域コーディネーターを活用し、活動を継続する。	
	月２冊以上の読書　朝読書の充実	２冊以上の読書は、１学期末では６３％、２学期末で５０％。朝読書は定着している。	B		図書館の活用や全校読書の工夫などを通して、活字に慣れ親しむ姿勢を育てる。	
健康な心身の育成 健康な生活リズムの確立 自己管理の定着 食育の推進 部活動の充実 克服体験行事の充実	夜11時までに寝る生徒が80%	１学期はできたと答えた生徒は６１％。２学期は４６％。	C	A	家庭と連携し、健康管理に欠かせない睡眠の重要性を継続して訴えていく。	・学校が楽しいものであるという前提に立つと、楽しくないと思う子は居づらくなるのではないか。我慢と辛抱を学ぶ中で、楽しさを発見していくのだという指導の工夫が大切である。否定的な考え方の子どもが苦しくならない、夢をもてるような雰囲気の学校を目指していくべきである。
	給食の完食　90%	給食の残食はクラスによる差がある。野菜の積極的摂取が今後の課題である。	B		食を通した体作りなどを知る機会を作るなど、継続した指導をする。	
	部活動が充実していると感じる生徒が90%以上	８７％（１学期）、８９％（２学期）の生徒が充実していたと回答。保護者も子どもの姿勢が積極的だったと評価しているのは９６％以上。	A		非科学的な指導を排し、市の方針の下、効率的な指導改善を図る。	
	ﾁｬﾚﾝｼﾞｳｫｰｸ、10km ﾛｰﾄﾞﾚｰｽの達成感９０％以上	ﾁｬﾚﾝｼﾞｳｫｰｸ、ﾛｰﾄﾞﾚｰｽの充実感は８９％であった。苦しい中でも頑張れたという生徒は多かった。	A		地域人材や保護者が積極的に協力してもらえる方法を工夫する。	
	「学校に来るのが楽しい」と感じる生徒が　９０％以上	授業が楽しいと感じた生徒は、１学期８６％。２学期は８５％。	A		教師に認められていると思えるような活動、実践を工夫していく。	
保護者・地域とともにある学校の創造 地域との連携の強化 学校開放日の設定 積極的な情報発信 安心安全の学校 学校評価の充実	学校運営協議会・地域学校協働本部の活性化と連携強化	学校運営協議会は定期開催できた。地域学校協働活動は生徒のボランティアは進んだ。外部人材の効果的な活用人数は少なかった。	B	B	様々な情報の発信、活動の構築などに取り組み、地域とつなげる活動を進める。	・地域の力を活用する様々な手立てを講じていくことが大切である。学校運営協議会委員だけでなくPTA会員も巻き込んだ取組を展開していくべきである。 ・保護者が忙しすぎて、本来家庭がやるべきことが学校任せになっている。それを家庭に戻す啓発などを繰り返していく必要がある。
	毎月「学校開放日」を設定	行事や授業参観を含めての開催は行ったが、定期的な設定は一度きりで、広報不足であった。	C		定期的な開放日を設定し、地域学校協働活動と連携させていく。	
	「学校だより」「学年だより」の毎月発行　HPやﾒｰﾙ等での情報発信	「学校・学年だより」はほぼ毎月発行し、８９％の保護者がよくできていると評価した。ＨＰは地域学校協働活動のページを開設した。	A		継続して実施する。	
	年間２回の学校評価（保護者・生徒アンケート）実施と結果公表	７月と１２月に実施した。結果は改善に役立てた。個々の内容については適宜対応した。	A		継続して実施する。	
	保護者対象「いじめ点検」を月１回実施	毎月ではないが、保護者を負担をかけない程度の回数を実施し、内容によって即時に面談を行った。	B		保護者の要望に沿った形で継続していく。	
小中一貫教育の推進 キャリア教育・学力向上を軸にした取組 小中合同授業研究の実施	「夢カード」を学校生活向上に繋げる効果的活用	「夢カード」を使った授業を行った。県のキャリアパスポートとの関連を考慮し、深まりのある取組が必要である。	B	A	「生きる力」を育てるキャリア教育になるよう、全教育活動を通して実践する。	・３つの小学校が一つになることで、新しい友達作りができ、楽しさを感じる子供が多いが、学童が１つしかないのでその時のつらい経験が残っていることもあることを知っておいてほしい。
	地域学校協働活動のHPを活用した情報公開	地域学校協働活動のHPを開設し、中学校が先行していろいろな情報を公開し、更新を続けた。	A		積極的な情報公開、様々な取組への協力依頼などを継続して取組む。	
	事前研究・合同授業研究会への意欲的な参加	各教科、道徳など積極的に参加し、深まりのある研究会となった。	A		小学校との連携をあらゆる方面から続けていく。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・保護者の姿勢が子どもに大きく影響している。学ぶ姿勢などを子どもに定着させるために、保護者に様々なことを教えていくことが必要である。学校運営協議会と学校、ＰＴＡで協議して、今必要と思われることを展開していくべきである。 ・最近の社会では、人間関係を初め、些細なことがきっかけで仕事をやめる若者が多くなっている。辛抱や我慢を学ばせることは大切であるから、授業の中でも、自ら学ばなければできないことを設定し徹底してできるまでやるなど、学習の充実を図ってほしい。 ・学校教育と家庭教育は役割が異なるということを保護者に定着を図り、社会がよその子を怒らないようになった時代だからこそ、保護者が一緒にいられる時間を大切にし、家庭の役割を果たせるようにしっかりと指導をしていきたい。 ・地域と学校が繋がることは大切である。ともに目指すべき方向性を共有し、お互いができることを役割分担し、地域が支える学校に、学校が元気な地域づくりを進めていきたい。ともに歩める活動を構築したり、理解を深める話合いなどにも取り組むべきである。	B	・学校運営協議会とＰＴＡ活動の連携を図るために、教職員も交えた話合いを設けたり、学校行事でともに活動したり、支援する活動を積極的に取り入れる。 ・学習の主体は生徒であることを認識させる授業展開をする。深い学びが辛抱や我慢という側面を育てるということもあり、受け身的な学習では得られない学びを授業の中で構築していくために、自ら考え議論する、アクティブな授業展開を工夫する。 ・情報モラルなどを定着させるために家庭での指導を継続して依頼する。また、入学前には、姿勢や態度など、学ぶ意欲に繋がる基本的な習慣作りを家庭とともに育てるように仕向けていく。 ・学校には楽しいことがあると思えるように、いじめを許さない仲間づくり、お互いを認めあえる仲間づくりを進める。また、地域や保護者との触れ合いの機会を増やし、支えられてい生活していることを実感させるようにしていく。

４段階評定（A　目標を十分に達成　　B　ほぼ目標を達成　　C　やや不十分　　D　改善を要する）

（様式1）

令和元年度 学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立今津中学校

学校教育目標	
	ふるさとに愛着をもち 豊かな心と社会性を育み 夢の実現を図る生徒の育成 【校訓】 真理の探究・正義の実践・平和の愛好

昨年度の評価概要	
	○学力の向上…C ・家庭学習を1日1時間以上している。（生徒41%） ・家庭学習の取組が定着している。（教職員43%） ○豊かな心づくり…B ・道徳の授業で生き方についてしっかり考えた。（生徒83%） ・道徳の授業を重視し、充実に努めた。（教職員82%） ○健康な心身の育成…B ・部活動を頑張った。（生徒97%） ・支援が必要な生徒の情報を共有し支援の充実を図った。（教職員87%） ○地域連携…B ・PTA活動は保護者によく内容が伝わり充実している（保護者80%） ・学校と地域が連携を取り、子どもの教育を進めている。（保護者73%）

中期的目標	
	○積極的に学ぶ姿勢を育成する ○豊かな心を育む体験活動を実施する ○学友会活動を充実させ、自治的・自律的な集団を育成する ○正しい判断ができる生徒、規範意識が高い生徒を育成する ○保護者や地域に信頼され開かれた学校づくりを進める ○教師の授業力を向上させる ○生徒に寄り添い率先垂範する教師集団づくり

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
学力向上・学習指導	①よくわかる授業が行われている。	生徒アンケートで「学校の授業はわかりやすい」と答えた生徒→85% 保護者評価で「コンピュータなどを効果的に使いわかりやすい授業が行われている」と答えた保護者→86% 教職員評価で「ICTを活用してわかりやすい授業づくりができた」という教職員→96%	B	C	タブレット端末機などICTを効果的に活用するなど、わかりやすい授業づくりに努める。	・家庭学習がしっかり定着していない状況が特に気になる。 ・学校からの宿題の量や質が適切であるのか、その点検の仕方などの検討が必要である。 ・生徒に家庭学習の大切さを伝えていくことが必要である。 ・小中の連携や保護者への働きかけも工夫してほしい。
	②授業中自ら学び話し合い活動ができる生徒を育成する	生徒アンケートで「グループ学習で自分の意見を言えている」と答えた生徒→81% 保護者評価で「グループ活動を効果的に使いわかりやすい授業が行われている」と答えた保護者→90% 教職員評価で「グループ活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの授業改善に努めた」と答えた教職員→86%	B		ペア学習やグループ学習など話し合い活動の活性化に向けてさらに研究を進める。	
	③家庭学習が毎日1時間以上できる生徒を80%以上にする。	生徒アンケートで「毎日1時間以上学習している」と答えた生徒→32% 保護者評価で「家庭学習の課題は適切（宿題、自主学習）である」と答えた保護者→67% 教職員評価で「家庭学習の取組が定着できている」と答えた教職員→22%	D		家庭学習の意義を理解させ、宿題の出し方を研究したり、やり切らせる指導を工夫したりする。	
	④朝読書、朝学習が徹底されている。	生徒アンケートで「朝学習・朝読書にしっかり取り組めている」と答えた生徒→62% 教職員評価で「朝読書・朝学習の取組は定着している」と答えた教職員→76%	B		朝読書や朝学習がさらに徹底するよう、集団指導と個別指導を粘り強く行っていく。	
豊かな心づくり	⑤道徳の授業の充実を図る。	生徒アンケートで「道徳の授業では自分のことや生き方について考えた」と答えた生徒→84% 教職員評価で「道徳の授業を重視し、充実に努めた」と答えた教職員→96%	B	B	道徳の授業の在り方を引き続き校内研究のテーマに据え、授業研究会を行っていく。	・道徳の授業を研究され、改善されている点は評価したい。今後もさらなる研鑽を積まれたい。 ・文化祭や学友会活動には生徒は満足していると思われる。引き続き、生徒の主体性や創造性等を伸ばしてほしい。 ・人のために行動できる生徒の育成に努め、心豊かで社会性のある人を育ててほしい。
	⑥集団を育成する行事を実施する。	生徒アンケートで「文化祭の取組はしっかりできた」と答えた生徒→98% 教職員評価で「学級・学年の団結や活力を養うための行事が実施できた」と答えた教職員→100%	A		自分たちで創り上げる文化祭や体育祭を継続し、生徒の主体性や創造性を育む。	
	⑦学友会活動を活性化する。	生徒アンケートで「学友会活動は活気があり進んで活動している」と答えた生徒→85% 保護者評価で「生徒が学友会活動に積極的に取り組めるように指導・支援が行われている」と答えた保護者→91% 教職員評価で「学友会の委員会活動の活性化が図られた」と答えた教職員→91%	B		計画的に執行部活動や委員会活動、全校活動を設定し、その成果を認め、学友会活動の活性化を図る。	
	⑧人のためになることを意識して行動する。	生徒アンケートで「人のためになることを意識して行動している」と答えた生徒→86% 教職員評価で「人のためになることを意識して行う生徒の育成に努めた」と答えた教職員→74%	B		生徒のよい行動を積極的に認めたり、ほめたりして意欲や自信をもたせる。	
健康な心身の育成	⑨学校が楽しいという生徒を90%以上にする。	生徒アンケートで「学校は楽しい」と答えた生徒→90% 保護者評価で「日常生活の指導が丁寧になされている」と答えた保護者→86% 教職員評価で「支援が必要な生徒の情報を共有し支援の充実が図れている」と答えた教職員→91%	A	B	生徒が主体的に活動する場を工夫し、互いによさを認め合い、高め合える集団をつくる。	・学校が楽しいと回答している割合が9割を示しており、とてもよい。これは、日頃の取組の成果が出ているものと思われる。 ・掃除や部活動に関する項目で、生徒と先生方の意識の差が見られる。その差は何によるものか。 ・学校での様々な取組が家庭で話題になるような働きかけを工夫してほしい。
	⑪毎日の清掃がしっかりできる生徒を90%以上にする	生徒アンケートで「毎日の掃除にしっかり取り組めている」と答えた生徒→97% 教職員評価で「清掃指導の徹底と学校の環境美化が実践されている」と答えた教職員→83%	B		清掃活動を生徒が持続できるよい活動の一つとして大切にし、その活動の質を高める。	
	⑫校内駅伝マラソン・体育祭に参加する生徒を95%以上にする。	駅伝マラソン大会、体育祭では90%以上の生徒が参加し、やり切ったという清々しい表情を見せる生徒が多く有意義な行事となった。また、たくさんの保護者や地域の方が応援に来てくださった。	B		やる気や主体性を発揮する場、自分を鍛える場としての目的意識をもたせ、継続して取り組む。	
	⑬部活動が充実している。	生徒アンケートで「部活動に休まずに参加している」と答えた生徒→73% 保護者評価で「部活動が効果的に運営されている」と答えた保護者→76% 教職員評価で「部活動の取組・運営は充実している」と答えた教職員→83%	B		部活動は自主性や連帯感、社会性を育む活動であり、限られた時間の中で効果が上がるよう取り組んでいく。	
地域連携	⑭サポーター会や地域の団体との連携を進める。	保護者評価で「PTA活動は保護者によく内容が伝わり充実している」と答えた保護者→が77% 教職員評価で「地域の生徒の育成を目指して、サポーター会や地域の団体との連携は機能している」と答えた教職員→87%	B	B	サポーター会や地域の団体と積極的に連携し、学校と関わっていただける人口を増やす。	・サポーター会は、必要な声掛けをしてもらったら、その要望に応えられるようにするので、遠慮なく連絡をしてほしい。 ・今津地域の運動会が中止になったこともあるが、地域の活動に参加した生徒の割合が少し低いように感じる。生徒がどのようなボランティア活動を望んでいるのかを踏まえ地域との連携を進めてほしい。
	⑮地域とともにある学校づくりを進める。	保護者評価で「授業参観や懇談会の機会は適切に設定されている」と答えた保護者→86% 「学校と家庭が連携をとり子どもの教育を進めている」と答えた保護者→73% 教職員評価で「PTA活動は学校の教育活動と連携して取り組んでいる」と答えた教職員→100%	B		授業や行事において家庭や地域の方と協働する機会を増やしていく。	
	⑯生徒の地域活動への参加を推進する	生徒アンケートで「地域の活動に参加したことがある」と答えた生徒→56% 教職員評価で「生徒の地域行事への主体的な参画が推進できた」と答えた教職員→74%	C		地域でのボランティア活動に取り組める機会や場をさらに開拓していく。	
	⑰保護者の学校に対する満足度を80%以上にする。	保護者評価で「学校はいろいろな相談をしやすい雰囲気である」と答えた保護者→78% 「学校や学級からの通信や案内は適切に配布されている」と答えた保護者→85% 「いじめなどの問題が起こらないように生活環境に配慮している」と答えた保護者→78%	B		学校の様子などを進んで情報提供するとともに、保護者が相談しやすい雰囲気づくりに努める。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・全体的には、いずれの評価項目においても、「B」（ほぼ目標を達成している）となっているは、日頃の先生方の頑張りが成果として出ているものと思われる。引き続き、組織が一丸となって教育活動を推進し、教育目標の実現に努めてもらいたい。 ・しかしながら、評価低い2つの項目、 「D：家庭学習が毎日1時間以上できる」、「C：生徒の地域活動への参加を推進する」については、原因がどこにあるのか、なぜそうなるのかなどを究明した上で、その改善策を検討し、共通実践をしていく必要がある。 ・学校現場には学力向上や生徒指導などさまざまな課題がある。そうした課題を解決するには、学校だけではむずかしいことは言うまでもない。学校と家庭、そし地域の三者が、課題を共有し、その解決に向けての方策を考え、取り組んでいく「地域とともにある学校づくり」を一層推進してもらいたい。 ・別室指導は人数も多くて大変だと思うが、家庭や関係機関等と連携を密にしながら、組織的な対応に努めてもらいたい。	B	◎「家庭学習を毎日1時間以上すること」について ・家庭学習の充実に向け、家庭学習の大切さを生徒にしっかり示すとともに、宿題の量や質について、その点検の仕方、授業との関連等などさまざまな観点から検討していきたい。 ・小中一貫教育の中で、中学校区で「家庭学習の手引き」を作成しているので、その活用についても小学校と連携を図りたい。 ・キャリア教育の視点から、「今の学びが将来のあるべき自分の姿につながっている」という点についても訴えていきたい。 ◎「生徒の地域活動への参加を推進すること」について ・地域に役立つ生徒、地域に貢献できる生徒をめざすことをもっと生徒に意識づけをしていきたい。 ・地域の団体等との連携をさらに充実させるとともに、生徒のボランティア活動の開拓に努め、生徒が地域の人とふれあえる機会を増やしていく。また、その活動の成果等を広く発信していきたい。

4段階評定（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）

（様式１）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立朽木中学校

学校の教育目標	杉の木とともに大地に根を張り ＝朽木の自然と地域の人々とともに ふる里を愛し、ふる里を語れる 幹を太らせ ＝豊かな知識や技能、自分を支える体力、 粘り強い精神力や豊かな人間性を高める たくましく伸びる ＝夢や目標をもち、自分で考え自分で判断し、 たくましく未来を切り拓く
昨年度の評価概要	・「学び合い」や「ビルドアップタイム」の取組は朽木中学校の特徴として発展継続して欲しい。 ・「ふるさと学習」については地域社会の現状を苦しい側面を含め、感傷的ではなく理性的に見つめる知性の涵養をして欲しい。そのことによって、将来のふるさとを創造する愛郷心を育む「キャリア教育」につなげて欲しい。 ・学校は、少人数であることのメリットを活かした学校づくり、人間づくりをしている。生徒一人ひとりはしっかりとした考えや意思を持っている。 ・学校規模が小さく、詳細な目標の達成のためには先生方に負担となる。評価項目、到達目標を精選すべきである。 ・評価をさらにステップアップするためには、学校だけでなく、学校運営協議会も役割を担う力をつけなければならない。
中期的目標	＜中期的（3年間）目標＞ □『学び合い』学習の質的改善 □特別の教科道徳に対応する研修 □朽木を愛する心を育む地域活動の推進 □学校運営協議会、地域学校協働本部との協働 □合同運動会、授業研究会などを通しての小中一貫教育の充実

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
「学習指導」 ■『学び合い』を核に、生徒が意欲的、主体的に取り組む授業の創造	◎「授業がわかりやすい」と答える生徒が90%以上	「わかりやすい」と回答した生徒は96%だが、「授業が楽しい」と回答したのは89%であり、意欲を高めることに対する改善が必要である。	C	B	ICT機器の活用などにより、「わかる喜び」「学習することの楽しさ」を実感できる授業を展開する。	・その教科が苦手でも「キライ」にならないような授業を望む。 ・参観等の様子では学級集団としてのまとまりがあり、学ぶ姿勢もよく定着しているように感じる。
	■全教科で『学び合い』の手法を取り入れた質の高い授業実践	校内研究の取組の１つとして、各教科で生徒が学び合う場面を設定し、言語活動の充実に努めることができた。	B		「学び合い」によって学習が深まること、学習意欲を高められることの研修を今後も積んでいきたい。	
□家庭学習の習慣化	□宿題、自主学習、読書等の家庭学習（週末の課題）が、１日60分以上の生徒が75%以上	「家庭学習を毎日60分以上行った」と回答した生徒は82%であった。到達目標を果たしているが、取組の弱い生徒には個別に指導・支援が必要である。	B		生活習慣チェックの結果も併せて点検し、個別に指導・支援をする。	
■保小中一貫教育による系統性のある学習指導	■年間6回以上の小中合同授業（Build Up Time）の実施 年間6回の保小中合同授業研究会の実施	BUTを6回、授業研究会を8回行った。児童生徒が合同で取り組むことでそれぞれに価値があり、縦のつながりを実感することもできた。	A		BUTの小学生・中学生それぞれの意義を共通理解し、中学生にとっては自己有用感を高めたい。	
「道徳、生徒指導等」 ●いじめを許さない生徒指導の推進	◎居心地のよい学校・学級づくり 90%以上が学校・学級は安心して過ごせると評価	96%の保護者が「学校は過ごしやすい」と回答したが、「安心して過ごせる」と回答した生徒は82%であり、個別に寄り添った支援が必要である。	B	A	教育相談の取組や日常の観察、個別の支援などにより、集団活動の充実に努める。	・スマホを持つ生徒が増えてきているようなので「隠れいじめ」がないよう、親も気をつけるべきだと思う。 ・地域の実態をふまえたキャリア教育については、保護者の思いをくみ取ったり、また、保護者と生徒との合同授業を企画してみると何か得られるものがあるかもしれない。
	●「ストップいじめ行動計画」に基づくいじめ撲滅に向けた取組推進と、いじめ防止対策委員会の開催（毎日）	毎朝15分程度の情報交換会を行い、前日の生徒の様子と、今後の対応について共有している。生徒によるいじめ防止の集会も実施できた。	A		現状の取組を継続し、生徒個々の状況や集団の様子などを細かく把握する。	
○生徒個人に寄り添った教育相談の充実	○SC、MFと連携した、生徒の思いに寄りそった相談活動の充実	スクールカウンセラーには生徒や保護者との面談以外に、その専門性を教員にアドバイスただき、各生徒に寄り添った対応ができた。	A		SC、MFとの連携をしっかりとりながら、個々の生徒への支援や教育相談を行うことを継続する。	
●豊かな人間性・社会性を育む体験活動の推進	●夢や目標の達成のために努力したり、新しいことに挑戦したと答える生徒が75%以上	3年生の全員が肯定的な回答をしているが、1・2年生については肯定的な回答は約65%であり、各学年の状況に応じてのキャリア教育の実践が必要である。3年生については東京方面への修学旅行を、キャリア教育をメインにして行ったことや、そのことを見通した京都での企業訪問等の成果と考える。	C		各学年でのキャリア教育により、将来への夢を持ち、その実現に向けて努力する素地をつくる。	
○道徳の教科化への取組	●系統立てたキャリア教育の推進と充実		A		キャリア教育をメインにした修学旅行を継続し、それまでの各学年での取組を充実させる。	
	○道徳の教科化に向けた職員研修会の実施	校内研究の取組の１つとして道徳の授業の進め方や、評価の仕方について研修を重ねた。評価等、教科化に向けた取組が、指導力の向上につながった。	A		今年度の成果をふまえつつ、授業の展開や評価についてさらに研修を深める。	
「健康の保持、増進」 ▲体力の向上と健康の増進	▲部活動は充実していると答える生徒が85%以上	肯定的に回答した生徒は、1学期には83%、2学期には82%であった。表面的にはしっかりと取り組んでいるが、個別に思いをくみ取る必要がある。	B	B	個別に状況を把握し、きめ細かな指導・支援が活動に生きるよう努める。	・部活動に地域の人や保護者、卒業生に協力を求めてはどうか。 ・生活習慣の改善、定着には家庭との連携が必要。
△望ましい生活習慣の育成	△規則正しい生活習慣の定着	朝ご飯の摂取や時間に余裕を持って登校することなどは約90%の生徒が肯定的な回答をしているが、半数近くの生徒は就寝時刻が遅く、健康指導が必要である。	B		毎日行っている生活習慣チェック表の記入内容を把握し、必要に応じて個別に指導を続ける。	
「自主・自律」「生徒会活動」 ◆自主的、創造的な活動と縦割り活動の活性化	◆「自分磨きタイム」の活動での主体的な取組	体力作りや読書、学習など、それぞれが計画を立てて取組を行うことができていた。今年度からの取組であり、状況を把握して課題や成果を検証しながら継続する。	B	B	目標設定の段階で個別に指導を行い、生徒が自分自身を高める取組にしていく。	・地域の行事に中学生が参加できたことは良かった。 ・縦割り活動により生徒個々に責任感や指導性が養われている。 ・地域とのつながりを持っていてくれることは大変ありがたい。
◇地域貢献活動の推進	◆縦割りを生かした活動（行事・日常・清掃）への取組	行事への取組や日常の清掃活動に加え、自分たちの生活についての話し合いでも、異学年の生徒と熱心に取り組むことができ、お互いを尊重する様子であった。	A		異学年の生徒と共に活動する機会をより多く取り入れ、お互いを思いやる気持ちをさらに深める。	
	◇地域貢献活動に積極的に参加できる生徒が90%以上	積極的な参加に対する肯定的な回答が89%であった。活動内容や、活動に参加することの意義を実感させることについて、検討する必要がある。	B		ほとんどの生徒が積極的に参加できている。今後も継続し、自己有用感の向上につなげたい。	
「つながり響き合う教育」 ▼学びの連続性を重視した教育の推進	▼滑らかな接続を目指す、保小中一貫教育による職員の連携、協力、協働	小中合同授業研究会やBUTの実施、東小学校との合同運動会や西小学校への運動会参加などで連携、協力できた。	A	A	子どもたちがなめらかに保→小→中へと接続できるよう、こども園、小学校との連携を深める。	・たよりでは生徒の様子が伝えられ、わかりやすい。課題を載せてもいい。 ・今後も12年間を見通した子どもの育成のため、保、小、中の一貫した教育の推進をお願いすると共に、個々の成長を期待する。
▽学校と地域の協働による文化の創造と発信	▽学校運営協議会、地域学校共同本部との協働による教育活動の取組	地域学校共同活動推進員のはたらきかけにより、環境整備(花壇、プランターの整備など)に多くの方に協力いただいた。	A		地域の方が学校に入る機会や、生徒が地域に出る機会を今後も大切にしていきたい。	
	▽学校と家庭・地域との連携、学校理解や啓発のための「朽木中だより」「保健だより」「学級通信」等の発行	「学校だよりや学級通信等で学校の様子がよくわかる」と回答いただいた保護者は83%であり、内容について吟味する必要がある。	B		生徒の活動の様子や指導内容などについて、内容を吟味しながら伝えていきたい。	

	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
学校関係者評価	・中身を磨いてさらによい朽木中学校をつくっていってほしい。「朽木中が好き」「朽木中でよかった」と心から言える生徒の割合を100%にすれば、生徒数が少なくても素晴らしい学校になると思う。「どうすればみんなが朽木を誇りに思えるか？」ということを、これからも生徒、先生、地域で考え、議論していきたい。 ・小規模校ゆえ、限られた教職員スタッフで朽木の子どもの健全育成のために尽力いただいていることに感謝する。明確な目標を立て、その実現に向けて実践していただき、ほぼ目標を達成していただいていると思われる。今後も各先生方の持ち味を生かしながら、教職員が一致協力し、やりがいのある教育推進をお願いする。	B	・総合的な学習の時間の取組として、ふるさと学習を行い、3年間のまとめとしての授業を学校運営協議会委員も含め、地域の方たちと行った。その中で、生徒が朽木の現状や朽木の未来について考え、自分自身の行動についても考えられてことは、意義深いものであった。今後もその内容を吟味し、キャリア教育の一環としてのふるさと学習を追求していきたい。 ・地域行事に多くの生徒がボランティアとして参加し、その中で地域の人たちとふれあうことで生徒は多くのことを吸収している。地域の人から認められることで自己有用感が高まっており、今後もその機会を設定することに合わせ、地域と学校との距離感を今以上に縮めていきたい。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式１）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立安曇川中学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
『確かな知性　かがやく良知 たくましい心身』	小中一貫教育の合同学習については小学校と中学校のギャップがなくなり取組になっていることが大変よい。学力向上や進路選択、家庭学習の定着については親も大きな悩みであり、今後も共有しあって歩むしかない。学び合い学習については成果もあり今後に期待する。「ツールドびわ湖」が１５回継続しており、今年も保護者、地域の人たちとつくれたこと、また全国表彰も受けたこともすばらしい。反面危機管理を中心にかなりの負担度があることについては変えていくことも当然である。生徒指導上の課題についてはいじめや防止といじめ対策では、安曇川中学校の丁寧な対応をし、困難な中で時間をかけて改善解決を実現している。部活動に取り組む姿勢がたいへん良く、運動部は好成績であったこと、吹奏楽部が県大会で素晴らしい発表を行ったこと、さらには、陸上やスキーでは全国大会に出場して健闘した。コミュニティスクールについて一定の成果があった．	地域に誇りと愛着をもち 地域に役立ち 貢献できる生徒の育成

評価項目（指導力点）	指標・到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
○小中一貫教育を推進する ・小中一貫した児童生徒の交流と学習指導を充実する。	・小中学校及び3小学校をつなぐ児童生徒の交流活動に取り組み中１ギャップを解消する。	小中教員が小6の生徒を対象に数学、国語、英語の授業を実施した。安曇川中学校の学び合い学習（コの字型、男女4人のグループ、ジャンプ課題）を体験してもらった。また、中学生が指導する部活動体験や大河内さんの道徳授業を行った。 **アンケートでは「たくさんの人と交流できてとてもよかったです。来年も合同学習でも交流をした方が良いと思います。」など、肯定的な感想がほとんどであった。**	A	B	小中連携にとって重要な取組であり、次年度も継続していく。3学期の合同学習については中学校の教科ではなく仲間づくりを目的にした内容を設定する。	アンケートの結果にもあるように合同学習の大いに成果はあったと考える。特に青柳小や本庄小のように小規模校の生徒にしてみると3小学校との交流が入学に向けて安心できる。一方で教職員のアンケート結果を考えると小中一貫教育を進めることの大変さを感じる。改めて9年間でどのような児童生徒を育てたいのか考えてほしい。小学校から中学校卒業時の生徒の姿を描いて小中の教育活動をつなぐことが大事だと思う。学習面では基本的な学習内容や作業の仕方などを整えてはどうか。例えばノートの取り方を統一するとかなどぜひ工夫してもらいたい。
	・小中学校教員による共同研究等の取組を推進し学力向上と教育活動の質を向上します。	小中教員が部会別に、学力向上と心や体の育ちについて協議した。教科指導やキャリア学習など9年間の教育について確認した。課題のある生徒への支援の仕方など成果が出たが、反面、小中の教職員が共通理解して教育の歩調を合わせることの困難さも確認された。 **小学校での学習経験が中学校での活動に役立っていると思う。生徒 89% 保護者 70%** **小中一貫教育は充実していると思う 教師 43%**	B		小中一貫教育の成果を出すために研究部会を再編成する。学び合い学習やキャリア教育など小中で一貫させた教育課程をつくる。	
○確かな学力を育成する ・生徒一人ひとりの学ぶ力を高める。 ・協同的な学びのある授業づくり（聴き合う関係を育て、主体的・対話的で深い学びのある授業）を推進する。 ・学力向上スタンダード8の実践	・年間3回の授業研究をはじめ全教職員が授業交流をすることで生徒の姿から研修を深める。	６月：理科、１１月：英語、１月：社会において授業研究会を行った。職員は生徒の学ぶ姿を語り合い授業改善をすすめた。**先生はわかりやすい授業を行っている 生徒：87% 保護者 63%　ICT活用など効果的な授業を進めている 生徒87% 教師 96%　子どもは授業がわかると言っている 保護者 55%**	A	B	生徒の学びを中心においた授業研究を継続していく。今後も生徒の主体的・対話的で深い学びのある授業づくりをすすめていく。	家庭学習の問題は親に大きな責任はあると言える。忙しいとは言え親も子どもの学習習慣に沿って生活をする必要がある。学校も宿題の出し方について再考してもらいたい。親として自主学習というやり方は疑問に感じることもある。なぜなら得意なことしかしてない。また、答えを渡してしまう課題の出し方もどうかと思う。生徒にしてみるとどうしても写してしまう。長期の休み中に以前は全生徒対象の感想文などの宿題があったが最近はない。デジタルに流れて本も読まなくなった。せっかく朝読書をしていても効果は出にくいと思う。昔は教師のおすすめの本などを紹介してもらっていたが・・・。ユーチューブについて非常に心配な状況がある。１日に何時間も見続けている子どもがいる。小学生や中学生にとってかなり悪影響な内容も多い。親への注意喚起をする必要がある。PTAなど研修を重ねているが一番来てほしい人は来ていない。次年度に課題を残す。
	・学び合い学習（授業形態、課題設定）を定着させる。 ・課題の設定など学びの深まりについて熟議する。 ・ICT活用、教材の工夫によって生徒の探究心を育てる。	学び合い学習は2年目となる。グループ活動や課題に対してより主体的・対話的な授業が進んでいる。ただ、ジャンプの課題についてはどの授業についても徹底できたとは言いがたく、深い学びについても一定の成果と課題が残った。ICTについては教職員の有効活用が目立った。 **学び合い学習に積極的に参加している 生徒 82% 保護者 61% 授業に集中・前向きに取り組めている 生徒80% 教師 68% タブレットを使って効果的な授業が進んでいる 生徒 90% 教師 84%**	B		昨年度2学期から開始した学び合い学習は生徒、保護者、教職員アンケートの結果から一定の成果を出している。ICT活用についてもさらに充実させたい。	
	・基本的生活習慣（学習習慣）を身につける。 ・授業に対する規範意識と意欲関心を高める。 ・家庭学習を定着させる工夫をすすめる。	定期的に生徒指導委員会、教育支援委員会を開催し指導体制を築いた。生徒の自己指導能力を高めた。 **授業に集中できている 生徒 80% 保護者 54% 教師 54 %** **家庭学習が定着している 生徒50% 保護者49%**	B		学習習慣（基本的生活習慣）の定着について、今後も指導・助言を続ける。保護者や地域へも実態を情報発信する。	
○豊かな心を育成する。 ・豊かな情操や規範意識、社会性、人を思いやる心を育成する。	・道徳の時間内容を充実させるとともに、教科化に向け研修を推進する。	令和3年度の道徳の教科化の本格実施に向けて、道徳教育推進教師を中心に研修を深めている。本年度は評価について校内研究を充実させた。 **道徳の学んだことを日々の生活に生かしている 生徒 67%**	A	B	令和3年の完全実施に向けて研修を続ける。授業の展開、指導の工夫、評価の内容についても校外の授業研究などに参加して研修する。	教育課程の改善及びツールドびわ湖を来年度から実施しないことについてあまり批判は聞いていない。今まで保護者や地域として一生懸命参加してくれた人はそれなりにわかっていると思う。職場体験は高評価で何よりである。社会に出て自分のことを自分で表現ししっかり伝えられることはすばらしい。職種を広げることに協力したいが郵便局など個人情報を扱う職場は難しい。高島市の将来を考えるとキャリア教育に医療・福祉の分野の内容を増やしてほしい。社会性を育てることは大変大事である。社会人になっても協調性のない人も多い。
	体験活動を通して、豊かな心（自尊感情、将来への目標をもつ、協調性向上、人への感謝と地域へ貢献）を育みます。 １年：地域探訪　2年：ツールドびわ湖　3年：体験的進路学習、他	充実した体験活動となった。ふる里学習（伝統・文化）、福祉教育、キャリア教育、環境学習、集団づくりにおいて成果を上げた。学校・保護者・地域が一体となって生徒達の社会性を育み、将来を見通す力をつけている。最終目標は高島市を創造できる人材の育成を目指したい。 **文化祭、地域探訪、ツールド、職場体験に主体的に参加した 生徒 96% 保護者 92%**	A		次年度の教育課程の核となる内容である。学校のビジョンを明確にして保護者や地域とも連携をすすめていく。	
○健やかな体を育む ・体力向上と健康の保持増進の基礎となる力を育成する。	・保健指導、食育、保健体育、性教育、がん教育、薬物乱用防止学習をすすめ健康・安全の保持増進を図る。 ・部活動指導による心と体の成長を促す。	健康面・安全面の意識向上を目的に、ゲストティーチャーに講演をいただくことや話し合いをすることで大きな成果を上げた。**給合的な学習を日々の生活に生かしている 生徒73% 保護者 53%** **部活動では日々の活動の充実とともに各大会で健闘し功績を残した。 生徒 91% 保護者 84%**	A	A	健康保持は教育活動の根幹を築く内容として今後も続ける。部活動数や運営の仕方は改善の時期である。	部活動数は減少も止むを得ない。専門で指導する教員もいなくなれば廃部も時代の流れではないか。スポ少のニーズも変わってきている。保護者の思いはこの昔のままであることは課題である。
○支持的風土のある集団づくり ・すべての子どもの多様性が認められる豊かな人間関係を育む ・人権意識が高い集団づくり	・校友会や学級活動を柱にして支え合い高め合える集団づくりを推進する。（学校は楽しい：生徒90%保護者80%）	自主的・自治的・自律的な安中校友会活動を目指した全教職で頑張った。行事や集団づくり、日常活動など学校全体が進む原動力として大きいものがある。学級の雰囲気は学期ごとによくなっている。 **生徒 学校は楽しい 89% 保護者 雰囲気はよく楽しく過ごしていると思う 84%** **生徒 校友会活動をがんばった 64% 保護者 校友会活動は活発である 61%**	B	A	校友会活動は今後も教職員の支援により活性化させる。生徒集団を育て支持的な雰囲気を醸成する。	校友会によるいじめ撲滅運動や学校づくりに向けて生徒集団をリードしていることなどがすばらしい。校友会の活動は内外から注目を浴びている。小学生の女子が中学校に入ったら校友会でがんばりたいという子がいた。これからもあこがれの生徒会であってほしい。生徒指導上の課題について組織的によくやっていただいていると思う。いじめの防止について見逃さない指導や教育相談が機能していることについて先生の苦労が偲ばれる。人権意識の面で生徒の成長が見受けられる。3年生の姿を見ていても互いに認め合う関係もできている。
	・全学年で人権学習を実施し意識を高め、思いやりのある良好な人間関係を育む。 ・教育相談機能をたかめ、いじめ対策委員会を機能させる。 （いじめを許さない：生徒90%） （学級はまとまりがある：生徒80%）	校友会活動のAIB（いじめ撲滅運動）を軸に生徒の主体性を重んじて教育をすすめた。教育相談、生活ノートの機能、学期ごとのアンケートや見守りなどに力を入れた。教師のきめ細かな関わりと危機意識を常に持つことによって成果が出た。いじめ事案はあるが、事案解決のために対策委員会を開催して組織的に対応している。 **生徒 いじめは許されない・していない 95%　保護者 仲間はずれ・いじめを許してない 84%　教師 生徒はいじめをゆるさない・しない態度である 67%**	A		AIB活動の推進と共に教育相談等によるいじめのSOSキャッチを継続させる。人権意識を向上させる取組を継続する。日ごろの諸活動の土台として人権学習を位置づける。	
○地域とともに歩む学校づくり ・学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる体制づくり	・コミュニティスクールを充実し地域教材や人材の活用をすすめる。 ・学校運営協議会と地域学校協働事業を両輪にして生徒の育ちを支援する。 ・安中カフェを進化させ、生徒との交流を深める。	地域学校協働事業Coの働きかけと諸団体、地域の方の理解によって前進した。安中カフェを拠点にして、地域探訪、ツールドびわ湖、職場体験、防災訓練、民生委員面談、地域ボラセン、郷土料理講習会、人権学習、見守り、他ご協力をいただいた。 **地域の活動・ボランティアに参加したことがる 48%　自分からあいさつをしている 生徒 92% 保護者 79%　交通マナー・ルールを守っている 生徒 98%**	A	A	保護者や地域住民の方との一体化した活動で今後も成果を上げる。「開かれた教育課程」の推進についてカリキュラムマネジメントをすすめる。	地域学校協働事業は今年も大いに成果が見られた。安中カフェを中心に地域の方にもっと来校してもらい、生徒との交流を深められたらいいと思う。3学期はかるた大会など地域の方に参加してもらったがボランティアをされた方も生きがいを感じていた。生徒のお礼の言葉などをもらって大いに喜んでいる。

学校関係者評価	総　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	全てのことを総合的に見て今後に期待を込めて評価Bとしていただいた。小中一貫教育の取組について、小学校6年生を対象にした合同学習や部活動体験、中学生との交流について大きな成果があった。しかし、小中9年間で一貫性のある指導を充実させることについては課題を残した。学び合い活動による授業改善については2年目を迎え、校内研を核に教職員が一丸となって推進したことについては評価していただいた。今後も学ぶカを高めることや基本的生活習慣（学習習慣）を定着させること、学力向上については尽力してもらいたいとの要請があった。教育課程の改善及びツールドびわ湖をあたらしい事業に変えていくことについては学校運営委員会では3回、職員会議では何度も話し合いを重ねた。その結果、「新しくキャリア教育をベースにした事業に大いに期待をしている。」との回答を得た。生徒指導（いじめ対応）について１年間詳細な状況を伝え続け、学校全体の指導体制や関係機関との連携、課題生徒のニーズに応じた適切な支援を行っていることに大きな評価を得た。運営協議会委員から生徒会の活動は保護者や地域、小学生からの注目を浴びていることなどのコメントを伝えてもらった。働き方改革についての内容において改善の必要性など多くの意見をいただいた。部活動や生徒への配慮など教員の多忙さに対する理解を得た。地域学校協働本部事業についてはボランティア祭りなど今年度も次々とあたらしい内容がすすんだことに評価があった。今後もさらに期待すると共に協議委員会の方々からもバックアップすることについて前向きな話し合いが進んだ。	B	次年度の小中一貫教育について合同学習などさらに充実させる。9年間でより一貫性のある指導をすすめ,生徒の学びに連続性をもたせ学力向上をめざす。そのために研究部会を再編成する。 3年目となる学び合い活動を推進し成果を出す。校内研で「協同的な学びのある授業づくり（聴き合う関係を育て、主体的・対話的で深い学びのある授業）」をテーマに教職員同志が切磋琢磨する。生徒指導体制をすすめると同時に、生徒の自己決定力を伸ばし、基本的生活習慣を定着させる。 教育課程の改変と共に16年間続けてきたツールドびわ湖を実施しないことについて運営協議会で3回に渡って協議をすすめさせていただいた。今まで学校と保護者、地域が一体となって創り上げてきた要素は踏襲しながら新しくキャリア教育をベースにした体験学習を進める。3年間を通して系統立てたキャリア学習をすすめて、進路や将来の夢、生きる力を身につけさせたい。 次年度も互いに思いやり支え合う集団づくりをめざして校友会活動を活性化させる。特別活動や道徳教育の充実を図り生徒の人権意識を高める。いじめへの取組についても「令和2年　学校いじめ防止基本方針」を策定し取組を徹底する。具体的には生徒指導委員会や生徒支援委員会、いじめ防止対策委員会をさらに機能させ、平和で安全な学校づくりをめざす。 地域学校協働事業についてはコーディネーターの尽力もあり今年度も大きく前進した。課題であった中学生ボランティアについては、安中カフェと校友会役員との交流や地域ボラセンとのタイアップによるボランティアまつりで中学生の力を発揮させるよい機会となった。職場体験をはじめ今年度も多くの方に学校教育活動に対してご協力・ご支援いただいたことに心から感謝し地域に貢献できる生徒を育てていきたい。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式１）

令和元年度 学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立高島中学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
確かな学力と豊かな心を身につけ、 たくましく未来を拓く子どもの育成	〈H30学校評価 概要〉 ○学力（B）…学校生活の充実（A）授業がわかる（B）学習意欲（B）家庭学習（C） ○豊かな心（B）…清掃活動（A）あいさつ（B）時間（A）教員の熱意（B）道徳教育（B） ○健やかな身体（A）…行事・部活動（A）体験活動（B）学校生活の充実（A） ○地域とともにある学校（B）…公開・発信（B）地域学校協働活動（A） ○小中一貫教育（A）…小中の協働（A）教科の連携（A）児童生徒の交流（B） ○学校関係者評価（B）	○「主体的、対話的で深い学び」を実現するカリキュラムマネジメントに基づく授業改善 ○学習規律および基礎基本の習得の徹底 ○道徳教育を基軸とした個性や可能性を最大限に伸ばす指導の充実 ○確かな生徒理解と組織的な生徒指導の充実 ○生徒の主体的な活動の充実 ○家庭・地域とともにある学校づくりの推進

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
○学力の向上	学校生活が楽しく、充実していると感じる生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期、2学期ともに85%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A	B	①生徒指導の機能を生かした授業を展開する。 ②引き続き、タブレット等のICT機器の活用、思考ツールの活用、グループでの活動の導入等の工夫を図り、思考・判断・表現する力の育成を図る。 ③家庭学習の定着のために学習方法や学習課題について、方法や課題等を工夫するとともに個別に相談に乗り、指導助言や補習をする。	・肯定的な回答をしていない生徒の指導をどうするかが課題である。学習規律の徹底を含めた授業改善を図るべし。 ・小学校で一定身についている家庭学習習慣が中学校で不十分になるのは一貫教育の意義を問われることにもなる。したがって、学園としての家庭学習のあり方を定めることが必要であり、うまくいけば、学園のセールスポイントになる。そのためにはPTAとの連携が不可欠である。
	授業がわかりやすいと感じる生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期には88%、2学期には85%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A			
	意欲的に学習に取り組めた生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期には74%、2学期には78%の生徒がAかB評価をしており、増加傾向にあるといえるが、目標には及ばない。	B			
	家庭学習に意欲的に取り組めた生徒（7年70分、8年80分、9年90分） Ａ Ｂ 評価で60%以上	１学期には43%、2学期には50%の生徒がAかB評価をしており、増加傾向にあるといえるが、目標には及ばない。	C			
○豊かな心の育成	清掃活動に協力して頑張れる生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期には86%、2学期には90%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A	A	①多くの生徒に基本的な生活習慣が身についていると考えられるが、社会性が身につくよう、一層、指導の強化を図りたい。 ②生徒と教員との信頼関係については、一定、構築されていると考えるが、なお改善の余地があるので、生徒への関わりについての研修会を設け、スキルの向上を図りたい。 ③道徳科の授業改善を図ることにより、生徒が自分自身について考えるようになった。今後は、学校教育全体における道徳教育の充実を図りたい。具体的には、道徳科と教科等とを関連づけ、9年間を見通した年間指導計画の作成に取り組みたい。	・中学校で育てなおしの必要が生じるのは一貫教育としていかがなものかと思う。したがって、思春期を迎える第2ステージでの教育が非常に重要である。 ・道徳教育は、、授業スキルを高める以前に、学園の職員が、学園の子どもたちをどのように育て、どのような大人になってほしいかを共有することが必要である。
	家庭、学校、地域でしっかり挨拶ができる生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期には92%、2学期には89%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	B			
	教員が親身になって質問や相談に応じてくれると感じている生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期には88%、2学期には87%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A			
	学校生活が楽しく、充実していると感じる生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期、2学期ともに85%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A			
	道徳科の授業の充実を図る。 Ａ Ｂ 評価で80%以上	87%の生徒が、「道徳の勉強はためになると思う」と回答した。また、86%の生徒が、「道徳では、ほかの人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えている」と回答した。	A			
○健やかな身体の育成	行事や部活動に満足している生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期には85%、2学期には78%の生徒がAかB評価をしており、減少傾向にある。	B	A	①活動の充実を図るため、部活動を再編し、部活数を減らすことについて検討する。 ②教室ではできない学びを実現するために、明確な目的のある自然体験活動等の体験活動を一層充実させたい。	・生徒数の減少を鑑み、部活動の再編はやむを得ない。 ・部活動の活動日数、時間が制限され、部活動の意義・目的を十分に達成できない状況で、生徒も不完全燃焼ではないか。 ・全校自然体験活動等の体験活動は大変よい活動である。
	体験学習や体験活動に満足している生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	87%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A			
	学校生活が楽しく、充実していると感じる生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期、2学期ともに85%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A			
○開かれた、 信頼される学校づくり	学校、学園情報を定期的に発信し、保護者や地域の人々の来校機会を数多く設定する。	１学期には84%、2学期には85%の保護者がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	B	B	①各種通信やホームページで随時、情報発信した。適切な来校の機会の設定や内容を検討したい。 ②地域住民の招へいを図るとともに、生徒の地域貢献活動を持続可能なものとしたい。	・地域貢献活動には大きな意義があるので、100%の達成を目指してほしい。 ・ホームページが随時更新されるのは大変よいことである。
	学校運営協議会と地域学校協働本部を拠点に、地域人材の積極的な活用とともに、地域貢献活動を拡充する。	77%の生徒が、のべ408回、地域行事やボランティア活動に参加した。また、学校行事等に保護者や地域住民の参加を得た。	A			
○小中一貫教育の推進	「子どものつながり」「学習のつながり」の充実を図る。	教科担任制については、教員が専門性を発揮し、中学校の学習につながることを踏まえた指導ができた。各ステージの活動については改善する必要がある。	B	B	①各ステージの活動の在り方や内容を検討したい。 ②道徳科の授業改善を図ることにより、生徒が自分自身について考えるようになった。今後は、学校教育全体における道徳教育の充実を図りたい。	・一貫教育は子どもを育てるための手段であるので、状況に合わせて改善すればよいのではないか。
	小中合同による道徳の授業研究会の定期的な実施により、指導力の向上を図る。	87%の生徒が、「道徳の勉強はためになると思う」と回答した。また、86%の生徒が、「道徳では、ほかの人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えている」と回答した。	A			

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・常々、生徒のために、試行錯誤しながら努力していることに敬意を表す。高島市内唯一の隣接型一貫校としての難しさはあると思うが、そのメリットを最大限に活かしてよりよき学園にしてほしい。 ・地域貢献活動やMyCity高島等で地域の方々とともに活動する機会や全校自然体験活動などの高島の自然環境に触れる機会等が多く設定されており、そのことが郷土を愛する心の醸成につながっている。 ・今年度は、特に大きな問題もなく、教育活動を着実に推進していることに感謝と敬意を表す。 ・人を変えるより、自分を変えるほうが易しいと言われるが、教員自身が変化して子どもを導く時代なのではないか。子どもを導く存在であることを先生方が改めて自覚し、自分自身の変容をおそれることなく、教育活動に取り組んでほしい。	B	・学園としての家庭学習のあり方を再検討する。特に、「夢ノート」の活用の仕方を改善する必要がある。また、PTAの理解と協力が不可欠なので、十分に協議したい。併せて、スマートフォンおよびゲームの依存症にかかる指導の必要がある。生徒会活動でも何らかの取組をすることを検討する。 ・道徳教育の研究において、育てたい子ども像を学園で共有し、授業スキルの追求のみに陥らず、子どもの心に何らかの変容がある授業改善に努めたい。 ・地域貢献活動や全校自然体験活動のさらなる充実を図り、将来、社会に参画しようとする社会性を育てたい。 ・小中一貫教育においては、第2ステージの活動が鍵を握るので、大胆かつ積極的に改善を図りたい。 ・部活動の再編による適正化を図り、その教育的意義を果たすよう努めたい。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式１）

令和元年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立湖西中学校

学校教育目標	<学校教育目標> 「心豊かで、たくましく生きる生徒の育成」 <めざす子ども像> 「他を大切にしながら、自ら考え、仲間とともに主体的に学ぶ生徒」 <めざす学校像> 「活力と思いやりがあふれる学校」

昨年度の評価概要	◇学校教育目標は達成できた。挨拶・学力等のアンケート結果の数値は高い。朝の登校時の生徒の様子は変容した。全体的な落ち着きもある。コミュニティ・スクールが始まり、地域学校協働活動で、具体的な取組を数多く取り入れたことが関係している。正につながり響き合う教育の実現である。「学而事人室」と名付け、郷土の先人の教えにより学校づくりを実践したことは、生徒によく響いた。2年目になるコミュニティ・スクールで、さらに工夫を期待する。 ◇新旭地域のよさを学んだり、体験活動を通して実感したりする教育活動が積極的に進められている。引き続き、将来地元で活躍できる人材の育成に努めてほしい。 ◇学校の情報をより積極的に発信し、地域・家庭・学校が、将来の新旭町の未来を担う子どもたちの健全な育成に務め、「まちづくり」から「まちの価値づくり」へと、さらに力強い教育活動を期待する。

中期的目標	□豊かな心を身につけ、認め合い、支え合い、共に成長する集団の育成 □学んだことを地域社会の中で生かす社会性の伸長（学而事人） □社会的規範の高い意識が身に付いた生徒の育成 □学校や地域に誇りがもてる教育活動の展開 □授業で活動の質を高め、自ら進路を切り拓く学力の育成

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
〇豊かな心を育む教育活動 ・生徒理解の充実 ・個を大切にした生徒指導の推進 ・いじめのない学校づくり	・さわやかなあいさつが飛び交う学校づくりを目指します。	『学而事人おはようミーティング』が2年経過し、大きな成果が出た。コミュニティ・スクールの力強い推進で、そのねらいである「学校を核としたまちづくり」が実現している。生徒の「さわやかなあいさつ」が、学校内外で飛び交っている。学年（年齢）が上がるほどできているのは、保幼小中一貫教育の先進地であることとも関係している。全学年で生徒は１学期より2学期が「できている」と答えている。	A	A	・CS2年目で、あいさつは昨年以上である。一言添える生徒が多くなり、地域からは、「中学生気持ちよいあいさつしてくれた」という嬉しい知らせが、大多く届いた。保護者からの「あいさつをする中学生が、少なくなった」には、学校外の場所で気持ちの良いあいさつができるよう指導をする。『学而事人おはようミーティング』と、生徒会によるあいさつ運動を継続していく。 ・いじめに対し、全職員が高い危機意識を持ち、早期発見・早期対応に努める。生徒自らが取り組む「いじめ撲滅運動」を、さらに高める。 ・教職員と生徒のより高い信頼関係がを構築できるよう、生徒との対話を増やし続ける。	・『学而事人おはようミーティング』と呼んでいる毎朝の生徒の出迎えは、地域学校協働活動の核である。コミュニティ・スクール初年度は、あいさつを主としていたが、やがてサポーターであるむくげの花の会のメンバーの話し合いの場となり、今では、むくげの花の会と教職員、むくげの花の会と生徒の大切な場である。学校の昇降口が、地域のコミュニティとなり、人々の気持ちが通じる心温まる場所に発展した。あいさつ、時間を守る、掃除をしっかりとするの3つの行動目標が、自然と達成していった。学校の落ち着きや他の学校との格段の違いを多くの人が認めるまでになった。こうした素晴らしい変化とともに、生徒のいじめ撲滅運動においても、主体性をより高めた。「学而事人相談」が充実し、要望は高まる。
	・あらゆる機会を通して、生徒とのふれあいを大切にします。	『学而事人おはようミーティング』で、地域の方と必ず毎朝ふれあっている。「地域の全ての力を学校に」で、むくげの花の会の会員を含め、今年度2,600人（目標3,000人）を越える地域の方が学校に入った。豊かな心を育む教育活動がたくさん行えた。「学校を核としたまちづくり」から「まちの価値づくり」の実現を、生徒も実感している。他地区からの高い評価も得られるようになっている。	A			
	・学級や部活動において、いじめのない集団づくりに努めます。	「いじめをしないさせない」が、2年生徒、2学期は91％である。100％をめざす。「安心な学校」では、3年保護者の15％が「そうではない」と回答している。いじめ防止や早期発見対応に、厳しく取り組んでいるが、十分でないという結果である。確実になるまで、力をかけ続けなければならない。「先生との相談や話」が、できていると感じている生徒が85％である。個を大切にした関わりを充実させる。	B			
	・いじめをなくすための生徒会活動の活性化を図ります。	いじめをなくす生徒会の活動は、凄さを感じる。昨年、滋賀県人権のつどいで、生徒会がいじめの生徒会の取組を発表し、高い評価を得た。今年度の生徒会も、凄さを引き継いでいる。さらに、次期（次年度）生徒会役員が、さらに取組を向上させている。生徒集会や学年学級での、生徒主体のいじめの活動が、年々、素晴らしくなっている。「むっちゃ良い雰囲気」の大きな要因である。	A			
〇確かな学力を育む教育活動 ・学力向上の取組の推進 ・教え合い高め合う授業づくり ・家庭学習の習慣化 ・保幼小中一貫教育の推進	・授業時間数の確保に努めます。	年間授業時数達成に、計画的に教育課程を進めてきた。年度末の全国一斉臨時休業で、100％を越えない教科もある。英語では少人数指導を行っており、年間を通した完全少人数指導である。行事の精選が大きく進み、授業を中心とした教育活動を目指している。夏季休業中の授業日の設定や定期テスト日のテスト終了後の授業等で、欠時の出ない時間割を組んでいる。	A	A	・全国学力・学習状況調査結果は前年度各教科それぞれの平均が国県並みであったが、今年度は全国県平均を下回った。コミュニティ・スクールの推進、地域学校協働活動により、前年度以上に地域の力で補充学習等行っいる。学年による学力の差の解消は、長年に渡り挑んできたが困難である。今年度初めて導入された英語の「話すこと」の調査では、高い結果が出た。高島市が以前より変わらず力を入れている小学校での英語活動や英語指導助手の配置、東京学芸大学連携等による成果の現われてある。取り組み方次第で、学力の向上を実現できるということである。授業改善に力を入れること、基礎学力の定着のための学習補充に、引き続き取り組む。タブレットの導入後、積極的に活用し、学習意欲が向上している。有効な内容での活用の研究をさらに進める。 ・学習規律は、改善がますます進んでいる。道徳教育の研究は、引き続き校内研究の中心とする。 ・低学力生徒への、個々への関わりの質を高め、学力の向上を目指す。	・学力向上は長年に渡る深刻な課題であり、保幼小中一貫で、これ以上ないぐらいの取り組みを行っている。全国学力・学習状況調査で、昨年は全国平均並みであり、ここ数年では全国平均を完全に超える学年も出ているということ。一定の成果が出ている。どの学年もという安定した力をつけさせること。今年度、英語の「話すこと」が始めて全国学力・学習状況調査で実施され、非常に高いという結果を得たのは、高島市が小学校からの英語に力を入れてきたことや、本校の二つの学年での少人数指導の成果である。学而事人室により、地域の力による学習会が多く開催されたり、3年生の高校教員経験者による入学試験の模擬面接等、あらゆる方法で生徒の学習意欲を向上させている。学校が落ち着き、真剣に授業に臨む生徒が増えている。保幼小中一貫教育や校内の授業改善、学而事人室の働きかけ等、生徒に確かな学力を身につけるための取組を、数多く行ったのはよかった。アンケート結果で、家庭学習時間が短い生徒が多いが、塾での学習はカウントしていないようだ。アンケートの取り方を考える必要性を感じる。塾を積極的に認めることにならないように。授業改善の様子は、よくわかる。
	・「めあて」を明示し、「振り返り」を行う授業づくりに努めます。	どの授業も徹底して行っているが、90％を越えているのは、1年生の2学期のみである。2年生では、1学期では18％が意欲や関心が持てないと回答している。2学期は改善傾向ではあるが、90％には届いていない。3年生は、2学期に下がっている。学習指導に関する保護者回答で、満足は80％に満たない。あてての明示と振り返りは、学習活動に欠かすことができない。充実させる必要がある。	B			
	・課題の発見や解決に向けた主体的、協働的な学びを推進します。	今年度途中から導入のタブレットを、市内、いち早く授業において積極的に活用し、生徒が進んで仲間と一緒に考える活動を行った。タブレットを活用した授業は、手探り状態からの研究であり、導入以前より活用に意欲的であった教員が、他の小中学校へ授業を公開した。課題解決への主体的取組の回答は、全学年全学期90％を越えており、新学習指導要領に向けて取り組んだことの成果が出ている。	A			
	・ペアやグループでの学び合う活動の充実を図ります。	新学習指導要領移行の研究を進めている。授業改善では授業形態の工夫を、どの教科でも進めている。ペア学習やグループ学習、グループ学習ではグループの人数等、それぞれの内容で最も効果的な活動を研究し、実践してきた。2年生の1学期では99％、1年生1学期97％、そして、全学年全学期90％を越えている。現取組が生徒の意欲の向上になっていると捉え、さらに、研究を進めていく。	A			
	・保幼小中の連携を図り、学習規律の定着や家庭学習の習慣化を図ります。	2年生の1学期、99％が学習規律がしっかりとしていると回答している。全学年、毎学期、95％以上と高い。全校が非常に落ち着いており、授業での姿勢は素晴らしい。保幼小中で一貫して力を入れている成果である。家庭学習に課題のあるところは、今後、力を入れていかなければならないところである。落ち着きが無いという課題があった3年生が、96％できていると回答しているところは素晴らしい。	A			
〇健やかな身体を育む教育活動	・部活動の活性化を図ります。	運動における各種の大会結果が、非常によかった。ソフトテニス女子個人での県体優勝や、駅伝市大会の男女とも優勝での県体出場、男子チームに至っては県で5位となり近畿大会出場、これらを始めとする数々の素晴らしい活躍と結果であった。大会会場での姿勢は、ずば抜けて良かった。まさに健やかさにおける見本である。体と心が育っていることがわかる一年であった。	A	A	・2年生から3年生にかけて、スポーツにたいへん意欲的に取り組み、課題の解決にもつながった。自ら意欲的に取り組むよう関わりを続ける。	・昨年は、2年生の充実度に落ち込みが論議された。今年の結果は違い、2年生は良い結果である。3年生はたいへん活躍した。つけた力を確実に発揮したと言える。
〇自然や地域と共生する力を育む教育活動 ・郷土の自然・歴史・先人の学習 ・地域資源の有効活用 ・地域に信頼される学校づくり	・地域の方々の協力を得て、郷土のよさに触れる体験活動を実施します。	保護者アンケートに「地域の方の力を感じる1年でした」とある通り、常に「学校生活に自然と地域が関係してくる」という学校になっている。生徒が湖西中学校と新旭を誇りに思うようになっている。3年生の2学期で、体験活動が84％まで落ち込んでいるのは、2学期に全体の活動が無いことによる。その他の学期は、他学年含めて90％を越えている。	A	A	・コミュニティスクール・地域協働活動2年目で、体験活動がより充実し、学校が大きく変わった。学而事人の実践ができるよう取組を進める。 ・「地域の全ての力を学校に」と「学校を核としたまちの価値づくり」により、日本一を目指すため、さらに工夫した活動を行う。 ・保護者や地域に、学校の様子を発信するための工夫を行う。 ・2年目には『学而事人ファーム』が進んだ。3年目は『学而事人の道』の整備を進める。 ・1階から3階までの廊下を『学而事人ミュージアム』とし、地域交流の場とする。	・コミュニティ・スクール2年が経過し、「地域の全ての力を学校に」が、強く感じられるようになっている。学而事人室が地域学校協働活動を、他ではできないほどに質の高い取組を推進した。清水安三先生の教えである学而事人を、生徒が実践していることがよくわかる。また、コミュニティ・スクール1年目から2年目の発展が見えることが素晴らしい。3年目にどのようにしていきたいかも伝わってくる。学校を核としたまちづくりから、まちの価値づくりになっている。「湖西中学校良い」という評判を聞く。生徒自身も聞いているということだ。生徒が、自分の学校や地域に自信・誇りを持っている。「湖西中学校うらやましい」の声も聞くことがある。
	・地域の指導者とともに行う教育活動を積極的に取り入れます。	1・2年保護者結果では、2学期には95％以上が地域の方の授業を良かったと回答している。3年保護者は88％ではあるが、全学年で1学期より2学期の方が高くなっている。生徒の結果では、地域の方の話に関して、3年生の2学期が94％、その他、全て95％以上と相当高い結果である。コミュニティ・スクールが発展し、地域学校協働活動の充実が要因としてあげる。	A			
	・学校での生徒の様子を保護者や地域に発信します。	20％程度の保護者が、あてはまらないと答えており、十分でないことがわかる。学級学年保健をはじめ各種通信は、適切な時期に出しているが、信頼される学校づくりのために、学校だよりをさらに増やしていく必要がある。「ホームページの更新を」という記述があるが、現在のシステムでは相当困難であり、昨年のようにはいかない。市内統一のホームページ作成が行えるよう改善の必要がある。	B			

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	いじめの深刻な学校のイメージが、コミュニティ・スクールを2年間推進し、大きく変わった。今年度の生徒の落ち着きや、地域での活動は、素晴らしい。保護者アンケートに、「湖西中学校、むっちゃ雰囲気が良い、数年前に比べて」とある。1年生の保護者であることが大きい。安心して子どもを任せることができるということである。子どもの学校生活の充実度も、非常に高い結果が出ている。郷土の偉人である清水安三先生の『学而事人』の教えを大切にし、生徒は、その教えの意味「学んだことを世の中のために生かす」という実践を、しっかりと行っている。毎朝、必ず行っている『学而事人おはようミーティング』が、学校での活動はもちろん地域が変わることにも、大きな役割を果たしている。今年度は、学而事人ファームや学而事人の道、学而事人の市、学而事人ミュージアム等の『学而事人〇〇〇〇』をたくさん作ってきた。コミュニティ・スクールとなり、湖西中学校が地域に影響を与える学校となっている。生徒の学校内での変容も大きい。学校内における各種集会や学校外での姿勢の良さは、誰もが認めるまでになっている。授業の学習規範は、生徒の自己評価「しっかりできている」が、どの学年も非常に割合が高い。他校と明らかに違い、生徒が自分の学校を誇りとしている。	A	生徒の変容は、非常に大きい。3年生は、3年前にいじめという課題を抱えて入学してきた。郷土の先人である清水安三先生の教え『学而事人』で、コミュニティ・スクールを推進し、学んだことを世の中のために役立てるという『学而事人』を、3年生中心に、生徒はよく実践した。地域での活動が多くなることで、地域の大人との活動が生徒の意識の変化につながり、日常生活を充実させていった。『学而事人』を生徒が、さらに多く実践すること、学而事人を意識したまちづくりが、次に求められる。令和2年度よりキャリアパスポートが始まる。生徒が、将来を考えることで、今の生活が頑張れるように、取り組んでいく。学而事人ファームで地域の大人の方々と一緒に活動することで、経営方針に掲げた「なりたい大人」とふれあうことで学んでいく。学而事人の道を、生徒の日常生活で意識させる。生徒の多くが学而事人の道で登校する。「今日一日、自分の力をみんなのためにどう役立てるか」を、考える道にしていく。学而事人ミュージアムは、日常的に生徒と地域全体の発表の場とする。『学而事人おはようミーティング』は、学而事人室を中心に行う地域学校協働活動の核となっている。一日も欠かすことなく、次年度も続ける。地域の方による学力向上にも、取り組んできた。さらに続けていき、高い成果を出していきたい。県立高校の再編の初年度になる。どの学年においても、高校入試を意識した取り組みを、地域の力を借りて行っていきたい。

４段階評定（A　目標を十分に達成　B　ほぼ目標を達成　C　やや不十分　D　改善を要する）